

生命、羊毛整製、日出蠶業各株式會社重役として知らる。

夫人をイソ子と呼び東京府の人伊勢重次郎君の令妹にして君との間に四男一女あり、現に東京市牛込區辨天町一七番地に住し電話牛込二六九番なり。

廣橋彌太郎君

大和織物株式會社常務取締役

君は奈良縣の人廣橋平治郎君の長男にして、明治八年十月を以つて生る。現に大和織物株式會社常務取締役たる外奈良新温泉株式會社の重役にして、且つ奈良縣多額納税者として直税二千二百二十余圓を納む。

夫人をフジ子と稱し奈良縣の人岡田平治郎君の令姪たり、現に奈良縣北葛城郡箸尾村に住す。

神藤利政君

日東炭礦株式會社常務取締役

君は神奈川縣の人神藤利君の長男にし

心齋橋筋二ノ三三番地に住し電話南三七三番なり。

鹽谷良吉君

秋田木工株式會社常務取締役

君は秋田縣の人鹽谷長兵衛君の二男にして、明治六年八月を以つて生る。夙に東都財界に投じて敏腕を振ひ、現に秋田木工株式會社常務取締役たる外秋田土地信託株式會社監査役たり。

夫人をナホ子と呼び秋田縣の人榊田清兵衛君の二女たり、現に東京市外濫谷町中濫谷三〇七〇番地に住す。

平尾賛平君

株式會社平尾贊平商店社長

君は東京府の人先代平尾贊平君の長男にして、明治七年八月を以つて生れ、後ち前名貫一を改稱す。明治二十六年慶應義塾大學理財科を卒業す。

然して後ち歐米各國を歴遊して具さに彼の地の經濟狀況を視察見學して歸朝し

て、明治十一年二月を以つて生る。現に日東炭礦株式會社常務取締役たり。

夫人をトキ子と稱し東京府の人小倉時次郎君の三女にして君との間に利一君、英保君、正七君、文雄君及びトキ子、治子、幸子等あり、現に東京市外西巢鴨町向原三四八二番地に住す。

平林秀吾君

安曇電氣株式會社取締役

信濃鐵道株式會社取締役

君は長野縣の人森本省一郎君の令弟にして、明治三年十月を以つて生れ、後ち先代歡次郎君の養嗣子となる。

現に安曇電氣株式會社取締役たる外前記會社の重役にして尙ほ長野縣多額納税者として直税一千九十余圓を納む。

夫人をあや子と稱し養父歡次郎君の長女たり、長野縣北安曇郡大村に現住す。

椎橋徳次郎君

株式會社淺井商店事務取締役

淺井保財株式會社監査役

君は東京府の人山西忠吉君の令弟にして、明治十三年十一月を以つて生れ、後ち先代徳次郎君の養嗣子となり前名隆吉を改稱す。

夙に東洋協會植民專門學校を卒業するや直ちに財界に投じ、現に紀伊國屋と稱し鐵物商を營み尙ほ前記各會社の重役たり。

夫人をてい子と稱し君との間に二男あり、現に東京市日本橋區大傳馬町二番地に住し電話浪花五六〇二番たり。

平泉平右衛門君

大阪府多額納税者

君は大阪府の人平泉平右衛門君の二男にして、明治十二年五月を以つて生る。現に大阪府多額納税者として直税四千六百八十余圓を納む。

夫人をハナ子と稱す、現に大阪市南區

明治三十八年以來レート化粧料の本舗として知られ、其の製造發賣にかゝる各種化粧料は今や東西を問はず、貴顯紳士淑女の別なく廣く愛用せられ、正に斯界の霸王として喧傳せらるゝに至りしは蓋し君の多年の奮闘と研究の結果たらざるばあるべからず。

君今や同社々長として内外の社務を執掌し本邦斯界の第一人者として令名内外に普ねし。

夫人てう子は静岡縣の人野崎衛七君の三女にして君との間に贊之輔君、貫二君、貫三郎君、貫四男君、賢吾君、賀六君及び貴美子、富貴子、久子等あり、現に東京市日本橋區馬喰町一ノ六番地に住し電話大手六一番なり。

庄司兵藏君

秋田縣多額納税者

君は秋田縣人庄司兵藏君の長男にして、明治二十年九月を以つて生る。當家は縣下資産家として知られ尙ほ秋

田縣多額納税者にして直税一萬九百六十余圓を納む。

夫人いね子は秋田縣の人佐々木乙吉君の長女にして君との間に三男あり、現に秋田縣北秋田郡前田村に住す。

平井文三君

東京府多額納税者

君は茨城縣の人平井惣太郎君の令弟にして、明治十八年五月を以つて生る。

現に平井商店と稱し東京米穀商品取引所取引員にして、且つ東京府多額納税者として直税七千四百七十余圓を納むるを以つて知らる。

夫人をとり子と稱し埼玉縣の人今井虎六君の令妹たり、現に東京市日本橋區龜殼町一ノ二番地に住し電話浪花三四九五番なり。

庄司乙吉君

東京紡織株式會社取締役

君は秋田縣の人庄司龜治君の令弟にし

て、明治六年五月を以つて生る。現に前記會社の重役たり。

夫人をヤイ子と稱し東京府の人北島巨君の養妹にして君との間に三男五女あり現に兵庫縣武庫郡住吉に住す。

平野猷太郎君

從三位勳二等 判事

君は岡山縣士族平野耕耘君の長男にして、慶應元年七月を以つて生る。明治二十五年東京帝國大學法科大學を卒業す。

斯くて職を官途に奉じ、爾來、京都神戸各地方裁判所檢事、司法省參事官兼檢事、大阪名古屋各控訴院檢事等を歴任し以つて現在に及ぶ。

夫人千年子は岡山縣士族片山捷之進君の長女にして君との間に三男一女あり、現に東京市外入新井町新井宿二一九二番地に住す。

白本周次郎君

愛知縣多額納稅者

君は愛知縣の人先代梅吉君の長男にして、明治十年七月を以つて生る。現に志那忠支店と稱して中京一流の旅館業を営み、尙ほ愛知縣多額納稅者として直税二千六百四十余圓を納む。

夫人をのぶ子と稱す、現に名古屋市中區彌宜町一〇三番地に住し電話長本局一九九番なり。

平田榮二君

伯爵 正五位

勳章

當家は先代東助君より家名を揚ぐ。東助君は舊米澤藩士にして、明治初年露國及び獨逸に留學し歸朝後大學南校大舍長に擧げられ、明治四十一年大藏兼太政官少書記官に任ぜらる。

爾來、法制局部長、樞密院書記官長、樞密院顧問官、法制局長官等を歴任し、明治二十三年貴族院議員に勅選せられ明

治三十四年農商務大臣に親任し、翌年勳功に依り華族に列し男爵を授けらる。

斯くて後ち再び臺閣に列して内務大臣に親任し、明治四十四年挂冠するに先立ち子爵に陞爵せらる又外交調査委員、臨時教育會議總裁、濟生會副會長、學習院評議會會員等に推され、大正十一年内大臣に任じ同年伯爵に陞爵せらる。

然して大正十四年三月病軀の故を以つて之れを辭し、特に前官の禮遇を賜はりしが同年四月返子鳴鶴山莊に於て長逝し位階正二位勳一等に叙せらる。

君は其の二男にして、伊東祐彦君の從弟君に當り、明治十五年二月を以つて生れ大正十四年家督を相続すると共に襲爵仰せ付けらる。夙に東京美術學校を卒業して研鑽するところ多年、今や松堂と號して本邦書壇に令名あり。

夫人を靜子と稱し子爵前田利定君の令妹たり、現に東京市神田區鈴木町一一番地に住し電話大手七三五九番なり。

庄司 廉君

米子銀行取締役

君は鳥取縣士族庄司昇造君の二男にして、明治二十年四月を以つて生る。夙に地方財界及び操觚界に令名を鳴らし、現に前記の外山陰日々新聞、境電氣、博愛病院各株式會社の重役にして、且つ鳥取縣多額納稅者として直税二千九百十餘圓を納む。

夫人を清子と呼び鳥根縣の人木村吉郎君の令妹たり、現に神奈川縣足柄下郡酒匂村に住す。

平山 午介君

臺灣拓殖製糖株式會社取締役

君は茨城縣士族平山貞吉君の三男にして、明治三年四月を以つて生る。現に前記會社の重役たる外高砂興業製糖株式會社取締役にして、曩に逓信省貯金局管理所に勤務せしことあり。

夫人はつる子は和歌山縣の人小西徳松君の長女にして君との間に二男一女あり

現に東京市麻布區本村町二〇〇番地に住し電話高輪二四九九番なり。

島 安次郎君

工學博士 正五位勳三等

君は和歌山縣の人島吉兵衛君の二男にして、明治三年八月を以つて生る。明治二十七年東京帝國大學工科大学機械科を卒業す。

然して參宮鐵道會社技師となり、後ち關西鐵道會社汽車課長より同三十四年逓信技師に任じ、同三十六年日本鐵道會社に入り歐米へ渡航し翌年歸朝す。

後ち明治四十一年帝國鐵道廳技師に任じ同四十二年東京帝國大學工科大学教授を兼任し更に鐵道院理事に任じ工作局長に補せられ、大正七年技監に陞進す。

夫人順子は滋賀縣の人原田金之祐君の二女にして君との間に秀雄君、茂雄君、邦雄君、恒雄君及び和歌子等あり、現に東京市芝區高輪南町四四番地に住し電話高輪九七五番なり。

平井 權七君

中央土地株式會社社長

平井合名會社社長

君は京都府の人平井うた子の令弟にして、明治十七年四月を以つて生れ、同三十年十二月先代權七君の養嗣子となる。

明治四十二年慶應義塾理財科を卒業す。斯くて直ちに實業界に投じ現に前記の外歐亞通商、小畑商工、日本硬化煉瓦、相互運輸倉庫、旭家具裝飾、松竹キネマ各株式會社の重役たり。

夫人をタマ子と稱し君との間に三男一女あり、現に京都市上京區衣棚通出水下ノ常泉院一三三番地に住す。

進 藤 紫朗君

八千代海上火災保險株式會社取締役

君は東京府の人進藤春吉君の三男にして、明治二十二年一月を以つて生れ、大正九年九月先代はる子の後を承けて戸主となる。現に八千代海上火災保險株式會社取締役たり。

夫人をゆき子と稱す、現に東京市京橋區五郎兵衛町一六番地に住す。

廣川 貞吉君

新潟縣多額納税者

君は新潟縣の人廣川貞吉君の長男にして、明治十一年一月を以つて生る。

現に三條銀行取締役に於て且つ新潟縣多額納税者として直税七千九百六十餘圓を納む。

夫人をハル子と稱し新潟縣の人山崎忠太郎君の養妹たり、現に新潟縣南蒲原郡三條に住す。

篠崎 友三君

中央セメント株式會社專務取締役

セメント工業株式會社取締役

君は栃木縣の人篠崎平一君の四男にして、明治元年一月を以つて生る。明治二十五年東京高等工業學校窯業科を卒業するや直ちに財界に投ず。

斯くて北海セメント株式會社に入社し

篠原 三千郎君

服部時計店取締役

田園都市株式會社取締役

君は岐阜縣の人鈴木錢次郎君の二男にして、明治十九年三月を以つて生る。明治四十四年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業す。

現に東都財界にありて令名を馳せ、前記各會社の重役たる外服部貿易、目黒蒲田電鐵各株式會社の重役たり。

現に東京市小石川區金富町四七番地に住し電話小石川一一五三番たり。

平泉 喜八君

北秋木材株式會社常務取締役

君は秋田縣の人平泉六助君の長男にして、明治二十一年三月を以つて生る。現に北秋木材株式會社常務取締役にたり。

夫人をタカ子と稱し秋田縣の人島出儀八君の令孫たり、現に秋田縣北秋田郡大館に住す。

平野 光雄君

日本茶精株式會社取締役

東京衛造材料會社取締役

君は静岡縣の人平野房次郎君の二男にして、明治十四年一月を以つて生る。明治四十三年慶應義塾大學政治科を卒業す。然して直ちに實業界に投じ、現に前記の諸職にありて知らる。

夫人ひで子は静岡縣の人笠井胤次郎君の三女たり、現に東京市芝區白金今里町九六番地に住し電話高輪二〇二二番たり

平岡 正次郎君

化學化粧品品の權威

平岡化學研究所長

今や本邦化學界就中、一般化學應用化粧品の研究製造家として、嶄然頭角を現はし、斯界に於ける新進の聞えあるを我が平岡研究所長平岡正次郎君となす。

君は舊小笠原藩士にして、馬術の達人を以つて令名高かりし祖父平岡彦左衛門君の令孫にして、明治十一年一月を以つて生る。夙に慶應義塾に學び、後ち獨逸人ウインクラー氏に就きて一般商事經濟に關する學理と實際とを修得すること六ヶ年、更に理化學化粧品品の製造を研鑽すること數年、其の造詣すること蓋し淺からざるべし。

斯くて聘するがまゝに三共製菓株式會社に入りて恪勤すること十二年、同社營業部長として君の敏腕を縦横に振展して同社の發展に盡瘁すること甚大なりき。然して、後ち同社を辭して獨力以つて花月洗粉の製造を開始し、後ちニード商

會を設立してニード洗粉其他ニード化粧品品の製造に盡瘁せしも、同社社長との折衝面白からざるに慨して同社を辭す。

斯くて大正七年奮然として起ち、獨力以つて平岡化學研究所を開設して一般高級化粧品の研究と製造とに専念し、今や同所の製造にかゝる各種化粧品は斯界に令名高く、其の品質の優秀なると、其の製造高の大量なると、其の賢實なる營業方針とは、能く斯界に伍して本邦同業者を壓するのみならず、君のモットーとも謂ふべき、外國品の輸入抑壓に絶大なる力を有し、正に新日本斯界の權威として前途を嚆望せらる、蓋し君の全人格の象徴とも謂ふべきなり。

今や竹田宮家、北白川宮家、東久邇宮家を初め奉り諸名家の御用命を恭ふし、而も各宮家の御用技師として斯界に活躍する君の前途又洋々たりと謂ふべし。夫人トル子は名にしあふ京都一力亭の主人杉浦次郎左衛門君の長女にして、君との間に一男あり、現に東京市外中澁谷

町宇田川九四一番地に住し電話青山四四八番たり。

島 芳藏君

共益不動産株式會社監査役

君は大阪府の人奥野平太郎君の令弟にして、明治九年八月を以つて生れ、後ち島郁太郎君の養嗣子となる。

明治三十七年京都帝國大學法科大學を卒業するや、直ちに財界に身を投じ、横濱正金銀行に入りて同行海外支店に在勤すること多年、爾來、同行支店長、副支配人、東洋課長等を歴任し、現に同行頭取席借款課長たる外前記の職にあり。

夫人いく子は養父郁太郎君の長女たり現に東京市外千駄ヶ谷町五〇番地に住し電話青山一一四七番たり。

汐見 儀兵衛君

實業家

東都財界にありて録々の名あるのみならず、又相當の地主として權勢を振ふを

我が新進實業家沙見儀兵衛君となす。

君は東京府の人先代沙見儀兵衛君の二男にして、明治二十一年五月二十二日を以つて生れ、大正八年二月二十五日家督を相續すると共に前名深次郎を改めて襲名せり。

君夙に財界に投じ、先代よりの内外化粧品商を經營して斯界に敏腕を振ひ、今や操白粉、操洗粉の本舗として、富士屋の名都下に普ねく知れ亘り前途洋々たるが如し。

夫人をきみ子と稱し千葉縣の人青柳庄太郎君の五女たり、現に東京市日本橋區横山町一ノ十三番地に住す。

平岡權八郎君

花月樓經營者

東京府多額納稅者

我が花月樓の聲價今や東都に普ねし。而して同經營者平岡權八郎君は東京府の人多賀半藏君の長男にして、明治十六年三月を以つて生れ、後ち平岡廣助君の養

嗣子となる。

夙に東京美術學校洋畫科を卒業するや君の天稟は早くも本邦畫壇に遺憾なく發揮せられ、文展、帝展等に出品して入選すること數回、一躍斯界に名聲を博し、後ち帝國劇場等の舞臺裝置に君の神妙なる筆を揮ひぬ。

然して、期するところありて畫筆を捨て、本邦割烹界に投するや、常に東西の粹を以つて其の薪新を謳はれ、今や、花月樓の令名と共に君の信望又甚大、尙ほ東京府多額納稅者として直税五千四百數十圓を納むるを以つて知らる。

夫人やゑ子は東京府の人植松孫太郎君の令妹にして、君との間に二女あり、現に東京市京橋區竹川町二一番地に住し電話銀座二二九一番たり。

芝 義太郎君

雄別炭礦鐵道會社取締役

君は愛媛縣土族芝義方君の長男にして明治六年二月八日を以つて生る。夙に實

業界に雄飛せんとの大志を抱き、即ち斯界に投じて君が敏腕を振ひぬ。

斯くて龍田炭礦株式會社々長を始めとして、北海道炭礦鐵道株式會社取締役等を歴勤し、現に雄別炭礦株式會社の重役として知らる。

夫人ムメ子との間に三男二女あり、現に東京府下上目黒一七〇六番地に住し電話青山一七九〇番たり。

平野復男君

日本製粉株式會社取締役

君は法學博士上杉慎吉君の令弟にして明治十八年七月を以つて生れ、後ち先代いち子の養嗣子となる。

明治四十二年東京帝國大學法科大學英法科を卒業するや、直ちに財界に投じ、曩に東洋製粉株式會社々長、日本絹毛紡績株式會社取締役等を歴勤し以つて現在に及ぶ。

夫人をいち子と稱す、現に大阪府西成郡東濱田九五一番地に住す。

島本正一君

東京府品川町役場名譽助役

全庶務課長

君は現籍を東京府に有し、滋賀縣の人島本瀧藏氏の三男にして、明治三十三年十二月九日を以て生る。

夙に三重中學校を卒ふるや家業たる藥種業に従事せしも、後ち鴻圖を抱いて上京、大正十一年四月東京府下品川町役場に入り、累進して大正十四年一月庶務課長に擧げられ、昭和四年町會の決議の結果推されて同名譽助役に就任兼ねて同庶務課長に任じ以て現在に及ぶ。

曩に昭和三年品川町立職業紹介所々長に任じ、且つ町制に盡瘁すること甚大、同町制に關する研究に専念たり、年齒僅かに三十有餘にして名譽助役たる君は東京府下市町村役場中最少年者にして、而も其の敏腕の鮮かなる比類なく、前途益々多望なり。

夫人頼子は東京府の人船田今朝吉氏の長女にして府立第八高等女學校の出身た

り、現に東京府下品川町北品川一九五番地に住す。

弘内一海君

横濱新港倉庫(株)支配人

君は高知縣の人先考一象氏の長男にして、慶應三年六月十一日を以て生る。

夙に郷校を卒ふるや本邦實業界に投じ明治二十年日本郵船株式會社に入社し、爾來、同社に精勤すること久しく、大正八年横濱新港倉庫株式會社支配人に擧げられて現在に及ぶ。

夫人をよめ子と呼び其の間に孝也君あり、現に横濱市南太田町一六三五番地に住す。電話長者町一二七六番

新藤英松君

パンリー萬年筆製造所主

東京府瀧野川町會議員

君は群馬縣の人新藤穂太郎氏の長男にして、明治十四年八月十七日を以て生る。夙に群馬縣師範學校を卒業するや縣下

教育界に投じ、後ち縣下各小學校長として令名を馳せ、大正三年教鞭を擲つて上京、萬年筆の製作販賣業を開設し、着々として斯界に商勢を張り、今やパンリー萬年筆本舗の名と共に君の雷名や天下に普ねし。

然して大正十四年瀧野川町民より推され町會議員に當選、尙ほ大正六年以來東京萬年筆製造同業組合に議員及び議長として斯界の發展に盡瘁すること甚大、且つ瀧野川町學務委員、中里下町會副議長山王下商和會長たり。

夫人きよしとの間に榮一君、次郎君、まさ江子、さく江子等あり、現に東京市外瀧野川町中里二七番地に住す。電話小石川一三五一番 振替東京一一二一五番

清水靜馬君

東京三商會(實)支配人

島田商會(株)取締役

君は岐阜縣の出身にして、明治二十二年一月五日を以て同縣安八郡南平野村に

生誕す。

夙に郷校を卒ふるや鴻圖を抱いて東上東都實業界に投じて敏腕を振ひ現に東京菱三商會支配人たる外島田商會取締役等として知らる。

夫人千枝子は岐阜縣の人渡邊金次郎氏の長女にして大垣高等女學校の出身、其の間に静彦君、和彦君、武彦君及び信子愛子等あり、現に東京府下大崎町上大崎四四四番地に住す。電話高輪二七二一番

眞藤 慎太郎君

日魯漁業(株)取締役兼事業部長

本邦事業界の覇者として異彩を放つ日魯漁業會社の樞機に參劃し、俊腕堪能の士として現時錚々の令聞ある吾が眞藤慎太郎君は福岡縣の産、明治十六年七月一日を以て同縣福岡市紺屋町に生誕す。嚴父を故眞藤利吉氏となし其の令嗣に生れ大正二年家系を繼承す。

先是明治四十年廿有餘才にして漁業に従事し年壯の氣鋭克く精勵苦闘するところあり、

るあり、後ちカムチャツカ漁業株式會社の創設せらるゝや推されて其の常務取締役に就任し、尋いで日魯漁業株式會社と合併成るや、君は同社事業部長となり然して大正十五年六月其の取締役に擧げられ、爾來、主として東露にありて汝々社業の伸展に盡瘁、以て才腕の牙えを見せつゝ現時に至れり。

君は煙草に興味あり、夫人はな子は東京府士族山本秀雄氏の三女にして其の間に俊龍君及び佐花子あり、現に函館市舟見町一〇番地に住す。

澁澤 武之助君

澁野セメント(株)取締役

君は子爵澁澤榮一氏の二男にして、明治十九年十二月を以て生る。

夙に東京帝國大學法科大學に學び後ち實業界に投じ、現に前掲の外十勝開墾、澁野超高級セメント、大島製鋼各株式會社の重役たり。

夫人美枝子は東京府の人福原信三氏の令妹たり、東京市外瀧野川町西ヶ原三五六番地に現住す。電話小石川二三二七番

四條 隆英君

男爵 從三位勳三等

前商工次官 安田保善社理事

當家は先代隆平氏より家名顯に顯る。同氏は正二位勳一等侯爵四條隆壽氏の長男にして、戊辰の役に軍功あり、後ち奈良縣令、宮内省御用掛、華族第五部長、太政官兼元老院權少書記官、元老院議員貴族院議員等を歴任、明治三十一年特旨を以て華族に列し、男爵を授けらる。

君は其の後を享く、實は故公爵二條厚基氏先代基弘氏の養弟にして、侯爵四條隆愛氏の養甥、男爵二條正廣氏の令弟にして、明治九年二月を以て生れ、後ち先代隆平氏の養嗣子となり、同四十四年家督を相続し襲爵仰せ付けらる。

明治三十七年東京帝國大學法科大學政治科を優秀の成績を以て卒業するや直ち

柴田 凌雲君

株式會社明審社々長

立憲政友會評議員

本邦に於ける私立探偵業者として業界の通弊に墮せず毅然として独自の境を拓き、技能徳操斯界の第一人者を以て矚目さるゝ明審社々長柴田凌雲君は、岡山縣金川の人、慶應三年五月を以て該地に出生せるも、同縣久米郡に於て成育、嚴父は故柴田義衛氏にして其の嫡男に生る。君若冠にして政治に志し、十六歳の往時既に彼の自由黨に屬して東奔西走、以て自由民權の黨旨を鼓吹して寧日なし、後ち立憲政友會の樹立せらるゝや故伊藤博文公に隨伴して其の主義政策を提げ遊説を試みて足跡全土に及べり、而して此の間郷黨より推されて衆議院議員に立候補せるあり、爾來、政治的生活に終始し所謂盤根錯節の段階を経て、大正六年北海道廳長官たりし故園田氏等と諮りて米國の範に倣ひたる探偵調査業明審社を創設、翌七年之れを株式組織に革むると共

澁澤 篤一君

澁澤倉庫株式會社監社査役

君は子爵澁澤榮一氏の長男にして、明治五年十月を以て生る。

夙に實業界に投じ、現に前掲の職にあり、夫人敦子は伯爵橋本穎氏の令妹にし

に官途に投じ、爾來、農商務書記官に任官し、商工局工務課長、工場課長、工務局長、商工次官等を歴任以て現在に及ぶ。現に東京市外中野町本郷一三六番地に住す。電話四谷七五三番

兵庫 徳治君

旭シルク株式會社事務取締役秘書

君は石川縣の人西橋與三兵衛氏の三男にして、明治卅二年八月十日を以て生れ、後ち東京府の人兵庫徳太郎氏の養嗣子となる。

大正元年京華商業學校を卒業するや直ちに合資會社東洋商會に入り、大正十二年旭シルク株式會社に轉じ、現時全社横濱出張所に勤め専務代理として前途を囑望せらる。

現に横濱市中區大和町二ノ六五番地に住す。電話本局四八五番

て其の間に敬三君、信雄君、智雄君等あり、現に東京市芝區三田綱町一〇番地に住す。電話高輪二〇六九番

平島 定次君

第一徵兵保險(株)東京支店長

君は山梨縣北巨摩郡秋田村の人故平島清右衛門氏の二男、明治八年十一月廿四日を以て生誕す。

夙に郷校を卒ふるや保險業界に志し、明治四十二年第一徵兵保險株式會社に入り最初山梨縣に駐在し、後ち群馬、福島、岐阜各縣に本社特派員として各地に於て君獨特の外交秘術を發揮し熱と努力を以て活躍せり。

斯くて大正十二年新進の學校出を尻目に拔擢せられて名古屋支店長の椅子を占め、爾來、六ヶ年基劃的に地盤を固め東京に於ける斯界の敏腕家を以て知られ昭和四年五月累進して東京支店長の重職に就任せり。

抑々一外務員より身を起して今日の重

職に就く、蓋し君の努力の結晶に外ならず前途益々多望なるものあり。

夫人さとしは山梨縣の人古屋通次郎氏の長女にして其の間に治久君、定勝君、武夫君、巖君等あり、現に東京市外大森入新井町新宿一六四八番地に住す。

下郷 健三君

仁壽生命保險會社取締役

下郷同族株式會社取締役

君は本邦實業界の恩人として内外に令名高き下郷傳平氏、下郷寅太郎氏等の令弟に當り明治二十一年十二月を以て生る夙に實業界に投じ、現に前掲諸職にある外西陣襷糸再製、下郷同族、京都殖産各株式會社に重役として知られ、且つ下郷共濟會理事たり。

現に滋賀縣坂田郡長濱に住す。

日比谷孝太郎君

實業家

往年の實業界に於て覇を唱へ、綿絲王

として雷名を轟かしたる故日比谷平左衛門氏の令孫として、同じく財界一方の重鎮として令聞高かりし故日比谷任次郎氏の嫡男として祖統の血潮を享けたる吾が日比谷孝太郎君は、天恵洵に豊かなると共に此の家業を承くる君の責務や重且つ大なりと謂はざるべからざるも、資性極めて穎邁の才幹、敢て先考の名を恥しめざるものと言ふべし。

君は明治三十四年八月二十六日を以て東京市日本橋區中洲五號地に生誕、慈母を繁子刀自となし一家鐘愛の的となりて哺育さる、幼にして學を好み小中學を卒へて後ち慶應義塾大學に入學、大正十四年同大學經濟學部を卒業するや一年志願兵として近衛歩兵第二聯隊に入營せり、然して同十五年嚴父の長逝に遭ひ同年一月家督を相続す。

後ち昭和二年四月鐘ヶ淵紡績株式會社に入社し現に同社にありて出精し只管人間完成への方途を辿る、年齒尙ほ而立の壯、君や其の天稟の賦性を琢磨せんか、

當代の一異彩たる期して俟つべき也

君の一門に知名の士濟々たり、即ち日比谷新次郎氏、日比谷祐藏氏、日比谷平吉氏、津田五郎氏等は何れも君の叔父君に當り、又日比谷一郎氏は其の従兄弟たり。

現に東京市外大崎町上大崎中九四四四番地に住し、電話高輪九三四番たり。

下郷 豊彦君

下郷同族株式會社監査役

樺太工業株式會社取締役

君は靜岡縣の人北河豊次郎氏の二男にして、明治二十八年十月を以て生れ、大正七年下郷傳平氏の養子となる。

夙に學業を卒ふるや東都實業界に投じ現に前掲諸職にある外上毛電氣鐵道株式會社監査役たり。

現に東京市芝區三田小山町三七番地に住す。

東野 修君

仁壽生命保險(株)集金課長

君は滋賀縣の人故東野春耕氏の長男にして、明治二十一年二月十一日を以て生誕す。

明治四十二年早稻田大學文學部を卒業するや米國に留學し、シカゴ大學、ワシントン大學各經濟科に研鑽すること七ヶ年、同科を卒業しドクトル・オブ・ファイロソフイーの學位を得て歸朝す。

斯くて本邦實業界に投じ、日本生命保險株式會社に入社、爾來、同本社庶務課長、廣島支店長、九州支店長等を歴勤、昭和二年仁壽生命保險株式會社に轉じ、現に同社集金課長たり。

趣味多様に就中、野球、撞球、ゴルフ等の戶外運動を好み、尚ほ謠曲、歌澤等に長ずといふ。

夫人花子は元代議士滋賀縣會議長、大津市長、同商業會議所會頭等の顯職にありて雷名ありし西川太治郎氏の長女にして大津高女の出身、其の間に廣君、初子

あり、勤先東京市麴町區内幸町一ノ三番地仁壽生命保險會社電話銀座三三八〇番

下郷市次郎君

仁壽生命保險會社常任監査役

下郷同族株式會社取締役

君は滋賀縣の人樋口市右衛門氏の令弟にして、財界の巨頭下郷傳平氏の養弟に當り、明治三年九月を以て生る。

夙に本邦實業界に投じて敏腕を振ひ、現時前掲會社の重役として知らる。

夫人しう子は下郷傳平氏の二女にして其の間に二男一女あり、現に東京市芝區三田綱町一番地に住す。電話高輪六二五九番

島村 正平君

東京建立社社長

アスファルト、スレート卸販賣及び工事請負業を營み逐次業界に進出して其の業態日に月に躍進を續け居る東京建立社の經營者たる君は、東京府の産にして明

治二十二年三月を以て北多摩郡小平村に生誕せり。然して嚴父を故島村彌次郎氏慈母を梅子刀自となす。

君は夙に郷校を卒へ次いで中學校に學びしも、慶應義塾商工學校に轉じ、大正六年同校を出づ、當時君は官途に職を奉じ、鐵道省にありしが同七年實業家中村愛作氏の聘に應じ同氏經營の三榮商會に入り次いで東洋加工紙株式會社に轉ぜり而して同社合併の期に至りて辭し直ちに獨立して帝國食品社を創立せるあり、後ち酒井仙太郎商店に入り、其の支配人に推され店務を宰せしが同十三年之を退き、翌十四年四月東京建立社を創設、爾來信儀之が經營に任じ現時宮内省、各宮家、東京市役所其の他官公衛學校等の御用命を奉じ、其の堅實なる營業方針と施工上の妙技と相俟つて顧客の賞讃を蒙るところ洵に深く信望を聚めつゝあり。

君は昭和三年三月完生式防水装置の專賣特許を得て、之れが發表と共に秩父宮御殿を初め奉り全國に亘れる諸建築物に

下平文柳君

下平泌尿科醫院長

本邦刀圭界の恩人下平文柳君は和歌山縣の人下平秀作氏の二男にして、明治六年九月十六日を以て同縣東牟婁郡新宮町に生る。

夙に醫師たらんとの希望を抱き斯學の研鑽を積むこと甚大、明治卅一年醫術開業試験に應じて首尾よく登第、翌年朝倉病院に入りて實地に就いて才腕を振ひ、同院の爲め貢獻する尠少なざりき。

斯くて明治三十八年獨力の機運熟するや現在の地をトして下平泌尿科醫院を開業、爾來、仁術を以て幾多の患者に接せしかば忽ちにして社會の信望を博し、現に斯界に於ける古參者として知らる。

君尙ほ著作に熱心にして看護學、人体解剖生理等の名著あり。

夫人わか子は前田龜次郎氏の長女にして其の間に秀祐君、文男君及び暢子等あり、現に東京市本郷區湯島新花町三十三番地に住す。電話小石川三八一六番

尙琳君

男爵 從四位

君は舊琉球王侯爵尙泰氏の令孫にして男爵尙寅氏の二男に當り、明治二十四年十二月を以て生れ、同三十八年家督を相繼し襲爵仰せ付けらる。

夫人トシ子は沖繩縣士族伊江朝献氏の長女にして其の間に義清君あり、現に首里市常藏町一三三六番地に住す。

尙順君

男爵 從三位勳三等

沖繩土地建物株式會社社長

君は琉球王侯爵尙泰氏の四男にして、明治六年四月を以て生れ同十八年分家して一家を創立、同二十九年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる。

曩に貴族院議員に當選すること二回、尙ほ沖繩貯藏食品株式會社々長たりしが現時は前記會社々長たり。現に首里市中町一番地に住す。

品川章君

品川組經營者

世の文化と隨伴して軌近本邦に於ける電氣事業界の躍進は實に刮目に價するものあり、今や電化は文明の表徴、文化の尺度たらんとす。

夙に斯業に挺身して現時電燈、電力、電氣鐵道に關する電機器具の製造販賣並に其の附帶工事請負の事業に携り、就中電車機械器具の取付工事に於て特筆すべ

き卓技を有し、寔に斯業界獨往の境地にありて他の追隨を許さざる吾が品川組の經營主品川章君は廣島縣の出身にして、明治十五年九月廿日同縣豊田郡沼田東村字本市に孤々の聲を擧ぐ、嚴父を故品川忠夫氏慈母を故ちか子となし君は其の長嗣子に出生、該地に成育す。

幼にして資性穎秀、衆人其の逸才に駭目して神童の譽れ近郷に鳴る。夙に廣島縣立第四中學校を卒へ後ち熊本第五高等學校に學び、次いで最高學府たる東京帝國大學工科大学に入學し孜孜として學殖を深め同四十年拔群の成績を以て同大學電氣工學科を卒業す。

斯くて君は直ちに合資會社高田商會の聘に應じ、入りて同社電氣部技師に就任是れ實に君が實社會へ進出の第一歩にして將又其の學理的研鑽を實際に須ひし生涯の記録の冒頭を成すもの、君は同社にありて格勗精勵して社業進展に盡瘁せるも同四十五年二月感ずるところありて是を辭せり、此の間偶々同社の懇囑ありて

秋田電氣株式會社監査役兼技師長の重任を帯びて赴任せしことあり。

高田商會を退くや後ち間もなく東京市電氣局に轉じ濱松町工場長の任に就き、爾來、多數の技師職工を督して電車製作に其の蘊蓄を傾け只管出精すること實に十年、學殖、研鑽凝つて、君が現時本邦電車製作上の一大權威と目され斯界の泰斗として名譽噴々たる所以寔に故なきに非ずと謂ふべし。

而して幾多の功績を遺して大正十年六月同局を去り翌十一年二月獨立にて品川組を創設し前掲の業務に携り、爾來、信儀之れが經營に任じつゝ今日に至れり、現時實に全國的に亘つて得意先を有し各官衙諸會社民間の命依囑に應じ、業礎益々成りて日と共に事業の殷盛を加へつゝあり。

君は年齒春秋に富む、其の人物の敦厚と多年の蘊蓄と相俟つて獨り斯界に覇を唱ふるのみならず、將來一般社會に對しての貢獻寄與あもべきを庶幾せらる。

君は趣味として南書を好くし、和歌に堪能にして、書は暗香女史に歌は佐々木信綱氏に師事して立峯の雅號あり。

夫人さき子は齋藤譽氏の長女にして君との間に晃君、大藏君及び京子あり、現に事務所を東京市芝區西久保八幡二九番地に有す。電話芝二六八七番

志賀 淳 信君

權大僧都 東福寺住職

君は福島縣の人先代志賀大輪氏の長男にして、明治十年三月六日を以て同縣相馬郡に生る。

年齒僅かに十二才にして佛門に入り、興樂寺にありて修道すること數年、大正元年東福寺住職に擧げられ以て現在に及ぶ。

惟ふに君や宗旨眞言宗に歸依すること切、常に信徒數十萬を率ひて社會教化の大事業に盡瘁すること甚大、今や一世の高僧として聞ゆ、蓋し君の博學と徳望に加ふるに終始一貫斯道の布教に奮闘これ

怠たらざる至誠至忠の賜なりと謂ふべきなり。

趣味に謠曲あり、夫人しん子は群馬縣の人大曲藤八郎氏の令妹にして君との間に治江子、花子あり、現に東京府北豊島郡巢鴨町平松一四五九番地に住す。電話大塚二四三七番

平岡 傳 章君

山一證券株式會社副社長

兼同社清算庶務部長

本邦株式取引界の重鎮平岡傳章君は山梨縣の人平岡謙平氏の長男にして、明治四年十二月十三日を以て生る。

當家は代々名主役を勤めし名門にして且つ土地の素封家として知られたる家柄なり。

君は夙に攻玉館中等學塾に和漢の學を專攻し、後ち大志を抱いて東都に上り、實業界に身を投じ、明治三十六年東京市街鐵道株式會社に入社して同社會計課長たりしが、同三十八年小池國三氏の經營

する株式仲買店に轉じ、明治四十年同店が合資會社に變更せらるゝや引續き同社員として敏腕を振ひぬ。

斯くて大正六年同社が併合の結果山一合資會社となるや入りて同社理事に就任し、更に大正十五年一月山一證券株式會社と改稱せらるゝや推されて同社副社長の地位を占め、現に其の傍ら同社清算部長庶務部長として今や本邦株式取引界は勿論、一般財界に令名あり。

事務多端の身にも尙ほ圍碁、撞球、詠曲の趣味に一日の勞を去り、更に書畫骨董を愛好し、併も山梨峽友會幹事として常に同郷の爲めに盡瘁するといふ。

夫人をたき子と呼び山形縣の人兩宮善治氏の長女にして君との間に巖君、達君あり、現に東京市小石川區駕籠町一九九番地に住し、電話大塚七三五番たり。

澁澤 正 雄君

東京石川島造船所(株)取締役

富士製鋼株式會社取締役

君は子爵澁澤榮一氏の三男にして、明治二十一年十一月を以て生る。

大正四年東京帝國大學法科大學經濟科を卒業するや直ちに東都實業界に投じ、第一銀行に入り、越えて大正六年同行を辭し、現に前掲の外石川島飛行製作所、汽車製造、秩父鐵道各株式會社の重役にして且つサツシユ製造株式會社監査役たり、其の間大正十五年歐米各國を視察巡遊して歸朝す。

夫人隣子は男爵池田勝吉氏の二女にして其の間に正一君及び博子、純子あり、現に東京府北豊島郡瀧野川町三六〇番地に住す。電話小石川二二〇〇番

平林 淺 次郎君

昭和商會(株)取締役社長

玉川水道株式會社取締役

君は東京府の人平林幸藏氏の三男にして、

て、明治十八年五月を以て生る。

夙に東都實業界に投じて敏腕を振ひ、大正八年以來東京府會議員、東京府參事會員、入新井町助役等を歴任して東京府政に參劄し、尙ほ荏原郡農會長、大森溝地整理組會長として廣く公共事業に貢獻すること尠ならず。

然して昭和三年株式會社昭和商會を創立し同社社長に就任し、傍ら玉川水道株式會社取締役として今や東都財界に令名あり。

夫人とめ子は東京府の人故西村平四郎氏の三女にして養嗣子庄太郎君は東大法科を卒業するや直ちに東都法曹界に投じ現に斯界の新進として知らる。

現に東京府荏原郡入新井町新井宿二七二五番地に住し電話大森一三四番たり。

樋口 錢 藏君

東京株式取引所(株)支配人

君は三重縣土族梶川松五郎氏の五男にして、明治九年八月二十三日を以て同縣

桑名郡桑名町に生誕、後ち樋口兼寛氏の養嗣子となる。

夙に郷校を卒ふるや鴻圖を抱いて東上明治二十九年東京株式取引所に入りて活躍、累進して同出納係主任、同主事兼會計課長等を歴任し、大正十五年一月推されて同支配人に任じ以て現在に及ぶ。

夫人つね子は東京府士族山本逸秀氏の三女にして其の間に兼雄君、重雄君及び静子、孝子、綾子等あり、現に東京市芝區下高輪町五十三番地に住す。電話高輪三五七一番

廣瀨 直 幹君

從四位勳三等

前東京市社會局長

君は香川縣の人豊田官吾氏の二男にして、明治八年一月十日を以て生る。

明治三十八年京都帝國大學を卒業するや同年文官高等試験に合格、爾來、官途に職を奉じ栃木縣警視、北海道廳、群馬和歌山各縣事務官、長野、徳島、長崎各

縣内務部長、宮崎縣知事、關東廳内務部長兼同博物館長等を歴任、昭和三年八月東京市社會局長に就任、同四年七月辭す曩に歐米各國を視察せしことあり。
夫人テフ子は京都府の人山口秀次郎氏の三女にして其の間に一男一女あり、現に東京市芝區三田四國町二ノ十二番地に住す。電話高輪三四三七番

四宮 茂君

從六位
第一東京市立中學校長

君は德島縣の人四宮悅次郎氏の二男にして、明治二十一年三月二十三日を以て生る。

大正三年東京高等師範學校本科を卒業するや直ちに鹿兒島女子師範學校教諭として赴任、在職一年にして同校舎監を兼ね大正六年三月再び上京、高師研究科に入り翌年同科を卒へ、更に後同校第一回専攻科を卒業するや東京府立第五中學校教諭に任じ、大正十三年三月第一東京

市立中學校教諭に轉じ、昭和四年一月成田校長の後を繼いで同校長に擧げられ以て現在に及ぶ。

趣味に旅行あり、又讀書を愛好すといふ、夫人ヨリ子は縣立德島高等女學校の出身、其の間に三男三女あり、現に東京市小石川區丸山町三十番地に住す。

島田 邦平君

東京市一ツ橋圖書館長

君は福岡縣の人島田彌次郎氏の二男にして、明治十五年九月十三日を以て同縣田川郡安真木村に生誕す。

夙に福岡縣立東筑中學校を卒業するや青雲の志を抱き笈を負ふて東上、明治四十二年國學院大學を優秀の成績を以て卒業す。

斯くて翌明治四十三年東京市小石川圖書館主任として聘せられ、大正十一年同一ツ橋圖書館に轉勤、現に同館長として知らる。

夫人てつ子は東京府の人牧野馬若氏の

長女にして其の間に二男一女あり、東京市外杉並町阿佐ヶ谷六十三番地に現住す

柴田 武君

日本勸業證券(株)取締役支那人

君は東京府士族柴田金五郎氏の長男にして、明治二十九年七月廿六日を以て生誕す。

大正十年中央大學政治經濟科を優秀の成績を以て卒業す、先是大正四年日本勸業銀行に入りて精勵すること十年、大正十五年十月日本勸業證券株式會社に轉じ株主大多數の推舉により同社取締役兼支配人に任じ以て現在に及ぶ。

趣味にスポーツ、謠曲、讀書あり、現に東京市外千住町千住中組八三九番地に住す。電話四〇七五番

平井 信四郎君

東濃鐵道株式會社社長
衆議院議員

君は岐阜縣の人平井儀三郎氏の二男に

して、明治六年八月八日を以て生る。

夙に中京實業界に投じ、醸造業を營み現に前記の外鬼岩溫泉、東濃石材工業各株式會社の社長にして且つ美濃合同銀行取締役たり。

曩に岐阜縣會議員並に同副議長等として縣制に盡瘁すること甚大、昭和三年大日本政黨史上特筆すべき普選第一回の總選舉に際し馬を陣頭に進めて見事當選、今や中央政界に知らる。

現に岐阜縣可兒郡上之郷村一三四二番地に住す。電話御嵩一四番

日比野 幸一君

辯護士 辨理士

東京辯護士會常議員

君は群馬縣の人先考幸吉氏の二男にして、明治二十五年九月二十八日を以て生る。

大正六年日本大學法科を卒業するや更に中央大學高等研究科に入りて研鑽大いに努め、後ち文部省宗教局に職を奉じ傍

ら法律の研究に専念、大正十二年辯護士登用試験に應じて見事登第するや直ちに法律事務所を開設、今や東都法曹界に新進の聞え高し。

趣味に旅行、園藝あり、讀書を愛好するが如し。
夫人八重子は山口縣の人小川浩氏の長女にして奈良女子高等師範學校の出身、其の間に幸雄君、和幸君あり、現に東京市本郷區駒込林町二一〇番地に住す。電話小石川四三二九番

志田 勝民君

北海道炭礦汽船(株)參事

共立汽船株式會社常務取締役

君は長崎縣の人志田宗一氏の長男にして、明治七年十一月二十九日を以て生る

明治三十三年東京帝國大學法科大學政治科を卒業するや早稻田大學の前身たる早稻田專門學校講師に任じ、翌三十四年三井礦山株式會社に入り、同三十六年同社を辭し、張之洞氏の囑託として支那に

渡る。

斯くて明治三十九年歸朝、三井物産株式會社に入社し同社小樽支店長代理として敏腕を振ひ、後ち北海道炭礦汽船株式會社に轉じ、商務課長、賣炭部長等を歴任、更に夕張鐵道株式會社常務取締役にも擧げられ、現に前記の諸職にありて令名高し。

趣味に書畫骨董あり、又園藝に長ずといふ、社交に厚く學士會、帝國鐵道協會、日本工業俱樂部、北海道俱樂部、交詢社各會員たり。
夫人トミ子は鹿兒島縣士族田實胤信氏の三女にして其の間に惟一君、妙子あり現に東京市麻布區斧町一〇五番地に住す。電話青山六二八三番

柴 讓君

柴電話業所主

小暮機軸製作所出張所主

君は長野縣の人柴三藏氏の二男にして、明治十八年九月一日を以て同縣上伊那郡

に生誕す。

夙に郷校を卒ふるや、笈を負ふて上京、明治四十三年東京工手校を卒業し、爾來、沖電氣株式會社、諏訪工業株式會社各技師長等を経て大正九年九月横濱市に於て柴電話工業所を開設し、着々として業勢を張り、今や横濱斯界に重きをなすのみならず、小暮機械製作所、小澤電氣商會各出張所主として知らる。

夫人とし子は栃木縣の人島田善太郎氏の四女にして其の間に康二君あり、現に川崎市堀ノ内四一番地に住す。電話川崎四一番 事務所横濱市辨天通り六ノ一〇 七番地電話本局四二六九番

廣幡 忠隆君

侯爵 從三位勳四等 貴族院議員

當家は後陽成天皇全母弟二品智仁親王の男權中納言源忠幸卿の後裔たり、忠幸卿尾張大納言の養子となり、後ち一家を創立して源姓を賜ひ廣幡と稱し一千石を

領し夫より七代を経て侯爵忠朝卿に至る

卿は忠朝卿の長男にして、明治十七年十二月十一日を以て生れ、同三十八年襲爵仰せ付けらる。

明治四十二年東京帝國大學法科大學佛法科を優秀の成績を以て卒業するや直ちに官途に投じ、爾來、内閣總理大臣秘書官、東部遞信局副事務官兼東京地方海員審判所理事官、戰時船舶管理局事務官、遞信書記官、管船局監理課長等を歴任し現に貴族院議員として議政府に列し國政に參與して功勞あるのみならず、燈臺局長、保護資金調査委員等の要職にあり。趣味に讀書、美術あり、社交に厚く學士會、造船協會、日佛協會各會員たり。現に東京市麴町區下二番町七〇番地に住す。

土方 久敬君

伯爵 劇作家

築地小劇場經營者

當家は應神天皇の末葉土方權太夫の後

裔にして、夫より十數代を経て久則氏に至る。久則氏は土佐藩主山内一豊氏に仕へて二百石を領す。

先代久元氏は大政官に出仕し、内務少輔、宮内少輔、内閣事務官、宮中顧問官、宮内大臣、臨時帝室編纂局總裁等を歴任大臣禮遇を賜はり、明治十七年華族に列し子爵を賜ひ、同二十八年伯爵に陞る。君は即ち久元氏の二男たる久明氏の長男にして、明治三十一年四月を以て生れ大正七年襲爵仰せ付けらる。

夙に劇界の刷新に盡瘁すること甚大、獨逸、埃太利等に遊んで演劇舞踊の研究を積んで歸朝、全十三年同志と相謀り築地小劇場を興し、本邦新興劇壇に貢献すること甚大なり。

夫人梅子は三島通陽氏の令妹にして女子學習院の出身たり、現に東京市小石川區林町六二番地に住す。電話小石川一六〇番

柴田 常吉君

柴田寫眞館經營主 日本美術寫眞印刷所(株)社長 株式會社「三越」寫眞部主任

徳川末葉の期に至り初めて本邦に渡來せる寫眞術が其の發達の未だ以て遅々たるの時、夙に斯術に志して現時其蘊奥を極めて卓技を謳はるゝ吾が柴田常吉君は明治三年一月十五日、三州豊橋市に於て出生す、嚴父故柴田松太郎氏の長男にして該地に成育、然して同十七年四月一日を以て家督を繼げり。

同地に於て普通學を修めたる君は、何等か人生への寄與を爲さんと欲して同十八年十月勃々たる雄圖を抱いて帝都に出づ、君は天資藝術的才能豊かなりしを以て當初畫壇に名を成さんとせしも感ずるところありて其志向を轉じ、石版業界に入り兼ねて彫刻の技を修む、然るに往時本邦に於ける寫眞術の未だ不振に着眼すると共に再び意を翻して斯術に身を挺し爾來之れに携りて一貫以て今日に至れり

此間君は其學理を研鑽し其實技を琢磨し以て本邦斯業界の開發に努め其振興に寄與せる貢獻の寔に尠からざるものあり

幾多顯著なる功績に於て就中特筆すべきは、時維れ明治二十七年白金紙使用の未だ我國に行はれざるに方り、君は率先之れを用ひて其元祖となり亦X光線の應用實驗等に驚異すべき成果を得て斯界を刮目せしめたり。

更に明治三十年ゴームン會社より活動寫眞の撮映機を購ひ之が撮映を試む、是れ實に我國に於ける活動寫眞撮映の嚆矢にして、現代流行のキネマも其源を極むれば即ち君の先鞭に俟ちしものと謂ふべく洵に劃時代の功績たり。

君は現時自ら柴田寫眞館を經營し、亦「三越」寫眞部を統帥す、三越が往時他の百貨店に先立ち寫眞部を併設せるは、前社長日比翁助氏の幹旋と相俟つて之れが設置に盡瘁せる君の功亦與つて力あり、尙傍ら君は昭和二年より株式會社日本美術寫眞印刷所社長に就任、以て入神の技

四宮 久吉君

辯護士 辦理士 東京市小石川區會議員

君は徳島縣の人先考高吉氏の二男にして、明治廿八年九月八日を以て生る。

夙に郷校を卒ふるや青雲の志を抱き笈を負ふて東上、研鑽練磨、大正十一年三月明治大學法科を優秀の成績を以つて卒業するや直ちに辯護士試験に應じて日比

谷登龍門に天下幾多の奇才と聞つて見事登第す。

斯くて東都法曹界に投じ、其の博大なる識見と、懇切丁寧とを以て一般法律事務に従事せしかば忽ちにして社會の信望を博し、今や東都法曹界の新進として令名あり。

然して政治に深き趣味を有し、大正十四年小石川區民の輿望を擔つて小石川區會議員に推され、現に其の任にありて東京府市區制に盡瘁すること甚大、尙ほ小石川中興會幹事、奉田會々長、又新辯護士會理事等を勤む。

夫人董子は東京府の人奥谷忠市良氏の長女にして帝國女子専門學校の出身たり現に東京市小石川區大塚坂下町七四番地に在す。電話大塚二六一番

兵 藤 榮 作 君

舊都鐵道株式會社取締役
函館市會議員

稟性磊落にして而も俊敏の人、吾が兵

藤榮作君は明治十四年三月十五日を以て秋田縣由利郡象潟村に生る。乃父放村上清左衛門氏の二子に當り同三十年叔母方の兵藤家の家籍に入り以つて其の姓を冒せり。

君は夙に東上し、早稻田大學の前身たる東京専門學校に學び邦語政治科を専攻同三十五年之れを卒業せり。

斯くて後ち函館市に赴き當初函館商業會議所に入り書記たりしが、次いで菅谷合名會社に入社し支配人の重任に就けり然して大正十年同社代表社員となり社務を主宰するところありしが昭和二年十二月之を辭し、現時舊都鐵道株式會社取締役並に北海道鐵道株式會社監査役の任に在るの傍ら函館市會議員として公職に盡すところ尠からず。曩に函館魚市場、北日本釀造、日本製炭興業各株式會社重役たりし外函館商業會議所常議員たりしことあり。

君は「誠心誠意」の四文字を体し之れを以つて處世上の大綱となし其規矩準繩と

せり、書畫を娛みとす。

家庭にはとく子夫人あり、菅谷勝司氏の令姉にして令嗣正君を擁して和氣藹然たり。現住所は本宅を函館市青柳町三十七番地(電話七五三番)東京別宅を東京市赤坂區青山高樹町八番地(電話青山六一二二番)とす。

清 水 有 國 君

辯護士

東都法曹界に活躍し、其の博大なる識見と圓熟せる敏腕とを以て今や錚々たる聲名を博し、斯界の權威として令名あるを吾が清水有國君となす。

君は長野縣の輩出せる人材にして、現時善光寺に奉仕し樞要の職に就きて令名ある清水信夫氏の長男として、明治十一年一月十七日を以て生誕す。

明治廿四年青雲の志を抱いて東上、慶應義塾を経て中央大學の前身たる東京法學院を優秀の成績を以つて卒業するや直ちに辯護士登用試験に登第、次いで義兒

たる藥學博士平山増之助氏と共に獨逸に留學し、研鑽を積みて歸朝後更に法曹界の權威岸小三郎博士の事務所に入りて法律事務に従事せり。

斯くて獨力法律事務所を開設して一般法律事務に従事せしかば其の博學と敏腕とは忽ちにして社會の信望を博し、隆々として東都法曹界に頭角を現はし、今や斯界の白眉を以て目せらるゝに至れり。

趣味に園芸、撞球、水泳あり、何れの技にも長するが如し。
現に東京市本郷區元町二ノ六六番地に住す。電話小石川三三三三番

平 塚 喜 市 郎 君

相馬屋經營者
宮城縣の豪商

宮城縣下屈指の素封家にして將又著名の吳服店として我が相馬屋の名は同縣下に普ねく、而して其の名實共に益々盛ならしむる當主平塚喜市郎君の聲望や又絶大なりと謂ふべし。

ボーツマンとして知らるゝ外、將棋に至りては故名人小野五兵衛翁の高弟にして七段を授けられし程なりといふ。

現に本邸を宮城縣石巻町に有し、東京宅を牛込區喜久井町三十四番地に有す。電話牛込四七三四番

芝 辻 正 晴 君

昭和肥料株式會社理事

卓才敏腕の士、行くところ可ならざるなき吾が芝辻正晴君は昭和三年十月昭和肥料株式會社の設立と共に入りて同社理事に就任し、爾來新進の氣鋭を以て其の樞機に携り、將に我產業界を席捲せんとするの意氣を以て其の衝に當りつゝあるの人、君は明治二十一年一月十七日を以て山形市變澄町に於て生誕せり、芝辻長

三郎氏の嫡男にして夙に學を好み大阪市天王寺中學校を卒へ第二高等學校を経て京都帝國大學法科大學に入學、政治科を専攻して大正三年最高學府を卒へしが、學識秀拔なる君は同大學在學中文官高等

試験に登第せり。

卒業後直ちに官界に志し内務省に入り
岩手縣屬、同縣理事官、香川縣理事官等
の官歴を経て大正七年十月外務省事務官
に轉せり。

斯くて同九年大使官三等書記官に任せ
られ米國大使官附たりしが、翌十年大使
官二等書記官に陞り同十二年三月官を辭
せり、次いで同年四月横濱市助役兼横濱
市水道瓦斯局長となり同十三年其本職を
去りて横濱水道瓦斯局長に專任せらる。

然して同十四年六月之れを辭し實業界
の人と爲り、翌十五年二月東京電力會社
囑託たりしが昭和三年四月東京電燈會社
と合併成り同社囑託に轉せるも、同年十
月昭和肥料株式會社の創設せらるゝや入
りて同社理事となり、現に其任に在りて
拮据社務に精勵しつゝあり。

君は天資識見才量あり、同社運の光彩
ある前途を展開すべく君の手腕に俟つと
ころ極めて多しと謂ふべし。

余暇あれば讀書を以て唯一の娛しみと

爲す。

現に東京府荏原郡馬込町三七〇七番地
に住す。電話荏原八五四番

篠崎又兵衛君

篠崎インキ製造(株)取締役社長

君は東京の人故篠崎又兵衛氏の嫡男に
して明治元年三月を以て生誕し、同三十
五年家督を承け前名龍太郎を改め襲名す
抑々當家の事業たるインキ製造は先考
の創業にして同十七年之れを開始せるや
製品の卓越と經營其の宜しきと相俟つて
逐年業務の振展擴張を見、遂に今日の盛
大を招來するに到れり。

是より先き同社は同大正七年十月合名會
社に同九年八月株式會社に其組織を革め
て君は同社長に就任し現に其重任にあり
て之れを統宰す。

當家は實にインキ製造の鼻祖にして又
輸入品防遏の先驅者たり、現時其の販路
は全國に普きのみならず波浪を超えて遠
く海外に及び又英米各國博覽會に出品し

賞牌を享けしこと枚擧に遑あらず、製品
の聲價頓に昇るに至れり。

君の養嗣子清三郎君は同社常務取締役
の任に在りて社務の樞機に參じ新進の聞
え又錚々たり。

現に東京市本所區綠町五ノ一二番地に
住す。電話本所二一九番、三四七二番

廣部 達三君

農學士 農事試験場技師

君は宮城縣の産にして明治十六年三月
を以て同縣仙臺市本橋町に於て生誕、嚴
父は霞岳と号し狩野流の繪畫師として介
聞ありし人、君は其三男に當り現戸主太
田可一氏の令弟たり。

幼にして神童の譽あり、夙に漢學塾に
入りて大學、論語、四書五經等を修め中
學校を卒ふるや、夙志たる建築學に携る
べく第二高等學校工科に學べり、然るに
健康上の問題より農科に轉じ明治四十年
七月東京帝國大學農科大學を卒へり。斯
くて同大學に於て教鞭を把りしが同四十

三年農事試験場に轉じ現に技師として奉
職す。

君は主として農業機械の研究に没頭し
曩に農甲器械器具研究の爲め歐米に航せ
ることあり、蘊蓄寔に深く現時斯學に關
する權威者として噴々の令聞あり。現に
東京市外濠谷町神山五〇番地に住す。電
話青山一七〇四番

久永 勇吉君

工學博士 岩井商店(株)顧問

本邦工業界就中土木業界に於て夙に噴
々の令名ある吾が久永勇吉君は鹿兒島縣
の輩出せる人物にして明治十八年十月八
日を以て生誕、先考久永八百助氏の男に

して、幼時既に穎悟、學に篤く夙に鹿兒
島縣立第一中學校を卒へ、次いで第七高
等學校を経て東京帝國大學工科大學に入
學、土木科を専攻して明治四十三年優秀
の成績を以て之れを卒業せり。

斯くて直ちに官界の人と爲り累進して
後ち逡信省發電水力調査局秋田出張所長

たりしが、次いで秋田縣技師、内務省技
師、復興局技師等を経て後官職を辭し
大正十五年五月株式會社岩井商店の招聘
に應じ入りて同社顧問となり、現に其職
に在るの傍ら合資會社横溝組顧問、東京
高等工學校土木科長、綜合工務所顧問、
蒲田町治水顧問等の任を兼ぬ。

君は曩に論文「日本河川に於ける洪水」
を提出し大正十五年工學博士の學位を享
け學界の權威として識らるゝに到れり。
又昭和三年東京市囑託並に東京地下鐵
道株式會社、株式會社岩井商店等の用務
を帯び、具さに歐米各國の斯業界を視察
し同年十二月歸朝せり。

君は又「鐵矢板」の發明者にして現に其
專賣特許權を有す、曾つて「度量衡對照
表」日本河川に於ける洪水「及び「歐米漫
遊記」等の著を公にし洛陽の紙價を高め
しことあり。

趣味豊かにして大弓、圍碁に長じ又諳
曲に堪能なり。現に東京市外蒲田町北蒲
田五四七番地に住す。電話蒲田四十九番

進藤 嘉三郎君

洋酒食料品商通關商店主

君は兵庫縣の人進藤嘉七氏の嫡男にし
て明治六年十月を以て生る。

夙に大阪高等商業學校に學び同二十六
年之れを卒業するや同年内外物産貿易會
社に入社し同社倫敦支店に勤務せるが、
同三十一年歸朝し獨立して洋酒並に食料
品商を創め、爾來之れが經營に任じ以て
今日に至れるが、傍らエンバイヤランド
リー株式會社取締役たり。
曩に日英博覽會當時農商務省及び大阪
府廳囑託として渡英せしことあり。

君は青年時代より「時」に就いて感を須
ひ、爾來常に「正しき時」の觀念の鼓吹に
力め時計の蘊蓄寔に深し。
夫人をラク子と謂ひ大阪の人森本專助
氏の長女にして其の間に四男三女あり。

現に兵庫縣武庫郡住吉村反高林一八七
六番地に住す。電話御影五六七番

平熊友明君

從四位勳三等
農林省山林局長

君は兵庫縣の人高平卯之助氏の令息にして明治十五年十月十一日を以て生れ、同二十一年平熊家に入り同四十一年前戸主宣明氏の隠居するに當り其家督を相續す。

明治四十年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業するや官途に投じ、後ち鹿兒島大林區署に入り山林事務官に任じ、尋いで熊本大林區署に轉勤、更に農商務省參事官、山林局書記官兼農商務省書記官、大阪大林區署長等を歴任す。

斯くて農林省山林局長に擧げられ省内屈指の敏腕家を以つて目せられしも昭和二年五月退官、昭和四年七月大日本立憲民政黨濱口内閣の成立と共に再び山林局長の榮職に就き以て現在に及ぶ。

夫人をみち江子と呼び松浦米太郎氏の長女にして其の間に權明君、正明君及び和子あり。現に東京市外世田ヶ谷町太子

堂三番地に住す、電話青山一七四一番

弘田龍太郎君

音樂家

君、生を享けて夙に藝術的才能に恵まれ就中洋樂に拙んずるところあり、専心斯道に入りしより刻苦琢磨せると相俟つて益々其の天與の麗質を發揮し、曩に幾多の童謡作曲及新舞踊の新しき試みを公にして好評を博し錚々の令名を得るに到れり。

君は往時教育家として知名なりし故弘田正郎氏の嫡男に當り母堂を房野刀自と爲す。明治二十五年六月三十日を以て高知縣安藝郡土居村宇土居に於て生誕せり然して千葉縣立師範學校附屬小學校を卒業、三重縣津中學校を経て東京音樂學校に入學、本科器樂部を専攻し大正十三年優秀の成績を以て之れを卒業せり、次いで尙ほ同校研究科器樂部及作曲部に於て研鑽し之れが修了と共に母校助教となり現に其の任に在るの傍ら女子經濟專門

學校教授として子弟薰育に従事す。

此間昭和三年三月一家を擧げて歐米に航し主として獨逸に駐り同國立伯林音樂學校に於てピアノ及び作曲の研究に没頭し同四年六月歸朝せり。

君は曩に新佛教音樂の發表を爲し、又「童謡小曲集」新作兒童唱歌集「他數十種の著を公にせることあり。

夫人を百合子と謂ひ東京の人高安三郎氏の長女にして東京女子音樂學校出身の才媛にして夫妻相携へて樂壇に在り。

現に東京市本郷區向ヶ岡彌生町三番地はノ八号に住す。電話小石川五八二六番

島田佐太郎君

京橋島田洋服店主

東京洋服同業組合評議員

君は埼玉縣の産んだる人材にして、明治十九年八月十四日を以て同縣北埼玉郡種追川村に生る、嚴父を勳三郎氏となし其の三男たり。

夙に郷校を卒ふるや鴻圖を抱いて東上

京橋區長井洋服店に入りて實地の研究を積むこと甚大、斯くて獨立の機運熟する

や、大正元年現在の地をトして京橋島田洋服店を開設して斯界に活躍大いに努め月に年に隆盛に赴き今や數十人の店員を擁して東都同業界に令名あり。

曾つては同町會幹事を勤め、且つ東京洋服商同業組合京橋區部長を経て現に同本部評議員たり。

夫人妙子は千葉縣の人兼山直政氏の長女にして其の間に敦維君、節雄君あり。現に東京市京橋區南鍛冶町二十二番地に住す。電話京橋三三九番

平尾貞二君

東京屋經營者

東京職業聯合組合下谷支部長

今や社會問題の根本解決機關たる失業者の救済に對して終始奮闘赤誠以て萬事を處理する、我が東京屋經營者平尾貞二君あるを忘るべからず。

君は富山縣の出身にして明治十五年九

月二十八日を以つて生れ、同四十二年鴻

圖を抱いて上京、二三の店に精勤の後ち上野山城屋旅館の店員として精勵するこ

と五ヶ年、大正四年獨立の機運熟するや獨力東京屋を開設し、爾來、經營宜しきを

得て途年社會の信望を博し、今や東都業界の白眉を以て目せらるゝに至れり。現に斯界に活躍する傍ら、上車坂町會

幹事長、同青年團相談役、下谷區小學校父兄同志會評議員たると同時に全國紹介

幣原喜重郎君

男爵 從三位勳一等

外務大臣

君は文學博士幣原坦氏の令弟にして明治五年八月を以て生る、同二十八年東京帝國大學法科大學を卒業するや翌年外交

官及領事官試験に合格す。

爾來、仁川、倫敦各領事官補、アンヅエハス、釜山各領事、外務書記官、和蘭兼丁抹駐劄特命全權公使、外務次官、米國駐劄特命全權公使、外務大臣たること前後

二回に及ぶ。曩に大正九年勳功により特に華族に列し男爵を授けられ、同十年米國駐劄ワシントン會議に全權として參列し同十一年

臨時外務省の事務に従事せしことあり。現に東京市本郷區駒込上富士前町に住す。電話小石川一一六番

白井清行君

向島自動車商會主

君は千葉縣の出身にして、慶應元年九月を以て同縣長生郡豐田村に生る。

夙に中央大學の前身たる英吉利法律學校を卒業するや宮内省に職を奉じ、後ち實業界に投じ、大正八年本所向島須崎町に向島自動車商會を開設經營し今や同業界に重きをなす。

曩に推されて東京自動車組合常任理事に就任以つて現在に及ぶ、趣味に園芸、書等あり。

夫人やす子は千葉縣の人國學者大多和林齋氏の長男にして、其の間に龍城君及び綾子、久子、琴路子等あり。現に東京市牛込區藥王寺町八三番地に住す。營業所電話本所一五六三番

鹽原 又 策 君

鹽原合名會社代表社員

三共、亞細亞アルミナム、紐育高峯

コーポレイション、高峰保全(株)代表取締役

君は長野縣の人鹽原又市氏の長男にして明治十年一月を以て生る。夙に横濱英和學校に學び後ち實業界に投じ、日本製茶株式會社に入り尋いで横濱絹物株式會社を創立し其の取締役支配人に任ず。

明治三十二年製藥業を以て雄飛せんとの鴻圖を抱き在米高峰博士と相提携して我が製藥工業の發展を劃策し、全三十五年三共合資會社を興して奮闘大いに努め

爾來、歐米に航すること數回、大正二年同社を株式會社に變更と共に其の専務取締役に任じ、現に前掲諸職にある外大和

醸造、泰昌製藥、臺灣生藥、富士屋ホテル興東貿易、柏木檢温器各株式會社取締役にして且つ鳥居商店、日新醫學社各株式會社監査役及び理化學研究所、藥學振興會、帝國發明協會、化學工業協會、東京藥學專門學校各理事として令名あり。

夫人千代子は東洋英和女學校の出身、其の間に禎三君及び朝子、英子、智子、泰子等あり。現に東京市外濠谷町羽澤一〇二番地に住す。電話青山五〇四番九〇一番

柴 田 定 吉 君

鳥料理業「末廣」經營者

君は福井縣の出身にして明治三年三月十六日を以つて同縣敦賀郡松原村に於て生誕、嚴父を故柴田九郎左衛門氏と爲し其の四子に當り同三十年分れて一家を創立す。

夙に帝都に出で後ち日本橋區下槇町に於て「末廣」と号して鳥料理業を創む、之れ今日の盛大を招來せる始めにして其厨

房の神技に依る獨特の美味は敢て他の追随し得るところに非ず、斯くて漸次業務を擴張し現時其本店を日本橋區藥研堀一八番地に、奥店を同區吳服町一番地に、中店を同町四番地に、西店を同町三番地に、東店を同五番地に各設置して嶄然斯業界に君臨し、今や「末廣」の名は都下に鳴り所謂味覺極樂を現在せしむ。

君は骨董、梅若謠曲に興味あり、又書畫、就中栖風の繪畫を愛好す。現に東京市小石川區大塚窪町二十四番地(電話小石川六一四五番)に住す。

平 野 亮 平 君

從四位勳三等 專賣局長

君は長野縣の人平野又左衛門氏の三男にして明治十二年十二月を以て生る。同三十九年東京帝國大學政治科を卒業す。爾來、熊本、仙臺、水戸各專賣支局長

司法書記官、大禮使典儀官、專賣局副參事、同參事、專賣局部長同事業部長等を歴任以て現在に及ぶ。

現に東京市外代々木富ヶ谷一五一三番地に住す。

清 水 郁 君

辯護士

岩田宙造法律事務所勤務

君は岡山縣の産にして明治二十二年二月二十三日を以つて同縣高梁町に生誕せり、故清水質氏の男にして夙に郷校に學べるが後ち刻苦獨學以て中學課程を卒業を負ふて東都に出づ。

然して法政大學に入り大正三年之れを卒業、翌四年辯護士試験に登第し、斯くて直ちに法學博士岩田宙造法律事務所に入り以て今日に至れり。

君は人物極めて敦朴、畏敬すべき人格の所有者にして夙に斯界に噴々の令聞あり、狩獵に興味を有し又登山を好む。夫人ワカ子は横須賀高等女學校の出身

にして其の間に滋子、友子の兩嬢を撫育す。

現に神奈川縣逗子町新宿二〇一五番地に住す。電話逗子一五四番

平 井 操 君

陸軍糧秣供給業

君は茨城縣結城郡水街道の出身にして明治六年一月を以て生る、嚴父は同縣土族故鈴木三郎右衛門氏にして、君は後ち近親平井兼太郎氏の家籍に入りて其の姓を冒せり。

當初學を郷校に學び後ち縣立水街道中學校を卒業するや故山を出で、東上、實業界に志し淺田銀行に入りて大いに精勤

遂に上司の認むるところとなりて支配人次席に累進せり。偶々知友水野本太郎氏の懇囑に依り同氏經營の合資會社水野糧秣商會に轉じ其の事業を繼承して之れが經營に任せり、時維れ明治四十一年、爾來陸軍省を初め各官公衙及び一般民間に糧秣供給の業務を營み今日に到れるが

傍ら旅館並に高等下宿「孝雲館」を兼營しつゝあり。

君は公事に盡すところ多く、澁谷町會議員たりし外澁谷町旅館下宿組合長に推されて令名あり。

夫人シゲ子との間に照子、静子あり。現に東京市外中野町小下四一八四番地に住す、又「孝雲館」は澁谷町金王六番地(電話青山四七五番)に所在す。

清 水 太 治 郎 君

山一証券(株)取締役

君は東京府の人清水利右衛門氏の二男にして、明治十三年二月十七日を以て生る。

夙に小池商店に入り後ち同店の組織變更して小池合資會社となるや同社に轉じ大正八年同社の解散に際し山一合資會社に入り同十一年監事に擧げられ、更に同十五年十一月同社の山一証券株式會社と改稱せらるゝに及び其の取締役に就任以て現在に及ぶ。

現に東京市外大井町三四三八番地に住す。

工業株式會社取締役會長たり。現に東京市牛込區中町一九番地に住す。

平塚 運吉君

正六位勳六等 通信事務官 東京中央電話局長

白勢 量作君

新潟水力電氣(株)専務取締役

君は新潟縣の人白勢春三氏の長男にして、明治十六年十二月を以て生る。

明治四十二年東京帝國大學法政大學政

治科を卒業するや直ちに實業界に投じ、現に前記の外昭和肥料、二葉社、イタリ

ヤ軒各株式會社の重役たり。現に新潟市本町通八番町三十一番地に住す。

島田 宏君

計理士

君は大分縣の人元第十三師團法官部長島田喜十郎氏の長男にして現籍を東京府に有す。

明治四十一年東京商科大学の前身たる

東京高等商業學校を卒業するや實業界に投じ、武州整織株式會社専務取締役、所

澤商業銀行管理入監査役、高田商會管財人等を勤め、尙ほ大正七年及び全十四年

兩度に亘り北清及び南清に渡り實業視察を遂げて歸朝す、現に本邦計理士界に令名あり。

君は宮城縣の舊家平塚末吉氏の長男にして、明治十六年二月二十六日を以て生る。

夙に東京郵便電信學校を卒業するや、明治三十七年仙臺郵便局通信屬を拜命し

後ち東京郵便局に轉じ逓信省通信局に勤務すること十年に及ぶ。

斯くて松江郵便局長、仙臺逓信局監察官、福岡郵便局長等を歴任、大正十三年

東京中央電話局長に榮轉以て現在に及ぶ。曩に大正十四年歐米に航し、米國、敦倫

オーストリア、獨逸、佛蘭西、瑞西、ベルギ一、オランダ等を遍歴して、電話事業の視

察見學をなして大正十五年五月歸朝す。趣味に旅行、登山及びスポーツあり。

夫人伊都子は群馬縣の人峯崎鶴重郎氏の長女にして、山脇高等女學校の出身たり。

現に東京市外澁谷町伊達二八番地に住す。電話高輪七八七〇番

斯波孝四郎君

日本光學工業(株)取締役會長

三菱造船(株)常務取締役

君は工學博士男爵斯波忠三郎氏の令弟にして明治八年一月を以て生る。同三十三年東京帝國大學工科大学造船科を卒業するや直ちに三菱造船株式會社に入社し、現に同社常務取締役たる外日本光學

趣味にゴルフ、詠曲あり又劍道に長ずといふ。夫人壽美子は三輪田高女の出身

其の間に吉雄君、孝君及び文子、千代子等あり。現に東京市丸ノ内永樂町一ノ一

番地丸ビル内に事務所を有す。電話丸ノ内三七一一番

元田 肇君

從三位勳一等 衆議院議員

當家は舊豊後臼杵藩の儒家にして、古より松平家に仕へ代々藩主に儒學を進講したる家柄なり、先々代葬君は號を伯倫と稱し、尙書集解、大學標註等の名著あり、其の二男直君家督を繼ぎ漢學を修め古代法制を研究し、維新後江戸に出でて私塾を開き子弟の育英に盡瘁せり。

君實は大分縣の人猪俣榮造君の二男にして、安政五年一月を以て生れ後ち先

代直君の養嗣子となり明治二十三年三月家督を相續す。初め養父に就きて和漢の學を修め、同五年開拓貸費生として開成

校に學び、後ち東京帝國大學に轉じ同十三年同學法科を卒業するや、辯護士となり一般訴訟事務に従事せり。

然して明治二十三年大分縣第一區より選出せられて衆議院議員に當選し、爾來

改選毎に選出せられ、初期以來議政壇上に立つこと三十年立憲政友本黨の元

老にして現に同黨總務として知らる、曾つて衆議院副議長、逓信大臣、外交調査會委員、鐵道會議員、拓殖局總裁、鐵道大臣等を歴任す。

現に東京市麴町區紀尾井町八番地に住し電話四谷二二一六番なり。

望月小太郎君

勳三等 衆議院議員 英文通信社長

君は山梨縣の人望月善左衛門君の三男にして、慶應元年十月を以て生る。夙に慶應義塾に學び卒業後英國に留學し、ツルテンブル、ロンドン兩大學に入りパリスツルの學位を受けて歸朝す。

明治二十九年故山縣公に隨行して露國戴冠式に列し、明治三十年故伊藤公に従

ひ英國に航し、女皇六十年式に參列し且つ夙に英文通信社を起し其社長として活躍し、明治三十五年山梨縣郡部より推さ

れて衆議院議員に當選し、爾來衆議院議員たること前後七回現に其の任にありて

芹澤多根君

龍登礦業株式會社社長 伊豆銀行取締役

中央政界に令名高く立憲々政會の元老として知らる、曩に日獨事件の功に依り勳三等に陞叙せらる。夫人をカヨ子と呼び東京府の人親見七之丞君の長女たり、東京市赤坂區臺町三番地に現住し電話青山七二二番なり。

君は静岡縣の人芹澤伊三郎君の長男にして、明治十年七月二十八日を以て生

る。夙に實業界に活躍し曩に佐野原委託倉庫、渥美養魚、日本化學製油、富士煉

乳各株式會社取締役及び御殿場馬車株式會社監査役として盡瘁す。

現に龍登礦業株式會社社長たる外伊豆銀行、駿豆銀行、産業銀行、芹澤銀行、

東駿銀行、御厨銀行、三島商業銀行各株式會社取締役にして且つ廣根鑛泉、富士

鑛業、芝電氣工業、京濱運輸、千代田興業、駿河電化工業、三河鐵道、東京亞鉛

鐵工、東海石炭、東洋耐火煉瓦各株式會社の重役として知らる。
夫人きわ子との間に一男ありて岩夫君と稱す、因に令弟清根君は其の夫人りつ子と共に子女を伴ひて分家し、令妹さく子は静岡縣の人勝保瀧雄君に嫁す、静岡縣駿東郡泉村に現住す。

關 和 知 君

從五位勳四等
衆議院議員

君は千葉縣の人關八藏君の長男にして明治三年十月七日を以つて生る。夙に郷校を卒ふるや直ちに上京し、明治三十八年東京専門學校政治科を卒業し、更に米國に航してエール大學、ブリンストン大學等に學び造詣を深くして歸朝す。
曩に新房總、萬朝報各新聞記者、東京毎日新聞編輯長たりしのみならず、又内務大臣秘書官、司法省副參政官、明治神宮造營局參事官、陸軍省政務次官等を歴任し、現に新房總新聞業務監督にして且

つ衆議院議員として政界に令名高し。
夫人むめ子は千葉縣の人岡本七右衛門君の長女にして君との間に一男一女ありて和一君及びひさ子と呼ぶ、現に東京市牛込區市ヶ谷五五番地に住し電話四谷三〇〇八番たり。

森垣龜一郎君

工學博士 從四位勳三等

君は兵庫縣の人森垣宇市郎君の令弟にして、明治七年三月を以つて生る。明治三十一年東京帝國大學工科大学土木學科を卒業し、同三十二年大阪市築港事務所技師に任じ、同三十九年大藏省臨時建築部技師に任ぜらる。
然して明治四十年歐米に差遣せられ、歸朝後大正二年大藏技師に任命せられ同八年内務技師を兼ね、大正十二年神戸市都市計畫部長兼港灣部技師長に任ぜられ現に其の職に在り、大正八年工學博士の學位を授與せらる。
夫人ふみ子は兵庫縣土族神矢肅一君の

二女にして君との間に茂君、誠君、清君勉君及び花子等あり、現に神戸市籠池通七ノ二四番地に住す。

關 一 君

法學博士 正六位勳六等
大阪市長

君は東京府土族關近義君の長男にして明治六年九月を以つて生る。明治二十六年東京商科大学の前身たる、東京高等商業學校を卒業するや直ちに育英界に身を投じ、爾來斯界に貢献すること甚大、其の間高等商業學校教授、文部省視學官等を歴任す。
然して後ち教育界を辭して大阪市助役となり、現に大阪市長にして且つ大阪商業會議所特別議員たり、尙ほ曩に商業學研究の爲め白耳義に留學し、又清韓兩國に差遣せられしことあり。
夫人けん子は千葉縣の人犬塚源左衛門君の四女にして君との間に俊雄君、秀雄君、義雄君及び武子、和代子等あり、現

に大阪市南區天王寺勝山通一ノ四四番地に住す。

森 本 厚 吉 君

法學博士 正五位勳四等
北海道帝國大學教授

君は京都府の人増山純一郎君の三男にして明治十年三月を以つて生れ、明治二十九年八月森本治造君の養嗣子となる。夙に札幌農學校を卒業するや米國に渡りジョンズホプキンス大學に學び造詣を積みて歸朝す。

然して明治四十年東北帝國大學農科大學豫科教授となり、同四十一年同大學助教に轉じ、大正四年九月經濟學財政學研究の爲め再び米國に留學し、同七年三月歸朝と共に北海道帝國大學教授に任じ以つて現在に至る。

大正八年法學博士の學位を授けられ大正十二年財團法人文化普及會を東京に設立して其の理事長となり、社會改善事業殊に住宅問題解決の手段として五十萬

圓を投じ模範アパートメントハウスを建設し、消費經濟學の應用と研究に従事し、其の教育機關として月刊雜誌「文化生活」を編輯す。

夫人静子は大阪府の人増山乾三君の二女にして其の間に武也君、文子、和子等あり。

諸 新 平 君

福井鐵工株式會社事務取締役
北陸絹布株式會社事務取締役

君は福井縣土族齊藤政太郎君の令弟にして、慶應元年十月を以つて生れ先代諸ひさ子の入夫となる。
夙に實業界に身を投じ、活躍大いに努め現に前記の諸職にありて地方財界に相當の勢力を張り、尙ほ福井縣多額納稅者として知られ、現に直稅壹千七百四拾余圓を納むといふ。

夫人ひさ子は養父新平君の三女にして君との間に二男三女ありて要君、孝次君及び静子、しか子、つや子と稱す、現に

福井市足羽下二九番地に住す。

望 月 圭 助 君

正五位勳三等
衆議院議員

君は廣島縣の人望月東之助君の二男にして、慶應三年二月廿七日を以つて生る。夙に攻玉社共立學校、明治英學校等に學び、傍ら政治法律經濟學を修め學業成るや實業界に入り、鑛山業に従事せり。

然して後ち政治家たらんと志し、推されて衆議院議員に當選すること前後八回現に其の任に在りて政友會の重鎮として永く幹事長を勤め、原内閣時代に擧げられて農商務省參事官たりしことあり。

現に同會總務として令名あり尙ほ中央新聞社取締役にして曩に日獨事件の功に依り勳四等に叙せらる、團茶音曲等を趣味となす。

現に東京市芝區車町四四番地に住し電話高輪一六一六番なり。

森岡守成君

從三位勳一等功三級
陸軍中將

君は山口縣の人森重五衛門君の三男にして明治二年八月を以つて生れ、後ち先代正奇君の養嗣子となる。明治二十五年陸軍士官學校を卒業し陸軍騎兵少尉に任じ、同三十年陸軍大學を卒業し、大正八年陸軍中將に陞進せり。

其の間軍馬補充部員、軍務局課員、陸軍大學校教官、第五師團參謀、埃國大使館附武官、騎兵第十六聯隊長、騎兵實施學校長、參謀本部課長、青島守備軍參謀長、軍馬補充部本部長、近衛師團長等を歴任し、大正十四年五月軍事參議官に任ぜられ以つて現在に及ぶ。

夫人せつ子は東京府士族和田由恭君の令姉にして君との間に一成君、二郎君、守君及びヒノ子、義子等あり、現に東京府豊多摩郡中野町一六一八番地に住す。

關守戸君

安曇銀行專務取締役
北安曇銀行取締役

君は長野縣の人關恒司君の長男にして明治六年三月を以つて生る。夙に郷校を卒業するや笈を負ふて上京し、早稻田大學邦語政治科を卒業す。

現時は安曇銀行專務取締役たる外北安曇銀行取締役として地方金融界に活躍し、尙ほ傍ら安曇電氣株式會社取締役として令名あり。

家族は長男恒夫君、二男和親君等を始めとして養子篤君、長女芳子、二女秀子三女愛子、四女満子等あり、現に長野縣北安曇郡池田町に住す。

泉二新熊君

法學博士 從四位勳三等
司法省行刑局長

君は鹿児島縣の人泉二當整君の長男にして、明治九年一月を以つて同縣大島郡中勝村に生る。夙に郷校を卒業するや笈を

負ふて東上し、都文館中學校に學び明治二十八年同校を卒へて熊本第五高等學校に入り、進んで東京帝國大學法科大學に入り、明治三十五年優秀の成績を以つて同學を卒業す。

然して直ちに身を官界に投じ司法官試補を命ぜられ、同三十八年四月檢事に任じ、四十年四月司法省參事官を兼ねて君が驥才を發揮し、同年法律取調委員同幹事を仰せ付けられ、後ち東京帝國大學法科大學講師並に私立五大法律學校の講師に任じ、其の蘊蓄を傾注して幾多學徒の薫陶に盡瘁せり。

明治四十五年四月司法事務視察の爲め歐米各國に差遣せられ、大正二年三月歸朝するや兼官を免じ東京控訴院檢事に專補せられ、大正五年三月博士會の推薦に依り法學博士の學位を授けらる、現に前記の職にありて録々の名あり。
現に東京市外下澁谷町一七八三番地に住し電話高輪五二二五番なり。

守屋荒美雄君

株式會社帝國書局社長

曾つては教育界に盡瘁して令名を馳せ今また文化の源泉たる出版界に録々の名あるを我が守屋荒美雄君となす、君は岡山縣の人守屋鶴松君の三男にして、明治五年五月十五日を以つて生る。

幼にして早くも才幹衆を抜き、年齒僅かに十五歳にして小學教員の檢定試験に合格して地方教育界に投じ、更に研鑽琢磨、螢雪の功空しからず、二十四歳にして最も困難なる中等教員檢定試験に首尾よく登第し、直ちに中等學校の教諭に任じ、傍ら中等教科書を著す等君が育英の道に盡瘁すること甚大なりき。

然して後ち感ずるありて斷然教育界を退き、大正七年獨力帝國書院を創立して圖書出版業を始め、各中等學校の教科書其他一般圖書を刊行し、今や帝國書院の名全國に普ねく、曩に組織を改めて株式會社となし、現に同社取締役社長にして斯界の重鎮たるを失はざるべし。

趣味多様なる中にも讀書は君の最も好くするところ、就中、地理學の研究者として知らる。

夫人マツ子は神奈川縣の人押出治郎作君の長女にして、神奈川縣立高等女學校の卒業たり、現に東京市牛込區矢來町三九番地に住し電話牛込四一七六番なり。

森田政義君

衆議院議員

君は熊本縣の人森田實政君の令弟にして、明治十七年九月を以つて生れ後ち分家して一家を創立す。大正三年明治大學法科を卒業するや辯護士試験に合格し大阪市に開業す。

大正十三年の總選舉に際し大阪府郡部より推されて衆議院議員に當選し、現に其の職にありて政友本黨に屬し中央政壇の一異彩たるを失はず。

夫人トクノ子は大阪府の人柴谷伊之助君の二女にして其の間に大造君及びサジ子、政子等あり、現に大阪住吉町天王

寺に住す。

守屋善兵衛君

東北板紙株式會社取締役
東京動産火災保險會社監査役

君は岡山縣の人守屋彌作君の長男にして、慶應二年一月を以つて生る。夙に官界に職を奉じ曩に太政官御用掛兼制度取調局御用掛、文部屬等を歴任し、後ち臺灣に航して臺灣日々新報を創刊し更に滿洲日々新聞社々長に轉任し、又歐米諸國を巡遊して新聞通信事業及び印刷工業等を視察見學して歸朝す。

現に東北板紙、東京動産火災保險各株式會社の重役たる外吉林林業、東神火災保險各株式會社の重役にして我が財界に令名あり。

夫人キヨ子は栃木縣の人須永元君の令妹にして君との間に時郎君及び智子、行子等あり、東京市外目黒町一一八五番地に現住し電話高輪一一七番なり。

森永太一郎君

森永製菓株式會社社長

君は佐賀縣の人森永常次郎君の長男にして、慶應元年六月を以つて生れ、明治廿一年十一月絶家森永家を再興す。明治十八年横濱に出でて陶磁器貿易店員となり、同廿二年桑港に渡航し實業に従事せしが失敗に歸し、即ち志を轉じて菓子製造業者につき其の職工となり、つぶさに辛酸を嘗めて刻苦精勵十ヶ年、菓子製造の技術を研究して同卅二年歸朝す。

斯くて赤坂溜池附近に西洋菓子商店を開き、數年後にして赤坂田町五丁目に店舗を移し、更に明治四十年芝區田町一丁目に營業所を移轉し、自ら職工に伍して銳意斯業の擴張發展を計り、爾來業運隆盛に赴きしかば更に斯業の一大擴張を企圖し、之が組織を變更して森永製菓株式會社と改稱し、支店及び製菓工場を全國各地に設け、今や東洋一の製菓會社を以つて目せらるゝに至る、蓋し君の多年の奮闘の賜と云ふべく、「森永……」の

名聲内外に普し。

現に東京府荏原郡品川宿御殿山三四四番地に住し電話高輪一九番なり。

森村堯太君

伊勢崎銀行事務取締役

君は群馬縣の人先代堯太君の長男にして、明治二十年二月を以つて生れ、大正十二年家督を相續し前名其策を改む。

明治四十五年慶應義塾大學を卒業するや、東京渡邊銀行に入りしが大正七年同行を辭し現時利根運河會社社長、森堯合名會社代表社員たる外伊勢崎銀行、群馬銀行、森村土地各株式會社の重役として知られ尙ほ群馬縣多額納稅者にして現時直接國稅一千二百五十余圓を納むといふ。夫人富士子は岡村謙次郎君の長女にして貞淑の譽れ高し、現に群馬縣佐波郡宮郷町に住す。

最上謙吉君

角間川機業株式會社社長
平鹿銀行常務取締役

君は秋田縣の人最上廣胖君の三男にして、明治八年三月を以つて生る。明治二十九年慶應義塾大學正科を卒業するや、直ちに歸郷して地方産業の發達に盡瘁し現に角間川機業株式會社々長たる外平鹿銀行常務取締役にして、且つ秋田貯蓄銀行取締役として地方財界に聲名あり。

夫人イシ子は秋田縣の人久米良助君の長女にして君との間に義胖君及び榮子、とみ子、眞佐子、富美子、雪子等あり、現に秋田縣平鹿郡角間川に住す。

森彦三君

工學博士

名古屋高等工業學校長

君は岡山縣士族森庄藏君の二男にして慶應三年三月七日を以つて生る。明治二十四年東京帝國大學工科大学を卒業するや、直ちに身を官界に投じ遞信省鐵道省

各技師、帝國鐵道應技師、鐵道院技師等を歴任し、曩に中部鐵道管理局工作課長兼新橋工場長たりしが、現時は從四位勳三等工學博士にして名古屋高等工業學校長として令名あり。

夫人金子は岡山縣の人相賀經太郎君の令姉にして岡山縣女子師範學校を卒業し君との間に正門君、技視君、博視君、公視君及び喬敏子等あり。

守屋此助君

勳三等 法政大學理事

東京動産火災保險會社取締役

君は岡山縣の人守屋大一郎君の令弟にして、文久元年五月を以つて生る。夙に中央大學の前身たる東京法學院に學び後ち代言人試験に及第して狀師となり、一般訴訟事務に従事するに至れり。

然して明治二十七年岡山縣より推されて衆議院議員となり、爾來選出せらるゝこと前後數回に及べり、曩に日露事件の功により勳四等に叙せられ、且つ日獨事

件の勳功により勳三等に陞叙せられ、且つ法政大學理事として同校發展に盡瘁し傍ら東京動産火災保險、教育銀行、吉林林業、日本建築紙工、東神火災保險各株式會社の重役たり。

夫人千代子は東京府士族平塚光榮君の二女たり、現に東京市京橋區南佐柄木町五番地に住し電話銀座七三〇番たり。

茂木惣兵衛君

横濱貯蓄銀行頭取

茂木合名會社代表社員

君は先代茂木保平君の長男にして、明治二十六年三月を以つて生る。先代保平君は夙に高崎市に於て古着商を營みしが後ち横濱に出でて生糸貿易業を經營し、巨萬の富を蓄積して本邦有數なる實業家として數へらるゝに至る。

君は即ち生れながらにして其の富を恵まれ、裕福なる中に普通教育を卒へて八高に學びしも、たま／＼大正三年嚴父の逝去に際會し、遂に中途にして學を廢し

家業を繼ぎて前名其太郎を改稱す。

然して其の一時七十七銀行頭取を始めとして幾多事業會社に關係し横濱實業界に兩翼を自由に張りしが、現時は横濱貯蓄銀行頭取たる外合名會社茂木商店代表社員として知らる、現に神奈川縣横濱市辨天通り二ノ三〇番地に住す。

森田福市君

廣島縣多額納稅者
廣島縣會副議長

君は廣島縣の人森田善太郎君の長男にして、明治二十三年六月を以つて生る。夙に地方實業界に活躍し前廣島生糸株式會社取締役にして、且つ廣島縣多額納稅者として直稅壹萬七千三百九十余圓を納め當地方財界の一勢力たり、

斯くて財界に羽振りを利かすのみならず、又縣制に參與して其の敏腕を振ひ、現に廣島縣會副議長として知らる。

夫人マツヨ子は廣島縣の人荒川眞造君の長女にして其の間に津滿枝子、多計代

子等あり、現に廣島市西地方二八番地に住し電話一〇六八番たり。

持田 巽君

工學博士

富士瓦斯紡績會社專務取締役

君は福岡縣土族増崎正敏君の三男にして、明治元年六月を以つて生れ同十六年一月持田權六君の養嗣子となる。明治廿九年東京帝國大學工科大学機械科を優秀の成績を以つて卒業するや、直ちに實業界に投じ富士瓦斯紡績株式會社に入社して、同社工務部長兼技師長より累進して現時は同社專務取締役に於て、我が財界一方の重鎮たるを失はず。

夫人シゲヲ子は福岡縣の人平井五助君の令姉にして君との間に長男勝郎君、二男慶助君、三男順三君、五男俊作君、六男勇吉君、七男辰彌君及び長女コウ子、二女良子、三女英子等あり、現に東京市芝區高輪南町五三番地に住し、電話高輪三八一番なり。

茂木佐平治君

野田醬油株式會社取締役

千葉縣多額納稅者

君は千葉縣の人先代茂木佐平治君の長男にして、明治二十四年九月を以つて生る。夙に實業界に活躍し現に千葉縣多額納稅者にして直税二千七百七十餘圓を納め、且つ野田醬油株式會社取締役に於て知らる。

夫人愛子は千葉縣の人茂木房五郎君の長女にして君との間に資一郎君、永三君及び鎖子等あり、現に千葉縣東葛飾郡野田町に住す。

瀨川 秀雄君

文學博士 從四位勳四等

學習院教授

君は舊岩國藩士瀨川盛器君の長男にして、明治六年八月廿七日を以つて生る。明治二十九年東京帝國大學文科大學史學科を卒業し、更に大學院に入りて戰國時代中國史を専攻す。

茂木房五郎君

實業家

千葉縣多額納稅者

君は千葉縣の人先代茂木房五郎君の長男にして、明治三年七月を以つて生れ後ち家督を相續し前名熊藏を改稱す。

夙に東京商科大学の前身たる東京高等商業學校に學び、後ち實業界に投じ醬油醸造業を營み、現に野田商誘銀行、野田醬油、萬上味淋各株式會社重役として地

方財界に令名あり、尙ほ千葉縣多額納稅者にして現時直税壹千三百四十餘圓を納むといふ。

夫人ひで子は千葉縣の人茂木七郎右衛門君の叔母君にして、其の間に三千歳君芳次郎君、七郎君、新七君及びこと子等あり、現に千葉縣東葛飾郡野田町に住し電話三番たり。

森 廣三郎君

福井銀行取締役

福井絹糸倉庫會社社長

君は福井縣の人森廣三郎君の長男にして、明治三年十一月七日を以つて生れ前名廣輔を改めて襲名す。曾つて福井縣會議員、同參事會員として縣制に參與し、明治三十七年には貴族院議員に互選せられしことあり。

現時は勳四等にして福井縣多額納稅者として令名を謳はれ、前記の諸職にある傍ら越前電氣、福井紡績、北陸電化各株式會社取締役たる外日本水電株式會社監

査役として地方財界に名あり。

夫人くみ子との間に廣之君及びくみ子惠美子、英美子等あり、現に福井縣今立郡國高村に住す。

千賀千太郎君

岡崎貯蓄銀行頭取

岡崎商業會議所會頭

君は愛知縣の人千賀傳三郎君の長男にして、明治十五年十一月を以つて生る。

夙に實業界に活躍し現に岡崎貯蓄銀行頭取たる外額田銀行、岡崎銀行、岡崎瓦斯天龍電氣、燧洋電氣、三陽農林、静岡瓦斯、西尾鐵道、岡崎自動車、三河製粉、岡崎紡績各株式會社取締役に於て且つ三河セメント、尾三貯蓄、岡崎倉庫、細谷製糸、東洋建築材料、駿陽電氣、東産社各株式會社の監査役として地方財界に令名噴々たるものあり。

夫人なつ子との間に光吉君、武彌君及び千重子、百合子、三鶴子、十龜子、八與子等あり、岡崎市連尺町に現住す。

本野 亨君

工學博士

君は舊佐賀藩士本野盛亨君の四男にして本野精吾君の令兄に當り、子爵本野盛一君の叔父君たり。明治三十五年京都帝國大學理工科大学を卒業し、更に佛國に留學してシュナイデル會社工場及び高等電氣學校に入りて電氣工學を専攻して歸朝し、爾來京都帝國大學理工科大学助教授、同教授等を歴任す。

夫人きよ子は東京府士族坂田春雄君の二女にして其の間に二男一女あり、現に京都市上京區聖護院圓頓美町二一番地に住し電話上三三三番なり。

森村 開作君

男爵 正五位

君は先代男爵市左衛門君の二男にして明治六年十二月を以つて生れ大正八年襲爵す。明治廿五年慶應義塾を卒業し翌廿六年米國に航し同國商業學校に學び在留九ヶ年にして歸朝す。

爾來森村組に在りて父君の業を補佐し其の歿後之を繼承して森村銀行頭取を初め横濱正金銀行、九州水力電氣、富士瓦斯紡績、森村商事、第一生命、明治製糖其他幾多會社の重役及び森村豊明會、東京慈惠會、理化學研究所其他多數公共事業に理事又は幹事として盡瘁す。
夫人をうめ子と呼び子爵井上勝純君の令姉たり、東京市芝區高輪南町三三番地に現住し電話高輪六六七番なり。

森 廣 藏君

森村銀行頭取

君は鳥取縣の人森甚十郎君の三男にして、明治六年二月廿四日を以つて生れ同卅七年十二月分家して一家を創立す。
明治卅年東京高等商業學校を卒業するや、直ちに實業界に身を投じ横濱正金銀行に入り本店詰、上海支店詰、牛莊支店詰、倫敦支店詰等を経て神戸支店支配人となり同時に神戸商業會議所特別議員たりしが後ち倫敦支店副支配人に轉任し、

大正十二年三月臺灣銀行取締役の地位に就き副頭取たりしが、大正十四年八月同行頭取仰せ付けられ以つて今日に及ぶ、銀行俱樂部、交詢社、如水會、南洋協會日華實業會各會員たり。
夫人みつ子は兵庫縣土族奥田孫一君の長女にして其の間に長男幸雄君及び長女春子、二女節子、三女久子、四女泰子等あり、現に東京市芝區高輪南町四七番地に住し電話高輪一〇三番なり。

本 野 精 吾君

京都高等工藝學校教授

君は舊佐賀藩士本野盛享君の五男にして子爵本野盛一君の叔父君に當り、明治十五年九月十五日を以つて生れ後ち分れ一家を創立す。明治三十九年東京帝國大學工科大學建築科を卒業し、更に圖案學研究の爲め英佛獨各國に留學し斯學の研鑽を積みて歸朝するや、明治四十一年京都高等工藝學校教授に任ぜられ以つて現在に及ぶ。

關島卯三郎君

關島商店經營者

明治大學評議員

君は長野縣の人關島武市君の二男にして、明治十二年七月拾五日を以つて同縣下伊那郡下川路村に生る。夙に郷校を卒ふるや笈を負ふて東上し、切磋琢磨の功空しからず、明治三十六年優秀の成績を以つて明治大學法科を卒業す。
然して實業界に志し日本火災保險株式會社に入りて格勤すること三ヶ年、後ち東亞火災保險株式會社に轉勤し、更に大倉商事株式會社に轉じ、大正七年七月在職のま、中央火災傷害保險の前身たる日本火災傷害保險株式會社營業部長に擧げられ、同年九月大倉商事會社を辭して、

專心中央火災傷害保險株式會社の爲め盡瘁するに至れり。

偶々大正十四年十二月獨立の機運愈々

熱するや、奮然起つて獨立の旗幟を翻し關島商店を開設して中央、日本、東京、明治等各一流火災保險會社の代理店を特約し、尙ほ傍ら地方顧客の便益に資する目的を以つて代理部を兼營し、今や帝都同業界に於ける有數なる代理店を以つて目せられ、社會の信望月に年に加はり前途益々多望なるものあり。

尙ほ昭和二年四月全國火災保險被保險者を打つて一丸となし、我が國火災保險制度の改善發達に資するは勿論、被保險者相互の研究機關として廣く江湖の贊同の下に茲に大日本火災保險被保險者協會を創立し、君は其の理事として内外の事務を執筆する外、母校明治大學々員會評議員として盡瘁すること尠少なからず。

夫人みよ子は新潟縣の人安部吉右衛門君の四女にして新潟縣立産婆學校を卒業し、君との間に秀郎君、和郎君、吉郎君

及び綠子等あり、東京府荏原郡世田ヶ谷町大字北澤八〇二番地に現住す。

森 恪君

東京鑛業株式會社代表者

君は大阪府の人森作太郎君の二男にして、明治十六年二月十五日を以つて生る夙に實業界に身を投じ、曾つては三井物産株式會社天津支店長、中日實業株式會社常務取締役、小田原紡織株式會社取締役等を歴任して我が國實業界に貢獻すること甚大なり。

然して大正九年には衆議院議員に當選して政界に活躍し、現時は東京鑛業株式會社代表社員たる外東洋探炭、東洋運鑛東亞通商、滿洲探炭各株式會社の重役として斯界に聲名あり。

夫人榮枝子は男爵瓜生外吉君の三女にして君との間に新君、卓君等あり、現時は大阪市西區江戶川北通一ノ二九番地に住し電話土佐堀三六〇番なり。

茂木七左衛門君

野田商誘銀行常務取締役

君は千葉縣の人先代茂木七左衛門君の二男にして明治十一年八月を以つて生る夙に千葉縣下財界に羽振りを利用し、現に野田商誘銀行常務取締役たる外萬上味淋、野田醬油、北總鐵道各株式會社の重役として知られ、且つ千葉縣多額納税者として直接國稅壹千七百九十餘圓を納むといふ。

夫人まき子は埼玉縣の人關口茂一郎君の長女にして君との間に潤一郎君及びびりん子、春子、きぬ子等あり、現に千葉縣東葛飾郡野田町に住す。

關 直 彦君

衆議院議員 勳三等

君は舊和歌山藩士關平兵衛君の二男にして、安政四年七月を以つて生る。明治十六年東京大學法學部を卒業す。

曩に東京日々新聞記者、麴町區會議長代理、東京市會議員、帝國石油株式會社

長たりしが現時は日本格魯謨株式會社監査役に於て、且つ明治二十三年以來衆議院議員に當選すること前後九回に及び、現に其の任にありて我が政界に名噴々たり。

夫人はな子は石川善吉君の長女にして君との間に盛雄君あり、現に東京市京橋區木挽町一ノ一五番地に住し電話京橋一〇番たり。

百井 正明君

土木建築請負業
百井組頭取

帝都復興建築界に活躍して灼々たる名聲を博し、今や斯界に其の雌雄を競ふて漸次堅實なる地歩を獲得し、社會の信望月に年に増大する我が百井組代表者百井五三郎正明君は、明治十三年一月十日を以つて函館市に生る。

夙に郷里の中學校を卒業するや直ちに實業界に投じ、明治四十一年青雲の志を抱いて單身上京して東都建築界に投じ、大

正元年當時斯界の重鎮を以つて目せられし兩宮長次郎氏の配下に入りて、専心斯業研究の傍ら自ら業務擔當責任者として活躍大いに努め、其の間三越呉服店本館東京銀行集會所、東京海上ビルディング等の大建築工事に從事して何れも完璧を期して賞讃を博し、同組の發展に盡瘁すること甚大なりき。

然るに怨むべし、大正五年四月兩宮長次郎氏不幸病を得て他界せしかば、君其の遺族及配下一同の懇請を入れて業務を繼承して獨立開業し、爾來益々奮闘以つて今日に及べるものにして、此の間請負工事數枚舉に違あらざるも就中其の主なるものは宮中賢所御前コンクリート堀、淀橋專賣局修築工事、代々木停車場改築工事、霞ヶ關海軍省構内無線電信塔、濱松市三方ヶ原飛行七聯隊飛行機格納庫等諸官衙の大建築工事を始めとして、三菱假本社、三菱銀行部、朝鮮銀行本館、東京會館、三越呉服店西南各館、同落合彩色工場、同目白製線工場、日本工業俱樂部、

部、横濱正金銀行東京支店、國技館、上野國產獎勵會館、丸ノ内ホテル、東京株式取引所等の都下著名なる鐵筋コンクリート新築工事及び横濱正金銀行、日本銀行、千代田館、淺野セメント、東洋印刷東亞製粉、帝國劇場、第一銀行、森村銀行等の各復舊修理工事は勿論土方伯爵邸岡部邸、大島邸等諸名家の建築請負に至るまで何れも完璧を期し、君が責任ある請負と優秀なる技術とは愈々社會の信望を擔ひ、今や帝都はおろか遠く各地方にまで其の勢力を波及し、我が百井組の名聲東西に噴々たり。

復興の帝都は多事にして多端、君の力に俟つべきもの蓋し多からん、宜しく自重自愛以つて其の大成を期して可なりである。因に君は深く日蓮宗に歸依し常に御聖訓を以つて其の事業的精神の骨子となし、更に「一心欲見佛、不自惜身命」を君の生命省察の玉條として修養これ怠らず、又正武護國會道場を開設しては精神鍛練の機關となし、尙ほ大日本武德會

特別會員たり、以つて君の人と爲りを知るべく、今日東都土木建築界にありて録々の名ある故なきにあらざるべし。現に事務所を神田區三河町に有し、府下池上町德持四四六番地に現住す。

森 田 繁 男 君

利根運河株式會社專務取締役
唐津炭礦株式會社取締役

君は群馬縣士族高昌平作君の二男にして、明治元年八月を以つて生れ先代信四郎君の養嗣子となる。夙に實業界に投じ現に利根運河株式會社專務取締役たる外唐津炭礦株式會社取締役に於て又會つて縣會議員として縣制に參與せり。

夫人まき子は群馬縣の人森田文字君の長女にして君との間に二女ありてサダ子等なり、千葉縣東葛飾郡新川に現住す。

森 平 兵 衛 君

實業家

君は大阪府の人松井小兵衛君の二男に

して明治七年二月を以つて生れ、先代平兵衛君の養子となり前名小二郎を改稱す現に大阪商業會議所議員にして且つ東亞藥業株式會社取締役に於て外東印度貿易株式會社監査役たり。

森 田 三 郎 君

辯護士 特許辨理士
實業家

君は滋賀縣の人森田利兵衛君の長男にして、慶應三年十月を以つて生る。明治二十九年東京帝國大學法科大學を卒業するや官界に職を奉ず。

爾來京都區裁判所檢事等の要職にありしが後ち官を辭して辯護士を開業し、現に其の職にある傍ら大阪ホテル、京都信託各株式會社の專務取締役に於て外京都第一倉庫、大阪工業藥品、大阪ビルヂン

グ、名古屋信託、東亞興業、東洋塗料各株式會社重役として知らる。夫人さい子は京都府の人甲和龜次郎君の長女にして君との間に二男二女あり、現に京都市上京區柳號場通御池南入に住し電話上一二三〇番たり。

瀨 川 昌 世 君

醫學博士
瀨川小兒科病院長

君は故醫學博士瀨川昌着君の長男にして、明治十七年十一月二十三日を以つて生る。明治四十三年東京帝國大學醫科大學を卒業するや、更に獨逸に留學して斯學の研究を積むこと數年、其の造詣を深くして歸朝す。

然して専心小兒科の研究に盡瘁し、今や我が國醫學界に小兒科の權威として名高く、現時瀨川小兒科病院長として知られ、且つ内務省保健衛生調查會委員たり、曩に醫學博士の學位を授與せらる。夫人喜子は男爵古市公威君の長女にし

て、東京女子高等師範學校附屬高等女學校の卒業たり、東京市本郷區弓町二丁目三十四番地に現住し電話小石川一二六一番なり。

盛田喜平治君

七戸水電株式會社社長
青森縣多額納稅者

君は青森縣の人盛田喜平治君の長男にして、慶應元年八月を以つて生る。夙に實業界に投じ、現に七戸水電株式會社社長にして、且つ青森縣多額納稅者として直税壹萬三千三百七十餘圓を納め當地方に於ける勢力家の如し。

夫人との間に富太郎君及びさと子、かつ子、きよ子等あり、現に青森縣上北郡七戸に住す。

諸井四郎君

西武鐵道會社常務取締役

勳四等實業家諸井四郎君は埼玉縣の人諸井泉衛君の四男にして、明治二年一月

を以つて生れ、後ち分家して一家を創立す。明治三十三年東京帝國大學法科大學佛法科を卒業するや直ちに實業界に投じ京釜鐵道會社會計課長、澁澤倉庫支配人日本煉瓦製造會社取締役等を歴任し、日露事件の功に依り勳六等に叙し瑞寶章を授けらる。

明治三十八年より東亞製粉株式會社社長たりしが大正十一年六月同社を辭し、現時は西武鐵道株式會社常務取締役として内外の事務を執掌する傍ら、東京毛織株式會社並に秩父鐵道株式會社取締役として知らる。

夫人をせき子と呼び東京府の人柿沼谷藏君の令妹たり、現に東京市本郷區湯島新花町九四番地に住し電話小石川二二七九番なり。

守田勘彌君

俳優

君は本名を守田好作と呼び十二代目勘彌の三男にして、明治十八年十月十八日

を以つて生る。夙に劇界に志し、僅かに六歳の頃新富座に於て「樋口逆櫓の遠見の船頭」の初舞臺より早くも其の才幹を發揮し、明治二十二年先代を襲名して勘彌と改め同時に市村座出動となる。

大正七年十二月市村座を退きて文藝座を組織し菊池寛氏の作「忠直卿行狀記」を上演して新劇俳優としての技倆を世に問ひ、更に同八年四月帝劇專屬となり新劇を上演し、時に市川猿之助君の春秋座に加盟して劇界の衰頹振興に努力し、俳優の先覺者として將來を囑望せられ「忠直卿行狀記」「恩讐の彼方」「俊寛」「幽霊」「その妹」「生きてゐる小平次」等は君の最も得意なりしものにして今や守田勘彌の名我が劇壇に噴々たり。

俳句を能くしさつきの栽培に妙なりといふ、夫人を君子と呼び内助の譽れ高し現に東京市下谷區上根岸町一一九番地に住し電話下谷三二〇九番なり。

森 淑君

西武銀行常務取締役

君は静岡縣の人森定四郎君の長男にして、明治五年三月を以つて生る。現に西武銀行常務取締役たる外、島田銀行取締役にして且つ島田軌道株式會社監査役として知らる。

夫人津奈子は静岡縣の人氣賀半十郎君の長女にして其の間に四男六女あり、現に静岡縣志田郡島田村に住す。

森 政美君

合資會社ラヂオ商會社長

奮闘今や着々として我が財界に雄飛しつつあるラヂオ商會代表社員森政美君は東京府の人森善平君の長男にして、明治十六年四月十一日を以つて生る。

夙に香川縣立中學校を卒業するや青雲の志を抱いて東上し、研鑽以つて中央大學を卒業し、直ちに身を實業界に投じ、明治四十四年十二月より銀座菊屋町に貿易商を開設し、後ち大正十三年六月井上

電話店を開き、電話賣買仲立業に従事する傍ら合資會社ラヂオ商會代表社員として活躍するに至る、尙ほ東京無線電話機商組合員にして曩に東京電話營業組合幹事たりしことあり。

夫人梅子は東京府の人島等平八君の長女にして貞淑の譽れ高し、現に東京市日本橋區本石町一ノ一番地に住し電話大手一〇〇五番一八八〇番なり。

關 重兵衛君

群馬縣多額納稅者
伊勢崎銀行取締役

君は群馬縣の人鈴木重太郎君の三男にして、慶應三年九月を以つて生れ後ち先代重兵衛君の養嗣子となる。夙に實業界に身を投じ現に伊勢崎銀行、上毛燃糸各株式會社取締役にして、且つ群馬縣多額納稅者として直税三千九百八十餘圓を納むといふ。

夫人しげ子は群馬縣の人須藤儀左衛門君の三女にして君との間に定平君、信夫

君及びふみ子等あり、現に群馬縣佐波郡伊勢崎に住す。

持 永善市君

都城銀行取締役

君は宮崎縣の人持永善吉君の長男にして、明治九年十月を以つて生る。現に都城銀行取締役たる外宮崎農工銀行監査役にして且つ眞幸電氣、北諸縣郡是製糸各株式會社取締役たり。

夫人スエ子は同縣の人南崎十兵衛君の二女たり、現に宮崎縣北諸縣郡加島村に住す。

森 田 佐吉君

實業家

大阪米穀取引所取引員

君は森田源次郎君の長男にして、明治元年九月を以つて播磨國に生る。當家は代々米穀商を營みしが君の幼時に於て、嚴父源次郎君公債株式の賣買業を初めて見事失敗し、家産の全部を失ひしかば忽

ち家計に窮するに至りぬ。

然して君年齒僅かに二十五歳にして、
蹶然起つて北海道に到り、干錫商に従事
すること二年、尋いで古金銀買業を營
み更に轉じて、爾仲買人となりしもこれ
又失敗に終り、更に醬油醸造業を營みて
再び失敗する等種々の逆境不遇を経て、
明治四十二年大阪堂島米穀取引所の仲買
人となり、爾來拮据經營せしかば幸運廻
り合ひて遂に今日の隆盛を來たすに到れ
り、現に大阪市北區堂島濱通に住す。

諸戸北郎君

東京帝國大學教授

君は三重縣の人諸戸清三君の長男にし
て、明治六年九月一日を以つて生れ先代
清吉君の養嗣子となる。明治三十一年東
京帝國大學農科大學林學科を卒業し、更
に大學院に入り學業成るや林業研究の爲
め獨逸洪各國に留學す。

然して歸朝後は専ら教育事業に盡瘁し
曩に東京帝國大學農科大學助教にして

又清韓兩國に差遣せられ、現に東京帝國
大學教授として令名あり。

夫人ち世子との間に元一君及び敏子等
あり、東京市赤坂區青山南町五ノ四五番
地に住す。

森田國太郎君

土木建築左官工事請負業

東京左官工業組合工友會長

君は東京府の人にして明治三年五月を
以つて生る。當家は代々商業を以つて業
となし、東都に於ける有數なる老舗たり
しが、君の時代より土木建築界に志を立
て、斯界に活躍し、明治三十年獨力以つ
て左官工事其他一般土木建築の請負を開
始し、爾來幾多の波瀾曲折は免れざりし
と雖も、業運慨して順調を辿り以つて今
日に及べるものなり。

然して其の永き年月の奮闘によりて得
たる君が尊き經驗と修練とは、漸次技術
の上に遺憾なく發揮せられ、その優秀な
る技術と堅實なる施工振りとはやがて社

森下龜太郎君

辯護士 辨理士

君は岡山縣士族森下真諒君の三男にし
て明治二年十一月を以つて生る。明治二
十七年明治法律學校を卒業し、曩に衆議
院議員たりし外大阪市會議員たりしが、
現時は辯護士及び辨理士として大阪法曹
界に令名あり。

夫人奈良免子は大阪府の人杉野與宗君
の二女にして其の間に五男五女あり、現

に大阪市東區今橋通五ノ八番地に住し電
話本局一二四三番なり。

森岡保喜君

東京市下谷區長

君は原籍を大阪府に有し、明治八年十
二月を以つて高知縣土成郡小高坂村に生
る。夙に郷校を卒ふるや青雲の志を抱い
て東上し、中央大學の前身たる東京法學
院大學に學び、研鑽琢磨螢雪の功空しか
らず、明治三十三年十月優秀の成績を以
つて同學を卒業す。

然して後ち職を官界に奉じ、明治四十
年六月兵庫縣警部に任じ、翌年八月文官
普通試験に首尾よく登第し、同四十三年
六月警視廳警部に榮轉し、翌年六月東京
市淺草區象潟警察署長に任ぜられ、爾來
同區の爲め貢獻すること甚大なりき。

斯くて大正二年九月辭して日本橋區役
所に入り同書記として恪勤すること一昔
年、大正十二年同區主事に陞進し、更に
大正十五年十二月拔擢せられて、東京市

下谷區長の椅子を贏ち得て以つて現在に
及ぶ、復興途上にある帝都は多事にして
多端、天稟豊かなる君の才量を發揮して
同區の爲め盡瘁する又疑ひなかるべし、
現に東京市麻布區廣尾町七十九番地に住
す。

茂木鋼之君

東京ザルグエージ會社會長

君の長男にして、安政五年六月を以つて
生る。夙に海事に志し、明治五年攻玉堂
近藤塾に入りて航海術及び數學を修得し
同十年三菱會社に入り、同十八年同社が
共同運輸株式會社と合併して日本郵船株
式會社の成立を見るや、君入りて同社所
有船の船長となり、各地を航して功績甚
大なりき。

偶々日清戰役勃發するや君は陸軍運輸
送船々長及び海軍病院船神戸丸船長とし
て國家の爲め功を立て勳六等に叙し旭日

會の信望を博し、今や東都同業界の元老
として重きをなし、傍ら東京左官工業組
合工友會々長として盡力すること蓋し甚
大なり。

君や資性豪放、毫も些々たる小事に拘
泥せず、又極めて義俠に富み、後輩を誘
掖する懇切にして、其の敬虔なる徳は世
人の最も畏敬するところ、君の今日ある
又故なきにあらざるべし。

現に東京市神田區紺屋町十一番地に住
す。

章を授けられ同三十年八月監督助役に轉
動し、日露の役には佐世保及び海軍根據
地に出張して會社の御用船事務を監督し
功に依り勳五等に叙し同三十九年監督に
進み次いで航海課長となり、現に東京サ
ルグエージ株式會社取締役會長たり、曾
つて大藏省臨時建築部顧問を囑託し又内
務省港灣調査會委員に擧げらる。

夫人まさ子は東京府士族小林彌三郎君
の令妹にして君との間に省一君あり、東
京市小石川區原町一三番地に現住す。

關谷守男君

關谷合資會社代表社員

東三商事株式會社取締役

君は愛知縣の人關谷泰君の長男にして
明治十五年十月を以つて生る。夙に地方
財界に活躍し、現に前記の要職にある外
北設樂銀行、新城病院、三州絹紡、三河
木材各株式會社取締役として知らる。

尙ほ愛知縣多額納稅者にして現時直接
國稅二千四百九十餘圓を納むるを以つて

地方實業界に名あり。

夫人きみ子は愛知縣の人中村正次君の長女にして君との間に一郎君、晃君、城三君及びるみ子、千枝子等あり、現に愛知縣北設樂郡田口町に住す。

關本英作君

常盤生命保險會社事務取締役

君は山梨縣の人關本勘左衛門君の令弟にして、明治五年八月を以つて生れ同十二年十月絶家關本家を再興す。

明治二十九年東京帝國大國工科大学機械工學科を卒業するや、直ちに實業界に投じ三重紡績株式會社に入社して同社技師に任じ、爾來同社の發展に盡瘁すること甚大、累進して同社取締役擧げられ後ち東洋織布株式會社事務取締役として内外の社務を執掌し、其の貢獻すること尠少ならざりき。

然して感ずるところありて斷然職を辭して歐米視察の途に上り、彼の地の經濟狀況を具さに研究して歸朝し、後ち常盤

生命保險株式會社の創立に參畫して其の設立を見るや推されて同社事務取締役に就任し、以つて現在に及べるものにして傍ら日本觀光、大正鑛山各株式會社取締役及び愛知銀行協議役たり。

夫人とく子は山梨縣の人志村源太郎君の養妹にして其の間に健男君、健二君及び八重子等あり、東京市牛込區南榎町五四番地に現住し電話牛込五四三番たり。

森俊六郎君

正四位勳三等

山東鑛業株式會社監査役

君は福島縣の人森惣左衛門君の五男にして、明治十年三月六日を以つて生る。明治三十五年東京帝國大學法科大学政治科を卒業するや、直ちに官界に投じ大藏省に職を奉じ、翌年書記官に任ぜられ爾來大藏大臣秘書官、同省參事官、同書記官兼參事官、銀行局長、理財局長等を歴任せり。

然して後ち官界を辭して臺灣銀行に入

り、同行副頭取仰せ付けられしが、後ち南滿州鐵道株式會社理事に任じ、現に其の職にある傍ら山東鑛業株式會社監査役たり、謠曲に堪能にして社交に厚く日本俱樂部、鐵道協會各會員たり。

夫人朝子は子爵大久保忠春君の令姉にして女子學習院を卒業し君との間に倭子文子等あり、現に東京市牛込區若松町七五番地に住し電話牛込五五七番たり。

元田傳君

東京高等師範學校教授

君は東京府の人元田直君の長男にして同輩君の養弟に當り、慶應三年六月を以つて生る。明治二十三年東京帝國大學理科大學を卒業し、尙ほ進んで大學院に學び、更に明治三十四年數學研究の爲め英國及び獨逸に留學し、造詣を深くして歸朝す。

然して歸朝後は専心教育界に盡瘁し曩に海軍大學教授たりしが現時は從五位勳四等勅任待遇にして、東京高等師範學校

教授たり。

夫人を楓子と呼び京都府士族李家隆介君の令妹にして君との間に太郎君、大助君及び福子、愛子、慶子等あり、現に東京市小石川區大塚仲町二六番地ノ第八號に住す。

關矢孫一君

小出銀行取締役會長

衆議院議員

父祖三代連綿たる政治家として有名であり、更に父祖傳來の資産二百餘萬圓を擁する素封家として、名にしあふ青年政治家關矢孫一君は、故衆議院議員關矢橋太郎君の二男にして、明治二十五年二月十五日を以つて生る。

夙に小千谷中學校を経て慶應義塾に入りしも、嚴父早逝の爲め中途にして學業を廢し、爾來郷里にありて廣瀬村會議員北魚沼郡聯合青年團長等に推され、續いで大正十三年新潟縣郡部より立候補を宣し木村、樋口の兩醫學博士を向ふに廻し

て奮戦し、遂いに當選の榮冠を克ち得て中央政界に乗り出し憲政會に屬す。

今や其の雄辯と機略縦横とは父祖を辱めざる前途多望の政治家と目せられ、尙ほ前記諸職の外堀田銀行、北越殖民各株式會社の重役にして且つ新潟縣多額納税者として、現時直接國稅四千八百五十餘圓を納む、文學、劇、音樂等に趣味を有すといふ。

夫人由美子は新潟縣の人佐藤佐平治君の六女にして内助の聞へ高し、現に東京府豊多摩郡下澁谷三〇番地に住し電話青山六〇八一番なり。

森伊三次君

實業家

君は長崎縣士族森伊三次君の長男にして、明治二年十月を以つて生る。現に長崎具卸、久保鐵工所各株式會社取締役にして且つ日本タルク製造株式會社監査役たり。

夫人をミサ子と呼び其の間に吉郎君及

びノブ子、フミ子等あり、現に長崎縣長崎市館内町に住す。

森田三郎右衛門君

醬油醸造業及船荷卸商

君は福井縣の人森田三郎右衛門君の長男にして、明治十二年十二月を以つて生る。現に福井縣多額納税者にして森田銀行及び森田貯蓄銀行の各頭取たる外森田銀行倉庫運送部の社長たり。

夫人かず子は同縣の人横山吉十郎君の養女にして其の間に四男五女あり、現に福井縣坂井郡三國町に住す。

森正則君

小樽商會會議所議員

大正證券株式會社取締役

君は愛媛縣士族岡本正金君の養子にして、明治五年四月を以つて生る。現に小樽商業會議所議員にして、且つ大正證券株式會社取締役たる外早川商店と稱して文具具商を營み地方財界の重鎮たり。

夫人タケ子は養父久通君の二女にして其の間に久則君、龍夫君、通則君及びタミ子等あり、現に北海道小樽市色内町七丁目に住す。

關口兒玉之輔君

東洋紙工印刷會社常務取締役
大島拓殖電氣會社長

君は埼玉縣の人關口直温君の二男にして、明治十一年七月三十一日を以つて生れ、大正四年絶家關口家を再興す、明治三十六年專修大學理財科及日本大學法律科を卒業するや、直ちに實業界に入り日本人造肥料株式會社に入社し、在勤十三年大いに敏腕を振ひぬ。

然して大正八年十一月大正紙器株式會社に轉じて其の支配人となり、後ち東洋紙工印刷株式會社取締役支配人となり、尋いで同社常務取締役に擧げられ、現に其の任にある外大島拓殖電氣株式會社取締役社長として知らる。
趣味として美術工藝品あり特に虎に關

するものを愛好すといふ。

夫人ます子は東京府の人桑山龍之助君の二女にして其の間に長男直久君、二男進兒君、三男博之君、四男武之輔君及び長女達子等あり、現に東京市本郷區駒込蓬來町七番地に住し電話小石川五九〇五番なり。

瀨下 清君

三菱銀行常務取締役
日佛銀行取締役

本邦銀行界の重鎮瀨下清君は長野縣の人瀨下七兵衛君の三男にして、明治七年九月十八日を以つて生れ後ち先代起十君の養嗣子となる。

明治三十六年東京高等商業學校附屬主計學校を卒業するや實業界に志し、三菱合資會社に入社し、漸次昇進して同社銀行部支配人より常務取締役に擧げられ、現に其の要職にある傍ら日佛銀行、三菱海上火災保險各株式會社の重役として知らる。

曾つて銀行事務研究の爲め歐米に留學せしことあり。讀書に趣味を有し銀行俱樂部、交詢社等の各會員たり。

夫人千勢子は東京府士族笹田敬修君の長女にして其の間に長夫君及び連子、克子、悦子、春子、和子等あり、現に東京市芝區車町七六番地に住し電話高輪一三二番なり。

關根 要 八君

日本鐵工株式會社會長
東洋汽船株式會社取締役

君は福島縣の人關根直藏君の五男にして、明治六年五月三十日を以つて生る。明治二十六年青山學院を卒業するや、更に露國陸軍大佐イワノサ及び文學士莊司鐘五郎君等に就いて露語を研究す。

然して研鑽を積むや實業界に投じ、淺野商店廻送部に入り汽船事務長となり沿岸航路に従事せしが、明治二十八年貨物監督となり露領浦塩及び樺太に航し、明治二十九年東洋汽船株式會社に轉勤し、

同社調度課長、文書課長等を歴任し、大正八年同社專務取締役に擧げられ其の經營に盡瘁せしが、後ち同社を辭し現に前記の諸職にある外帝國ホテル常任監査役として知らる。

夫人惠美子は東京府士族潮田建二郎君の二女にして青山女學院を卒業し君との間に直矢君、健兒君及び八千代子、芳枝子、静子、巳代子、和子等あり、現に東京府荏原郡上大崎二五四番地に住し電話高輪一六二六番たり。

森田 富次郎君

浮羽銀行頭取

君は福岡縣の人森田益藏君の長男にして、明治三年十二月を以つて生る。現に浮羽銀行の頭取たる外田主丸銀行及び田主丸貯蓄銀行、兩筑軌道各株式會社の取締役たり。

夫人をマサ子と稱し同縣の人有吉金右衛門君の長女にして其の間に千君、工君、阜君及び陸子、ハマ子、イコ子等あり、

現に福岡縣田主丸町に住す。

森 環君

大分縣農工銀行監査役

君は大分縣の人森鶴吉君の長男にして明治九年六月を以つて生る。現に勤四等にして大分縣農工銀行監査役たる外鶴崎木材株式會社取締役たり、又大正四年衆議院議員に當選せしことあり。

夫人をコヌエ子と呼び大分縣の人首藤玄甫君の二女にして君との間に三男一女あり大分縣大野郡上井田村に現住す。

瀨島 猪之丞君

東京揮發油株式會社社長
千代田石油株式會社社長

君は鹿児島縣の人瀨島熊助君の長男にして、明治三年二月一日を以つて生る。夙に實業界に志し明治二十六年東京商科大學の前身たる東京高等商業學校を卒業するや、直ちに日本石油株式會社に入社し、漸次累進して同社營業課長たりき。

大正三年同社を辭して旭石油株式會社の前身たる瀨島製油所を創立し、後ち同所を旭石油株式會社と改稱して自ら其の社長に任じ、多年の滲蓄を傾注して社運大いに擧りしかば更に東京揮發油株式會社を創立して社長となり、大正十三年二月千代田石油株式會社を創立して其の社長に就任し以つて現在に及ぶ。

趣味として園藝あり、相州湯河原の所有地内の温泉廢湯を利用して温室を作り四季百花を以つて満たさるゝと云ふ、現に東京市牛込區納戸町三七番地に住し電話牛込一四九一番なり。

關 戸 守 彦君

日本貯蓄銀行頭取
愛知縣多額納稅者

當家は代々名古屋に住し、各藩士の御用金方を勤め、同地三人衆の一に數へられし舊家にして、君は先代二郎君の長男に當り、明治二年八月を以つて生る。夙に地方金融界に活躍し獨力以つて關

戸銀行を創立し、後ち同行が愛知銀行と合併せらるゝや君推されて同行重役に擧げられ、現に其の職にある外前記銀行頭取にして、且つ千歳殖産株式會社取締役として地方財界に重きをなす。

尙ほ愛知縣多額納税者にして現時直接國稅五千百餘圓を納むるを以つて知らる。趣味として書畫、骨董を愛好し其の鑑識力非凡なりといふ。

夫人隆子は兵庫縣の人小西茂十郎君の三女にして君との間に有彦君、明君、高君及び菽子、苗子、和子、淳子等あり、現に名古屋市西町堀詰十七番地に住し電話西一〇〇七番たり。

本川藤三郎君

水見銀行頭取

水見電氣株式會社取締役

君は富山縣の人吉田善七郎君の二男にして、明治十年八月を以つて生れ、後ち先代藤三郎君の養嗣子となり前名友次郎を改稱す。

夙に地方財界に投じ現に前記の外富山合同貯蓄銀行、丸一木材各株式會社取締役にして、尙ほ富山縣多額納税者として直稅壹千六百六十餘圓を納むといふ。夫人との間に藤一郎君、藤成君、及びみよ子、てる子等あり、現に富山縣氷見郡氷見に住す。

瀨木博尚君

株式會社内外通信社長

信越木材株式會社取締役

君は東京府士族瀨木博重君の長男にして、嘉永五年十月を以つて生る。夙に實業界に投じ後ち株式會社内外通信社を創立して同社長に就任し、内外新聞通信事業に貢献すること甚大、且つ株式會社博報堂を興して廣告通信業を營み、我が國斯界の元祖として知らる。

尙ほ前記の諸職にある傍ら日本化工、富士木材各株式會社の重役にして且つ前記博報堂主たり。曩に我が國新聞通信及び雜誌等の歴史

的發展を永く後世に遺し、斯業の發展に資せんことを志し、吉野作造博士等と相謀り同資料保存の爲め東京帝國大學構内に資料保存館を建設すべく、多額の寄附をなす等君が我が通信事業に貢献すること蓋し甚大なりと云ふべし。夫人とめ子は千葉縣の人武田常吉君の叔母君にして君との間に博吉君、博俊君、博信君、博政君、博克君及び静子、純代子、美佐子等あり、現に東京市牛込區河田町九番地に住し電話牛込一一二〇番なり。

諸戸清六君

諸戸殖産株式會社社長

内外倉庫運輸株式會社取締役

君は三重縣の人諸戸清六君の四男にして明治十七年七月五日を以つて生れ、前名清吾を改めて襲名し其の家督を相續す。嚴父清六君は米穀仲買業を營み、後ち諸戸殖産合名會社を創立して専ら土地開墾及び殖産林業等に從事し、明治二十年に

は海防費として金二萬圓を獻納し從六位に叙せらる。

君即ち祖業を繼承し曩には東海生命保險株式會社取締役に擧げられ、現に諸戸殖産合名會社社長たる外福島木材、内外倉庫運輸各株式會社取締役として知らる。夫人てる子との間に民一君、鐵男君等あり、現に東京市麴町區元園町及び三重縣桑名郡桑名町に住す。

守安瀧次郎君

秋田木工株式會社事務取締役

株式會社日米商店取締役

君は東京府の人守安瀧三郎君の長男にして、明治二十年七月を以つて生る。明治四十年東京商科大學の前身たる東京高等商業學校を卒業するや、直ちに實業界に投じ横濱正金銀行に入りて同行本店、安東縣出張所、大連支店等を歴勤す。

然して後ち同行を辭して歐米に歴遊し彼の地の經濟狀況を視察見學して歸朝し現に秋田木工株式會社事務取締役たる外

株式會社日米商店取締役たり。

夫人喜美子は和歌山縣の人明渡知瑜太郎君の長女にして君との間に祥太郎君及び照子等あり、現に東京市牛込區市ヶ谷加賀町二ノ十六番地に住し電話牛込七三四番たり。

守田保太郎君

フナムシ製菓株式會社事務取締役

君は東京府の人先代重次郎君の長男にして、明治十五年三月を以つて生る。現にフナムシ製菓株式會社事務取締役たり。夫人をハル子と稱し東京府の人森島萬造君の三女なり、現に東京市外入新井新井宿一四五九番地に住し電話大森六四〇番たり。

望月利八郎君

廣島縣多額納税者

君は廣島縣の人望月利八郎君の長男にして、明治三年三月を以つて生る。夙に廣島地方財界に投じ、てんぐ本店と稱し

て當地方有数の小間物問屋として知られ尙ほ廣島縣多額納税者として直稅壹千六百六十餘圓を納むといふ。

夫人との間に庄太郎君及び富美子、継子等あり、現に廣島市中島本七三番地に住し電話三六一番なり。

森永善吉君

森永製菓會社取締役總務部長

君は小林平左衛門君の三男にして、明治十九年十月を以つて生れ大正五年森永太一郎君の養嗣子となる。夙に米國に航し彼の地の實業界に活躍して實地の研鑽を積むこと三年有半、大いに造詣を深くして歸朝す。

然して歸朝するや直ちに森永製菓株式會社に入社して同社販賣部長、仕入部長、營業部長、外國販賣部長等を歴任し累進して現に同社取締役兼總務部長として内外に重きをなし、傍ら森永製品販賣株式會社の重役として知らる。謠曲は君の最も得意とするところ、其餘韻や鐘々と

して頗る珍妙なり……とか。

夫人マサ子は養父太一郎君の長女にして東京高等女學校の卒業たり、現に東京府荏原郡北品川宿七二七番地に住す。

森山茂君

大洋速進機製作所代表社員
垣根商店支配人

君は岡山縣の人森山代乃君の長男にして、明治十九年一月二十九日を以つて生る。夙に郷校を卒ふるや笈を負ふて東上し、研鑽琢磨、螢雪の功空しからず早稲田大學法科を卒業す。

然して直ちに實業界に投じ、明治四十四年以來垣根商店に恪勤精勵、同店發展に盡瘁すること甚大にして、現に其の支配人として内外の事務を執掌する傍ら、合名會社大洋速進機製作所代表社員として知らる。

夫人操子は東京府士族村田重治君の三女にして愛知縣立高等女學校の卒業なり、現に東京府北豊島郡高田町巢野三五五一

番地に住し電話牛込七八二番たり。

關口伊太郎君

大阪府多額納稅者

君は大阪府の人關口金次郎君の三男にして、明治九年十一月十八日を以つて生る。現に大阪府多額納稅者として直接國稅五千二百九十余圓を納め、即ち多額納稅者の故を以つて名士として恥かしからざる人物なり。

夫人ソノ子は大阪府の人森川岩吉君の二女にして君との間に伊三郎君、信二君及びハナ子、フヂ子、絹子、愛子、尚子等あり、現に大阪市浪花町南坂一五四ノ一番地に住し電話南一三六二番たり。

森六郎君

株式會社森商店社長
徳島縣多額納稅者

君は徳島縣の人森六郎君の長男にして、明治五年二月を以つて生れ、後ち家督相続と共に襲名して前名英太郎を改稱す。

夙に地方實業界に活躍して地方産業發展に貢献すること甚大、現に株式會社森商店取締役社長たる外日本製糖、徳島製函、重要財産各株式會社の重役にして、且つ徳島縣多額納稅者として當地方財界の重鎮たり。

夫人ケイ子は徳島縣の人小泉泰五郎君の令妹にして君との間に三女ありて純子キク子、ムメ子等なり、現に徳島市通りに住す。

森榮藏君

吉野製糸株式會社取締役
奈良縣多額納稅者

君は奈良縣の人先代清七君の長男にして、明治六年十月を以つて生る。夙に地方實業界に身を投じ、現に吉野製糸、大和鐵道各株式會社の重役として知られ、且つ奈良縣多額納稅者として直稅二千五百八十餘圓を納むといふ。

夫人トヨ子は奈良縣の人仲川宗次郎君の四女にして君との間に一男一女ありて

榮君及びキクノ子と稱す、現に奈良縣吉野町大淀村に住す。

森岡常藏君

東京高等師範學校教授

君は福井縣の人赤倉黃藏君の長男にして、明治四年三月十八日を以つて生る。

明治三十年東京高等師範學校を卒業し、更に小學校教授法研究の爲め獨逸に留學し其の蘊蓄を積みて歸朝するや、東京高等師範學校教授、文部省視學官兼文部省編修官、文部省圖書事務官兼文部省圖書官等を歴任し以つて現在に及ぶ。

夫人長子は和歌山縣の士族島村八百輔君の長女にして、君との間に四男三女あり、現に東京市小石川區小日向臺町一ノ六六番地に住す。

千家尊統君

男爵

出雲大社宮司

當家は天照大神の第二の御子天穗日命

の後裔にして十七世の孫宮向出雲國造の職を賜はり、爾來六十四世代々出雲大社大宮司として先々代尊澄に至る。先代尊福君其の後を享け大教正に補し、明治十七年特旨を以つて男爵を授けられ、元老院議員、文部省普通學務局長、埼玉、静岡各縣知事、東京府知事、司法大臣等を歴任し又貴族院議員たりしことあり。

君は千家尊紀君の長男にして明治十八年六月を以つて生れ、後ち養嗣子となり大正七年襲爵仰せ付けられ、現に出雲大社宮司たり。

森岡寅四郎君

大興商事株式會社事務取締役

君は滋賀縣の人森岡伍兵衛君の四男にして、明治二十三年一月を以つて生れ、後ち先代忠七君の養嗣子となる。夙に實

の後裔にして十七世の孫宮向出雲國造の職を賜はり、爾來六十四世代々出雲大社大宮司として先々代尊澄に至る。先代尊福君其の後を享け大教正に補し、明治十七年特旨を以つて男爵を授けられ、元老院議員、文部省普通學務局長、埼玉、静岡各縣知事、東京府知事、司法大臣等を歴任し又貴族院議員たりしことあり。

君は千家尊紀君の長男にして明治十八年六月を以つて生れ、後ち養嗣子となり大正七年襲爵仰せ付けられ、現に出雲大社宮司たり。

森榮七君

愛知縣多額納稅者
桔梗屋商會主

君は愛知縣の人森榮七君の二男にして、明治十五年八月を以つて生れ、前名清三郎を改稱す。

當家は當地方有數の資産家として知られ桔梗屋と稱し、呉服太物商を營み尙ほ愛知縣多額納稅者として直稅二千九十余圓を納むといふ。

夫人きみ子は愛知縣の人東松松兵衛君の令妹にして君との間に清太郎君、英次君及び千代子等あり、現に名古屋市西玉屋町三番地に住し電話本局一九二二番たり。

靱山半三郎君

靱山商店取締役社長

君は東京府の人先代靱山半三郎君の長男にして、明治二十年八月を以つて生れ、後ち家督を相続して前名竹藏を改稱す。夙に海産物商を営み東都府有数の老舗として知られ、現に靱山商店株式會社取締役社長として名あり。

夫人ミツ子は東京府の人津田信太郎君の令妹にして其の間に啓一郎君及び俊子等あり、現に東京市麴町區永田町二ノ一番地に住し電話青山四六七〇番たり。

清古平吉君

千葉電燈株式會社取締役

辯護士 辨理士

當家は千葉縣に於ける舊家にして、君はその昔寒川の名主役を勤めたる清古善左衛門君の二男にして明治元年二月を以つて生る。明治二十四年東京法學院を卒業し、後ち辯護士登用試験に應じて首尾よく登第し、而して郷里千葉市に辯護士

を開設して一般訴訟事務に従事し以つて現在に至る。

然して辯護士を開業する傍ら地方財界に活躍し現に千葉電燈株式會社取締役たり、又曾つて千葉市會議員に擧げられしことあり。

夫人てる子は千葉縣の人小沼萬助君の令妹にして君との間に平一君、平八郎君進君、吉彦君、及び百枝子等あり、現に千葉市千葉一三三六番地に住す。

森彦兵衛君

飛騨銀行監査役

岐阜縣多額納稅者

君は岐阜縣の人森七左衛門君の二男にして、明治十六年一月を以つて生る。夙に郷校を卒ふるや更に高等學校に入り同校を経て、明治四十年京都帝國大學法律科を卒業し、後ち實業界に投ぜり。現に地方財界に重きをなし、飛騨銀行監査役にして且つ岐阜縣多額納稅者として直税二千五百九十餘圓を納む。

夫人ぬひ子は岐阜縣の人押上森藏君の四女にして君との間に彰君及び壽子、文子等あり、現に岐阜縣大野郡大谷田村に住す。

森正太郎君

第四十七銀行取締役

富山縣多額納稅者

君は富山縣の人森仙右衛門君の長男にして、安政五年七月を以つて生る。現に第四十七銀行取締役にして且つ富山縣多額納稅者として直税三千七百五十二圓を納むといふ。

夫人シウ子は富山縣の人菅忠衛君の三女にして其の間に徳之助君、嘉吉君及びコト子、菊枝子、フサ子、マサ子等あり富山縣山新川町東岩瀬に現住す。

森田政太郎君

殖産銀行取締役

長崎縣多額納稅者

君は長崎縣土族先代久助君の長男にし

茂木長一君

日本商會東京支店長

夙に貿易界に活躍して、新進の名あるを我が日本商會東京支店長茂木長一君となす。君は兵庫縣姫路市の出身にして、明治二十年十一月九日を以つて生る。明治三十八年關西商工學校を卒業するや直ちに實業界に投ず。

斯くて、大阪範多商店に入り、後ち株式會社鋼管商店に轉じ、格勤精勵、同社の發展に盡瘁すること甚大、大正十一年三月愈々獨立の機運熟するや敢然起つて獨立を宣し、而して諸機械及び鐵材等の直輸出入貿易業を開始し、爾來、着々として斯界に健實なる地歩を占め業勢益々發展の歩調を辿るに至れり。

偶々君の穎才にして商機を見るに敏なるを知悉せる日本商會社長中島氏の聘に應じ、遂に大正十五年八月同社に入社して東京支店長の要職に就き、今や東都業界に活躍して令名あり。

現に東京市麴町區内幸町一丁目六番地

て、慶應三年八月を以つて生る。夙に金融業を營み現に其の傍ら殖産銀行取締役にして、且つ長崎縣多額納稅者として當地方財界に知らる。

夫人テイ子は長崎縣土族星野信之君の令姉にして其の間に實君、尙志君、久治君、義治君、貞利君、虎彦君及びツヨ子クマ子、君代子、美代子等あり、現に長崎縣佐世保市福石に住す。

關屋貞三郎君

從三位勳一等

宮内次官

君は栃木縣の人關屋良純君の長男にして、明治八年五月二日を以つて生る。明治三十二年東京帝國大學法科大學を卒業するや、直ちに文官高等試験に應じて首尾よく登第す。

斯くて職を官途に奉じ、爾來、臺灣總督府參事官、大藏省參事官兼内務大臣祕書官、關東都督府事務官兼民政署長、佐賀、鹿兒島各縣事務官、朝鮮總督府中樞

に住し電話銀座四〇九三、三四九二番たり。

森岡 二期君

正五位勳四等
青森縣知事

君は奈良縣の人森岡万平君の二男にして、明治十九年五月を以つて生る。明治四十四年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し文官高等試験に登第す。

斯くて職を官途に奉じ、爾來、兵庫縣警部、同縣出石郡長、同縣理事官、同縣警視、同縣事務官、青森縣警察部長、神奈川縣警察部長、警視廳刑事部長、同官房主事、京都府内務部長等を歴任し、昭和二年四月田中政友會内閣成るや拔擢せられて青森縣知事に任せられ、以つて現在に及ぶ。

夫人敏子は福島縣士族内村直俊君の二女にして君との間に一男三女あり、現に知事官舎に住す。

仙石 政敬君

子爵 從三位勳三等
宗秩寮總裁

當家は左大臣魚名四世越前守高房の後裔にして、鎮守府將軍利仁の末葉越前守秀久の後なり。秀久豊臣氏に仕へ軍功あり、信州小諸六萬石を封せられ、三世政明に至り但馬立石五萬八千石を領す。

其れより六世を経て政固君に至る、同君は仙石藩知事、少議官侍從、内務權書記官等を歴任し、且つ貴族院議員に選ばれ、明治十七年勳功により特旨を以つて子爵を授けらる。

君は其の四男にして明治五年四月を以つて生れ、大正六年十二月襲爵仰せ付けらる。明治三十一年東京帝國大學法科大學政治科を卒業するや官界に投じ、爾來貴族院書記官、宮内事務官、諸陵頭、賞勳局總裁等を歴任し以つて現在に及ぶ。曩に明治四十五年歐米を視察漫遊せしことあり。東京市芝區神谷町一八番地に現住し電話青山六八〇八番たり。

森田 茂君

從七位勳三等 辯護士
衆議院議員

君は高知縣士族森田族郷君の長男にして、明治五年八月を以つて生る。明治三十三年明治大學法科を卒業するや直ちに辯護士登用試験に登第す。

然して、職を官途に奉じ、京都地方裁判所檢事たりしが、後ち辯護士を開業し傍ら高知縣會議員、京都府會議員、同副議長等に擧げられ、且つ衆議院議員に當選すること前後四回に及び、現に其の任にありて中央政界に令名高し。

夫人鹿愛子は高知縣士族中島雅利君の長女にして、君との間に二女あり、現に京都市上京區烏丸通二條下ル秋野口に住し電話四七二番たり。

茂木 森藏君

茂木商店取締役
大竹製菓株式會社監査役

君は埼玉縣の人茂木助次郎君の二男に

して、明治十七年十月を以つて生る。夙に財界に投じ、現に前記各會社の重役として知らる。

夫人たき子は東京府の人石井千之助君の養女たり、現に東京市日本橋區龜井町三〇番地に住す。

森下 博君

大阪府多額納稅者
森下博營業所主

君は大阪府の人先代佐野右衛門君の長男にして、明治二年十一月を以つて生る。夙に藥種商を營み、名にしあふ懐中藥仁丹及び仁丹の体温計、仁丹のハミガキ等は實に君の經營する森下藥房より搬出せるものなり。

君は大阪府實業界の功勞者として公私に知られ、大正九年十二月多年財界に盡瘁せる功により特に綠綬褒章を賜はり尙ほ大阪府多額納稅者たり。

夫人ハナ子は大阪府の人丸尾兼吉君の令妹にして君との間に二女あり、現に大方財界に投じ、現に御厨銀行頭取たる外

守岡 多一郎君

加賀銀行監査役
石川縣多額納稅者

阪市東區北久太郎町一ノ三八番地に住し電話船場五番たり。

君は石川縣の人守岡多作君の長男にして、明治九年七月を以つて生る。夙に地方金融界に活躍して名聲を馳せ、現に前記の外金澤軌道興業株式會社取締役にして、且つ石川縣多額納稅者として知らる。

夫人こと子は石川縣の人松村太吉君の三女にして、君との間に多吉君、外茂吉君及び芳子、錫枝子等あり、現に金澤市笠市町二番地に住し電話三八九番たり。

森田 泰次郎君

御厨銀行頭取
伊豆相互貯蓄銀行取締役

君は静岡縣の人森田豊八君の長男にして、明治元年八月を以つて生る。夙に地方財界に投じ、現に御厨銀行頭取たる外

伊豆相互貯蓄銀行取締役たり。夫人いし子は静岡縣の人長倉陸吉君の令妹にして君との間に五男三女あり、現に静岡縣駿東郡楊原に住す。

望月 乙彦君

東京府多額納稅者
東京株式取引所一般取引員

君は静岡縣士族田熊永錫君の長男にして、明治二十二年三月を以つて同縣富士郡大宮町萬野原新田に産す。

夙に東都實業界に投じて君の敏腕を振ひ、現に東京株式取引所一般取引員として、我が株式界に聲名あり、尙ほ東京府多額納稅者たり。

夫人まさ子は静岡縣の人望月隨八君の二女にして、静岡精華高等女學校の出身たり、現に東京府荏原郡大井町四八四番地に住し電話高輪二九七三番たり。

森 辨治郎君

日清汽船株式會社社長

君は長野縣の人林美射男君の二男にして、明治元年十月を以つて生れ後ち先代孫一君の養嗣子となる。夙に郷校を卒業するや笈を負ふて上京し、研鑽琢磨、明治廿年東京専門學校を卒業す。斯くて、直ちに實業界に投じ日本郵船株式會社に入りて同社天津、香港、大阪各支店長を歴勤し、大正十年日清汽船株式會社に轉じ同社専務取締役を経て以つて現在に及ぶ。

夫人かす子は養父孫一君の長女にして君との間に香二君及び雛子等あり、現に東京府豊多摩郡下澁谷一八九〇番地に住し電話高輪七七八一番なり。

關屋 忠正君

從四位勳四等 祐華製糖公司取締役

君は岐阜縣士族關屋定君の長男にして明治二年八月二十二日を以つて生る。明治二十四年東京帝國大學工科大学土木科

を卒業するや直ちに職を官途に奉ず。

然して内務省土木監督署技師補となり爾來、島根、茨城各縣技師を経て同三十七年五月北海道廳技師に轉じ、同四十二年六月小樽築港事務所長より同四十二年釧路築港事務所長に轉じ、其の後官を辭して東洋拓殖株式會社に入りて同社土木部長を経て現に同社顧問たる外前記の職にあり。

夫人マヨ子は山口縣の人宇宮信綱君の二女にして山口縣立高等女學校を卒業し君との間に忠雄君、正雄君、博君、壽雄君及びはる子、ミチ子、とよ子等あり、現に東京市小石川區大塚仲町四一番地に住し電話小石川九四七番たり。

森 盛一郎君

實業家

君は佐賀縣士族森林三郎君の長男にして、明治十六年三月を以つて生る。夙に郷校を卒業するや青雲の志を抱いて東上し明治卅八年早稻田大學政治經濟科を卒業

す。

斯くて直ちに實業界に投じ現に織田信託、東京會館、日本活動寫真、日清生命保險、日章火災海上保險、ボルネオ護謨各株式會社の重役として知られ且つ東京商業會議所常議員たり。

夫人かよ子は實業家織田昇次郎君の二女にして君との間に良子及び清子あり、現に東京市麴町區紀尾井町三番地に住し電話四谷二九六二番なり。

關屋 兵助君

北海道瓦斯株式會社取締役

君は關屋和田七君の二男にして、明治元年九月を以つて生る。幼にして仲買人の最古參として有名なりし叔父善八君に養はれ同二十二年其の家督を相續し家業を繼承せしが同四十五年仲買業を廢す。然して其の後幾多事業會社に關係し現に前記の外大船田園都市、三河鐵道、東京瓦斯、東京株式取引所、合同肥料各株

式會社の重役として知らる。

夫人とく子は東京府士族遠藤一利君の三女たり、東京市麴町區富士見町一ノ一番地に現住し電話四谷四六九一番なり。

千田 嘉平君

男爵 正四位勳二等功五級 陸軍少將 貴族院議員

當家は先代貞曉君より顯はる、貞曉君は舊鹿兒島藩島津家の世臣にして、明治戊辰の役に功あり後ち東京府大書記官、新瀉、和歌山、愛知、京都、宮崎各府縣知事を歴任し、明治三十一年特旨を以つて華族に列し男爵を授けらる。

君は其の二男にして明治四年八月六日を以つて生れ同四十一年襲爵仰せ付けらる。明治二十九年陸軍士官學校を卒業し歩兵少尉に任ぜられ、爾來、累進して大正九年陸軍少將に陞る、曩に歩兵第十九旅團長たりしことあり、且つ日露戰役の功により功五級金鷄勳章を賜はり、大正十四年七月貴族院議員に互選せられ以つ

て現在に及ぶ。

夫人圭子は東京府の人本田親之君の二女にして君との間に貞清君、貞榮君、貞康君及び愛子等あり、東京府豊多摩郡代々幡町代々木初臺八〇六番地に現住す。

守屋 榮夫君

正五位勳四等 社會局第二部長 中央職業紹介所事務局長

君は宮城縣の人守屋徳郎君の長男にして、明治十七年十一月を以つて生る。明治四十三年東京帝國大學法科大学獨法科を卒業するや職を官途に奉じ、爾來、内務事務官兼參事官、朝鮮總督府祕書官、同課長、同庶務部長等を歴任し以つて現在に及ぶ。

大正十四年三月瑞西國ジュネーブに於て開催せられたる第七回國際勞働總會に政府代表委員として參列仰せ付けられ同年八月歸朝す。

夫人よしみ子は宮城縣の人今野伊織君の長女にして宮城縣女子師範學校を卒業

最上 國藏君

橫濱正金銀行取締役

君は東京府の人最上彦右衛門君の長男にして、明治八年九月を以つて生る。明治卅年東京商科大学の前身たる東京高等商業學校を卒業するや直ちに橫濱正金銀行に入りて格勤、現に同行取締役たり。夫人まちは愛知縣の人平山良治君の養女たり、現に東京市牛込區矢來町三番地に住し電話牛込三四五八番なり。

關 義壽君

男爵 正五位 貴族院議員

當家は先代義臣君より顯る、義臣君は舊福井藩士にして明治元年以降大阪府權判事、鳥取置賜各縣參事、置賜縣令大藏

權大丞判事、宮城控訴院檢察長、大審院
檢事、徳島、山形各縣知事等を歴任し後
ち貴族院議員に勅選せられ明治三十八年
特旨を以つて華族に列し男爵を授けらる
君は其の長男にして明治二十二年一月
十四日を以つて生れ大正七年襲爵仰せ付
けらる。明治三十九年學習院中學校を卒
業し陸軍に入り、同四十四年陸軍砲兵少
尉に任じ大正八年同大尉に累進し近衛野
砲兵聯隊中隊長に補せらる、大正十四年
七月貴族院議員に互選せられ以つて現在
に及ぶ。

夫人清子は東京府士族河東田經清君の
長女にして學習院女學部を卒業す。現に
東京府豊多摩郡千駄ヶ谷町原宿三六二番
地に住し電話青山五一二番たり。

森山松之助君

從四位 建築士

君は奈良縣の人森山茂君の長男にして
明治二年六月七日を以つて生る。殿父は
明治二年外務少録となり、爾來、外務權

大丞元老院大書記官、同議員、富山縣知
事等を歴任し、明治廿七年貴族院議員に
勅選せられ、尋いで從三位勳二等に叙せ
られ錦鷄間祇候仰せ付けられ國家に貢獻
すること甚大なりしを以つて知らる。

君は明治卅年東京帝國大學工科大学建
築科を卒業し、更に大學院に入りて研究
すること二ヶ年、造詣すること蓋し尋常
ならず。

然して後ち第一銀行に入り、更に臺灣
總督府技師に轉ぜしが大正十一年建築事
務所を開始し以つて現在に及ぶ。

夫人をあさ子と稱し神奈川縣の人西尾
てる子の長女たり、現に東京市芝區高輪
南町五三番地に住し電話高輪四五六番た
り。

關 毅君

京濱運河株式會社取締役

君は栃木縣士族關真君の令弟にして、
明治十九年二月を以つて生る。明治四十
三年東京帝國大學工科大学土木工學科を

瀨尾喜一郎君

大阪府多額納税者

君は大阪府の人瀨尾喜兵衛君の養弟君
にして、明治十七年七月を以つて生れ後
ち同族アサ子の養嗣子となる。大阪府多
額納税者にして直税一萬二千四百四十余圓
を納むるを以つて知らる。

夫人ツタ子は滋賀縣の人横地金右衛門
君の長女にして君との間に五男一女あり
現に大阪府南區鹽町通四ノ三九番地に住
し電話船場二三九四番なり。

茂庭忠次郎君

工學博士 正五位

復興局東京第二出張所長

君は宮城縣士族茂庭秀清君の二男にし
て、明治十三年六月を以つて生る。明治
三十七年東京帝國大學工科大学土木科を
卒業するや更に大學院に入りて衛生工學
を専攻す。

然して同年官途に職を奉じ東京市下水
道設計囑託となり、同四十年名古屋水道

森下松衛君

明治書院取締役

君は群馬縣の人森下清治平君の長男に
して、明治九年五月を以つて生る。明治
卅二年國學大學院を卒業するや後ち圖書
出版界に活躍し、現に株式會社明治書院
取締役たり。

夫人マサ子は千葉縣の人三野三二君の
女にして君との間に彬君及び八千代子、
きみ子等あり、現に東京市本郷區元町二
ノ六六番地に住す。

技師に轉じて上下水道工事を擔當し、大
正七年内務技師に任ぜられ同八年工學博
士の學位を授けらる。

斯くて大正十二年官命により歐米に出
張し、同十三年歸朝と共に復興局技師に
轉任し以つて現在に及ぶ。

夫人をとめ子と稱し君との間にきよ子
浪子等あり、東京市外高田雜司ヶ谷四六
番地に現住し電話牛込八五八番たり。

關屋龍吉君

正五位勳四等

文部省普通學務局長

君は岐阜縣の人一柳貞吉君の令弟にし
て、明治十九年七月を以つて生れ、同三
十二年九月先代よき子の養嗣子となる。
明治四十四年東京帝國大學法科大学政治
科を卒業するや直ちに文官高等試験に合
格す。

爾來、文部屬、文部省督學官兼文部省
參事官、文部大臣秘書官、同省圖書官、
同省督學官、文部書記官、同省秘書課長

等を歴任し以つて現在に及ぶ、曾つて大
正十一年歐米各國に出張せり。

夫人を美穂子と稱し男爵田中美津男君
の叔母君たり、現に東京市小石川區茗荷
谷町六二番地に住し電話小石川一三七〇
番なり。

瀨川徳太郎君

三菱礦業株式會社取締役

君は岩手縣の人瀨川安五郎君の長男に
して、明治五年六月を以つて生る。明治
三十一年東京帝國大學工科大学採礦冶金
科を卒業するや直ちに三菱礦業會社に入
社し、爾來、累進して參事となり尾去澤
礦山長を経て同社取締役任に擧げられ現に
同社生野礦山長たり。

夫人ウメ子は岩手縣の人井上徳次郎君
の令姉にして君との間に安一郎君及び節
子、順子、末子、菊代子等あり、現に兵
庫縣朝來郡生野町礦山社宅に住す。

森岡平右衛門君

富倉銀行頭取
東京亞鉛鍍金會社社長

君は先代銅鐵商平右衛門君の二男にして、明治四年十二月廿二日を以つて生る。夙に祖業を繼ぎて勤勉力行、益々家業を隆盛ならしめ現に傍ら富倉銀行頭取及び東京亞鉛鍍金株式會社々長たる外東京銅鍍株式會社の重役たり。

尙ほ東京府多額納税者として直接國稅一萬二千五百圓を納む。

夫人三重子は東京府の人廣岡助五郎君の令姪にして君との間に四男三女あり、現に東京市神田區駿河臺南甲賀町一七番地に住し電話大手三五四番たり。

關野長君

三菱電機株式會社參事
神戸製作所長

君は新潟縣士族關野貞君の令弟にして明治十四年七月を以つて生る。明治三十九年七月東京帝國大學工學科大學電氣科を

卒業す。

斯くて、直ちに實業界に投じ、現に三菱電機株式會社參事にして且つ神戸製作所長たり。

夫人勝子は東京府の人宮部敏功君の三女にして君との間に博君、治君、繁君及び英子、節子等あり、現に神戸市和田宮通五ノ二番地に住し電話兵庫一六四二番なり。

森島收六君

永樂公司代表社員
成城協會理事

君は東京府の人加藤佳久君の五男にして、明治三年十月廿一日を以つて生れ、後ち森島勝正君の養嗣子となる。

夙に同人社、攻玉社を卒ふるや直ちに實業界に投じ、後ち總武鐵道技師、北海炭礦鐵道技師、北越鐵道技師、三井礦山運炭鐵道技師等を歴任し、明治四十年以來前記重職に在り。圍碁、玉突、書畫等に趣味を有すと云ふ。

夫人トメ子は東京府の人小林萬右衛門君の五女にして君との間に一男あり、現に東京市牛込區納戸町三〇番地に住し電話牛込一六一〇番たり。

瀨崎初三郎君

北海道多額納税者

君は新潟縣の人瀨崎寅吉君の二男にして、明治七年一月を以つて生る。現に北海道多額納税者にして直稅四千六百八十余圓を納む。

夫人をよし子と稱し青森縣の人古村福三郎君の三女にして君との間に五男五女あり、現に北海道函館榮町二三番地に住し電話九一二番なり。

茂木龜三郎君

東京化粧品同業株式會社取締役
柳谷商會株式會社監査役

君は群馬縣の人先代増造君の長男にして、明治七年六月を以つて生る。夙に實業界に投じ、現に前記の要職にあり。

夫人セイ子は群馬縣の人河原竹次郎君の令妹にして君との間に慶一君、俊衛君

龜彦君、博美君、春二郎君及び富子、喜美江子、澄江子等あり、現に東京市神田區西福田町一番地に住す。

關秀次郎君

東京府多額納税者

君は東京府の人關秀翁君の二男にして明治十二年九月を以つて生る。現に東京株式取引所取引員にして、曾つては神田商業銀行監査役たりし事あり、尙ほ東京府多額納税者として直稅六千二百圓を納むるを以つて知らる。

一東京市外日暮里町金杉二五六番地に住し電話淺草四七三一番なり。

元田敏夫君

從四位勳三等
香川縣知事

君は東京府の人元田肇君の長男にして明治十五年五月を以つて生る。明治三十

九年東京帝國大學法科大學を卒業するや文官高等試験に合格す。

斯くて職を官途に奉じ、千葉縣事務官を振り出しに埼玉縣知事、内務書記官、東京府理事官、埼玉、宮崎各縣内務部長、拓殖事務局長、千葉縣知事等を経て昭和二年四月香川縣知事に任じ以つて現在に及ぶ。

夫人道子は静岡縣の人内田正六君の女にして君との間に信太郎君、二郎君、三郎君及び田鶴子、久子、和子等あり、現に住宅を東京市赤坂區青山南町五ノ三三番地に有し電話青山二三五一番なり。

關谷與助君

横濱製鋼株式會社取締役
京濱石材株式會社取締役

君は長野縣の人關谷新助君の令弟にして、明治十五年四月を以つて生れ、後ち先代善八君の養嗣子となる。

夙に金融業を營み現に其の傍ら前記會社の重役にして曾つて芝區會議員に擧げ

られしことあり。

夫人をこと子と稱し東京府の人遠藤治兵衛君の二女たり、現に東京市芝區愛宕町一丁目八番地に住し電話高輪五六七三番なり。

望月軍四郎君

望月同族株式會社社長
田口銀行取締役

勳三等實業家望月軍四郎君は静岡縣の人望月謹八君の令弟にして、明治十二年八月を以つて生る。夙に教育事業に携り其功績尠ならず、大正十三年勳三等に叙し瑞寶章を授けらる。

現時望月同族株式會社々長にして且つ田口銀行頭取として知られ曩に東京株式取引員たりしことあり。

夫人こう子は東京府の人田中彌吉君の令姪にして君との間に四男五女あり、現に東京市赤坂區青山南町六ノ六一番地に住し電話青山一〇三番なり。

關 彌三郎君

富士林業株式會社取締役
日本煤煙完全燃焼機株式會社監査役

君は埼玉縣の人關祐藏君の二男にして
明治十六年十二月を以つて生る。現に前
記諸會社の重役たり。

夫人キチ子は神奈川縣の人柴崎梅吉君
の長女にして日本女子大學附屬高等女學
校の出身たり、現に東京市京橋區具足町
九番地に住し電話銀座五五一九番なり。

森 外三郎君

正五位勳三等 第三高等學校長

君は京都府士族森友任君の二男にして
慶應元年八月を以つて生る。明治二十四
年東京帝國大學理科大學を卒業するや直
ちに教育界に投じ、京都第一中學校長を
經て第三高等學校長に任じ以つて現在に
及ぶ。

夫人あい子は石川縣士族石井朝雄君の
令姉にして君との間に友一君、二郎君、
六郎君及び三枝子、玉枝子、文枝子等あり、
現に京都市上京區今出川寺町西入上
ルに住す。

り、現に京都市上京區今出川寺町西入上
ルに住す。

關 口 志 行 君

從七位 辯護士

君は群馬縣の人關口貞作君の長男にし
て、明治十五年五月九日を以つて生る。
明治三十九年京都帝國大學法科大學英法
科を卒業するや職を官途に奉ず。
斯くて司法官試補となり前橋地方裁判
所、甲府地方裁判所各判事を勤め、大正
七年職を辭して辯護士を開業し、傍ら群
馬縣會議員たり。圍碁將棋に熱中し又俳
句の製造に奇々妙々なりと。

夫人みち子は群馬縣士族宮槐竹次君の
二女にして共愛高等女學校を卒業し君と
の間に一女あり、現に群馬縣前橋市北町
曲輪三四番地に住し電話四六二番なり。

森 貞 範 君

東京サルベージ株式會社取締役
君は滋賀縣士族森貞宜君の三男にして

クリート工事、アスファルト陸屋根工事
一式を請け負ひて廣く諸官廳及び民間諸
會社に信望を博し、前途益々多望なる盛
況にあるは我野社長又斯くの如き好人物
を得て同社一切の社務を委ねたる蓋し多
幸なりと謂ふべし。

今や帝都は復興事業に多端なり、君に
俟つべきもの又多からん、宜しく自重自
愛以つて將來の大成を期して可ならん哉
夫人秀子は東京府の人土屋高吉君の二
女にして君との間に二男あり、現に東京
市淺草區新福富町二番地に住し電話淺
草五八六八番たり。

關 澤 金 造 君

圖書出版業
日本警務學會主宰者

君は茨城縣の人關澤三郎君の令弟にし
て、明治三年十月二十八日を以つて生る
夙に圖書出版界に活躍して我が國文化
の向上に裨益すること甚大、爾來、各種
の講義録就中巡查受驗用の講義録を發行

明治八年十一月を以つて生る。夙に商船
學校を卒業するや直ちに實業界に投じ曩
に日本郵船株式會社、三井物産株式會社
各船長及び東京海上保險會社船檢査員
等を歴勤し、現に東京サルベージ株式會
社取締役たり。

夫人エイ子は栃木縣の人横塚村司君の
三女にして君との間に三女あり、現に東
京市麴町區平河町二ノ一七番地に住し電
話四谷四九五六番たり。

瀨 川 勝 平 君

東京建設株式會社取締役

君は東京府士族田島勝次郎君の二男に
して、明治二十二年六月を以つて生れ、
後ち先代たよ子の養嗣子となる。現に前
記會社の重役たり。

夫人こめ子は東京府の人關根靜馬君の
四女にして君との間に博君、重仁君あり
東京市外巢鴨町字巢鴨一〇八六番地に現
住し電話小石川五一三一番なり。

森 川 正 成 君

やまと工業株式會社營業課長

帝都復興事業に盡瘁して貢獻すること
甚大なるを我がやまと工業株式會社とな
す。然して同社内外の社務を掌握して稀
代の敏腕を振ひ、新進實業家の名あるを
同社營業課長森川正成君となす。

君は埼玉縣の人森川福松君の長男にし
て、明治二十四年五月二十九日を以つて
生る。夙に實業界に雄飛せんとの大志を
抱いて上京し、先づ學事に専念たること
數年、後ち帝都實業界に投じてやまと工
業株式會社に入社せり。

爾來、君の天稟の才幹の向ふまゝに任
かせて其の俊腕を縦横に振展し、我がや
まと工業株式會社をして今日の聲望あら
しむるに至りしは蓋し君の多年の奮闘努
力の賜と謂ふべく、今や東都を始め東北
關西まで勢力を波及し、專賣特許やまと
スレート、全石綿瓦及び新案特許陸屋根
やまとタイル等の製造販賣を始めとして
ルーピングフェルト、アスファルトコン

して警察官養成に貢獻する所甚大、現に
日本警務學會主宰者たり。
夫人をとし子と稱し君との間に高保君
元弘君、英夫君、正夫君及び澄子等あり
現に東京府北豊島郡巢鴨町二ノ六番地に
住し電話小石川五三二八番たり。

物 部 長 穂 君

工學博士 從五位勳六等

君は秋田縣の人物部長元君の二男にし
て、明治二十一年七月を以つて生る。明
治四十四年東京帝國大學工科大学土木工
學科を卒業するや職を官途に奉ず。

然して大正元年八月内務省土木局技師
となり、同九年四月歐米各國へ出張を命
ぜられ、同九年工學博士の學位を授與せ
らる。

夫人元子は男爵尾崎洵盛君の令妹にし
て、君との間に長興君及び美穂子、美津
子、美恵子等あり、現に東京市麻布區龍
土町六七番地に住す、

關 守 造 君

日本精毛株式会社取締役

大正活映株式会社取締役

君は東京府士族關迪孝君の長男にして明治元年七月を以つて生る。夙に獨逸に留學し歸朝後は横濱に在りて日獨貿易に従事せり。

斯くて君が學識及俊腕は着々として事業の上に振展し、漸次其の地歩を占めて斯界に重きをなし、現に前記の外旭藥品工業、日本化學製油、建築書院各株式會社の重役として知らる。

夫人をミネ子と稱す、現に東京市外入新井町新井宿一八四九番地に住し電話大森四番なり。

森 直 卿 君

東洋肛門病院長

博善清毒株式会社取締役

君は熊本縣士族森清太郎君の長男にして、明治六年二月を以つて生る。現に東洋肛門病院長として知られ、傍ら前記會

社及び天親館株式會社の重役たり。

夫人フミ子は福岡縣士族長瀬勇三郎君の長女にして君との間に直尙君、林吉君直文君、不二子、龍兒子、多雅子、奈須子等あり、東京市神田區美土代町二ノ一番地に現住し電話大手五六七二番たり。

森川 桑 三 郎 君

日本精版印刷株式會社取締役

君は鳥取縣の人住田善平君の三男にして、明治十二年十月を以つて生れ、同三十二年先代桑三郎君の養嗣子となる。

扱て承れば先代桑三郎君は安政年間の國學者竹窓森川世黃君の曾孫にして正に名門の出、夙に東京專修學校理財部を卒業するや印刷界に投じ、現に森川印刷所を經營する傍ら日本精版、大日本金箔工業、日本印刷材料各株式會社の重役にして且つ大阪府多額納稅者たり。

夫人ヤヌ子は大阪府の人則武利兵衛君の長女にして梅花高等女學校の出身たり現に大阪市東區東平野町一〇ノ九〇番地

に住し電話南二九二二番なり。

關 義 孝 君

關機補製作所長

君は東京府の人山本治徳君の長男にして、明治四年二月二十四日を以つて生れ後ち關義臣君の養嗣子となる。

夙に實業界に志して斯界に活躍して敏腕を振ひ、大正八年關機補製作所を設立し現に同所々長たり。

夫人をリウ子と呼び東京府の人沖龍雄君の二女たり、現に東京市小石川區原町一〇番地に住し電話小石川四二二一番なり。

森 五 郎 兵 衛 君

滋賀縣多額納稅者

近江帆布株式會社取締役

君は滋賀縣の人森專三郎君の長男にして、明治十年五月を以つて生れ、同三十九年二月先代せつ子の死跡を相續し舊名俊次を改稱す。

當家は遠く元祿年間に興りし舊家にして、代々呉服太物商を營み東京大阪に支店を有し、今や陣容大いに整ひ斯界の重鎮を以つて目せらる。

君は夙に慶應義塾を出で、家業に精勵するの傍ら前記會社の重役にして且つ八幡銀行、大阪製麻、八幡製絲各株式會社の重役を兼ね尙ほ滋賀縣多額納稅者として直稅參萬九百四十余圓を納む。

夫人を種子と稱し奈良縣の人栗山藤作君の二女たり、現に滋賀縣蒲生郡八幡に住す。

關 塚 惣 吉 君

大地主 資産家

新潟縣多額納稅者

君は新潟縣の人先代關塚惣吉君の長男にして、明治十年四月を以つて生れ同四十年家督を相續すると共に襲名して前名豊太郎を改む。

當家は同地有数の地主にして且つ新潟縣多額納稅者として直稅三千三百四十余

圓を納むるを以つて知らる。

夫人イサホ子は新潟縣の人高澤岩稱君の三女にして君との間に達夫君、成也君和人君及びレン子、チカ子、ミヲ子、ユウ子、イク子等あり、現に新潟縣中蒲原郡五泉に住す。

森 卷 吉 君

正五位勳五等 第一高等學校教授

君は其の名も高き彼の財團法人岐阜訓盲院の創設者森卷耳君の長男にして、明治十年五月を以つて生る。明治三十七年東京帝國大學文科大學英文科を卒業す。

斯くて直ちに教育界に身を委ね、明治四十一年第一高等學校教授に任じ以つて現在に及べるものにして、曩に大正十年英語英文學及び語學教授法研究の爲め歐米各國に滯留すること二ケ年、大いに研鑽を積みて歸朝す。

夫人ヒサ子は大阪府の人橋本淺吉君の長女にして君との間に隆夫君、修二君及び美惠子、少枝子、愛子、忍子、百合子

等あり、現に東京市本郷區彌生町三番地に住す。

榎 山 英 次 君

正七位 陸軍一等獸醫

小兒牛乳株式會社取締役

君は静岡縣の人石橋好一君の二男にして、明治五年四月を以つて生れ後ち先代吉次郎君の養嗣子となる。夙に帝國大學獸醫乙科を卒業す。

斯くて宮城縣農學校教諭となり、後ち軍籍に身を投じ日清日露の兩役に從軍して國家國防に貢獻すること甚大、而して後ち實業界に投じ、専ら畜産業に精勵し現に榎山牧場を經營する外小兒牛乳株式會社取締役にして傍ら東京獸醫學校相談役たり。

夫人をつえ子と稱し愛知縣の人盛田彌吉君の五女にして君との間に二女あり、東京市外長崎町四二七七番地に住す。

世木澤藤三郎君

丸肥旭川肥料株式会社取締役
旭川商事株式会社監査役

君は北海道の人世木澤興市君の長男にして、明治九年九月を以つて生る。曩に雜穀商を営みしが現時酒造業を営む傍ら前記會社の重役たり。

早くより旭川商業會議所常議員に推され、尙ほ北海道多額納稅者として直稅二千六百六十余圓を納む。

夫人よし子は京都府の人舟越源七君の長女にして君との間に登君、清一君及び富惠子、正子等あり、現に北海道旭川市宮下通二ノ右一番地に住す。

森 正次郎君

株式會社中外製材所々長
平沼製材株式會社事務取締役

君は東京府の人福田善吉君の二男にして、明治十四年一月を以つて生れ、後ち祖母福田ウタ子の縁家たる養父森正五郎君の養嗣子となり其の絶家を再興す。

現に中外製材所長たる外平沼製材株式會社事務取締役にして且つ子安製材株式會社事務取締役たり。

夫人はん子は東京府の人大槻サク子の養女にして君との間に啓之輔君、時男君及び好子、房子、章子、敏子等あり、現に東京市外千駄ヶ谷町五六二番地に住し電話青山一九三二番たり。

森寺喜兵衛君

三重縣多額納稅者

君は岐阜縣の人郷亮三君の三男にして明治九年九月を以つて生れ、後ち先代喜兵衛君の養嗣子となる。

明治四十二年東京高等商業學校を卒業するや直ちに地方財界に投じ現に當地財界に重きをなし、且つ三重縣多額納稅者として直稅三千七十餘圓を納む。

夫人をふつ子と稱す、現に三重縣四日市下新町に住す。

望月六郎君

東京市山梨縣人先代望月六郎君の長男

君は山梨縣の人先代望月六郎君の長男にして、明治元年七月を以つて生れ大正四年前名虎吉を改めて襲名す。夙に實業界に投じ現に東京市山梨縣株式會社を經營して同社事務取締役たり。

夫人よね子は山梨縣の人保坂春太郎君の令妹たり、現に東京市牛込區横寺町三七番地に住す。

森 下嘉作君

天宮銀行取締役

君は静岡縣の人森下作十君の二男にして、慶應二年八月を以つて生る。現に天宮銀行取締役兼支配人たり。

夫人かや子は静岡縣の人森田勝治君の二女にして君との間に一男あり、現に静岡縣周智郡犬居に住す。

森原嘉逸君

正七位 辯護士 元判事
東京市芝區會議員

君は廣島縣の人森原庄太郎氏の長男にして、幼より穎才の聞え高く、小學校入學當時より已に群童に秀で従つて入學後直ちに第二學年へ編入せらる。

明治三十七年法政大學を卒業するや翌三十八年判檢事登用試験に登第し、爾來司法官試補、判事、檢事として長野、宇都宮各裁判所を歴任し、峻嚴公正明快なる判官として令名を馳せ、斯くて多年の功勞により特に正七位に叙せらる。

然るに感ずるところありて哉、大正二年十月挂冠して野に下り辯護士を開業するや君の人格の高潔と識見の高邁とは疾くも東京市民尊敬の的となり、事件を依頼するもの門前市をなすの盛況を呈するに至り、今や東都法曹界に令名高く、日本辯護士協會理事として知らる。

曩に芝區民に推されて同區會議員に舉げられ、昭和四年三月日本政黨史上特筆

すべき普選第一回の東京市會議員選舉に際し、同じく市民の輿望を擔つて逐鹿戰場に快戦せしかば、多數市民の信望を得て見事當選、今や市區政に參劃して貢獻するどころ甚大なり。

陣頭に進めしかば縣民多數の輿望を擔つて見事當選、今や中央政壇に令名あり。趣味に盆栽、園芸、殖林等あり、現に奈良北葛城百濟村に本邸を有し、東京市赤坂區溜池三十番地に別邸を有す。電話青山八六二番

森本千吉君

衆議院議員 奈良縣多額納稅者
大和鐵道株式會社社長

君は兵庫縣の人森本嘉平次氏の長男にして、元治元年九月を以て生る。

夙に土木建築請負業に従事して後ち鐵道省の指定請負人を拜命して着々斯界に勢力を張り、現に森本組と稱して東西に重きをなすのみならず、前記會社々長にして且つ浪速製氷、奈良新温泉各株式會社の重役たる外奈良縣多額納稅者として知らる。

斯くて昭和三年大日本憲政史上特筆すべき普選第一回の總選舉に際し、白馬を

森川靜雄君

辯護士 法學士

君は廣島縣の人森川義雄氏の三男にして、明治二十六年十二月十日を以て生る。明治二十三年青雲の志を抱き笈を負ふて東上、府立第四中學校より第三高等學校に進み、大正九年東京帝國大學法科大學佛法科を優秀の成績を以て卒業す。

斯くて同年三菱銀行に入りしも後ち感ずるところありて大正十一年辯護士の登録を了し、而して昭和二年三月現在の地を卜して開業、一般法律事務に従事す、開業日尙は淺しと雖も君の人格と卓越せる識見とは年ならずして斯界に聲名を馳す又日を見るより明なり。

趣味に長唄、謡曲あり、第一辯談士會學士會各會員たり。

夫人とよ子は京都府の人長谷川末吉氏の長女にして京都市立高等女學校の出身たり、現に京都市小石川區櫻木町四番地に住す。電話牛込三四八〇番

關口信次君

合資會社三和商店代表社員
日本ガソリン商會主

本邦藥種貿易商として漸次其の商勢を斯界に振展し、多數需要家に對し信望を博しつゝあるは勿論、業礎月に年に加はり斯界に聲名あるを我が三和商店代表社員關口信次君となす。

君は明治十四年四月二十七日を以て茨城縣稻敷郡鳩崎村に生れ、古くより上菱印醬油醸造元として知られし故關口八兵衛氏は實に君の嚴父にして君は其の二男たり。

夙に郷校を卒ふるや鴻圖を抱いて上京明治三十九年東京外國語學校獨逸語科を

優秀の成績を以て卒業するや身を本邦實業界に投じ、聘に應じて臺灣製糖株式會社に入社、累進して同社アルコール製造係主任に擧げられ、斯くて同社の發展に盡瘁すること十有余年、大正八年同社を圓滿辭して同志と相計り麻田商店を經營せしも大正十二年十二月同店を譲り受け合資組織に變更し、君は其の代表社員に就任、同時に之を三和商店と改稱し、爾來、専らアルコール、エーテル、メタノール、アセトン、變性酒精液体燃料其他一般工業用藥品の精製販賣に従事せしかば商況漸次擧り、今や三井物産株式會社を始めとして臺灣製糖並に帝國、大日本、鹽水港、北海道各製糖會社を得意先として年商實に百數十萬圓に達し前途益々多望なるが如し。

君は尙ほこれを以て満足せず更に昭和三年十月日本ガソリン商會を創立して之を經營主宰し、酒精を主材とする純國産内燃機燃料の製造販賣に全力を掲げ、以て酒精消費の新局面に貢献せんとする意

森岡忠尚君

愛國生命保險(株)秘書役兼庶務課長

君は奈良縣士族先代儀一郎氏の二男にして、明治九年九月十二日を以て生る。明治二十八年京都市立中學校を卒業するや京都帝國大學法學部事務所に職を奉じ、大正九年上京高砂生命保險株式會社に入社し、爾來、同社秘書兼庶務課長として敏腕を振ふ傍ら機關誌「高愛」主幹として知らる。

趣味に圍碁、書畫骨董等あり、生命保險協會會員たり。

夫人しげ子は京都府の人關鐘吾氏の令妹にして舞鶴高等女學校の出身、其の間に正雄君及び絢子、菊枝子、鈴子等あり現に東京市外北品川宿三二五番地に住す電話高輪七八〇八番

森田惠三郎君

從六位 製鐵所參事
製鐵所販賣部第二課長

君は群馬縣の人森田牧三郎氏の五男にして、明治三十年二月廿八日を以て同縣邑樂郡赤羽村に生る。

大正九年東京帝國大學法科大學獨政科を優秀の成績を以て卒業するや身を本邦實業界に投じ、三井物産株式會社に入り同社金物部に精勤すること數年に及ぶ然して大正十二年八月製鐵所に轉じ初め同所囑託として調査課にありしが翌年三月同參事拜命同時に整理課長に擧げられ後も販賣部成品課長に轉じ精勤大いに

圖や壯、必ずや君の機を見るに敏にして優れたる才量とは我が國燃料界の發展と共に斯業の振展を見る蓋し火を見るよりも明なること、謂ふべく、何れも君の前途に赫々たる聲名を博すこと又疑ひなかるべし。

夫人をしげ子と呼び茨城縣の人故小林元茂氏の長女にして其の間に澄江子、正江子あり、營業所京都市京橋區三十間堀三ノ六電話銀座三八九六番二〇九一番自宅東京市牛込區東五軒町三十五番地

元年十二月官途を辭す。

斯くて日本工業俱樂部に入り同主事に任じ以て現在に及ぶ、先是昭和二年農林省の指令にて歐米各國を視察漫遊して歸朝す。

趣味に讀書、圍碁、旅行等あり、社交に厚く學士會、工業俱樂部各會員たり。夫人國子は東京府の人山口孝太郎氏の二女にして其の間に二男五女あり、現に東京府下戸塚清水川一三六番地に住す。電話牛込八五七番

千田勢平君

東海工業合資會社出資社員

本邦土木建築界にありて録々の名あり信望官民に絶大なるを我が東海工業合資會社となす。

然して同社の前身たる杉井組當時より精勤久しく、以て今日同社の鞏固なる基礎を確立するまで、常に内外の社務を執掌して功績顯著なるを同社出資社員千田勢平君となす。

膳桂之助君

正五位勳五等
日本工業俱樂部主事

君は群馬縣の人先代淺次郎氏の三男にして、明治二十年七月二十一日を以て生誕す。

大正三年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業するや直ちに官途に投じ、農商務省屬官を振り出しに、爾來、製鐵所販賣課長を経て本省に歸任、勞働課長、能率課長、市場課長等を歴任、大正十三年農商務省分離して商工、農林兩省成るや農林省に轉じ、同省商系課長たりしが昭和

君は滋賀縣の人千田小太郎氏の二男にして、明治十二年十月九日を以て同縣伊香郡木の本村に生誕す。

夙に郷校を卒ふるや青雲の志を抱いて東上し、明治三十二年七月同社の前身たる杉井組に入り、大正二年十一月同組の東海工業合資會社に組織並に稱號變更後も引き続き精勤、斯くて大正十一年十一月勤續二十一ヶ年の功勞に對して東京商業會議所より表彰せらる、現時は同社出資社員として社務に精勵同社今日の大を成す蓋し君の多年の奮闘又以て尠少ならずと謂はざるべからず。

曩に明治三十七八年日露の戦役勃發するや臨時鐵道大隊所屬として遠く征途に上り、滿鮮の荒野に奮戦して功あり。

夫人をゆき子と呼び東京府の人松下金昌氏の三女にして、其の間に謙太郎君、悦雄君、綾子、房子等あり、現に東京市外目黒町三田一五〇番地に住す。電話高輪八〇三七番

森岡三八君

辯護士 辨理士

君は三重縣の人先代吾一郎氏の三男にして、明治二十六年八月二十一日を以て同縣度會郡五個所に生誕す。

大正十一年早稻田大學法科を卒業するや辯護士登用試験に登第し、東都法曹界に投じて活躍大いに努め、今や東都法曹界に新進の聞え高く前途多望なり。

趣味に園藝、謠曲、讀書、旅行等あり東京辯護士會々員たり。

夫人春子は愛知縣の人曾根盛鎮氏の三女にして神奈川縣立横濱高等女學校の出身、其の間に四男二女あり、現に東京市麴町區元園町二ノ十三番地に住す。電話九段二九〇二番

守岡功君

凸版印刷株式會社本所工場長

我が印刷界に録々の名あるを凸版印刷株式會社となす。然して同社本所分工場長として敏腕を振ひ内外の信望厚く、前

途多望なるを守岡功君となす。

君は廣島縣の人先代瀨助氏の三男にして、明治五年三月二日を以て生る。

夙に志を立てて東都に上り、専修學校を卒ふるや直ちに東都實業界に投じ、初め國光社に入りて格勤精勵、榮進して同社營業部長に任じ、然して明治四十二年凸版印刷株式會社に轉じて同社本所分工場營業課長を命ぜられ、大正十二年推されて同工場長の重要な地位に据へられ以て現在に及ぶ。

夫人を艶子と呼び君との間に利君、隆君、稔君及び操子、君子、清子、政子等あり、現に東京市下谷區二長町三番地に住し電話下谷三六五一番たり。

關屋龍吉君

正四位勳三等

前文部省普通學務局長

曩に文部省普通學務局長の官職に在任して、厚德の人格と識見とを以て鳴りし君は、大垣に於ける需者として知名なりし一柳芳洲氏の次子にして、明治十九年七月五日を以て大垣市に於て出生す、而して後ち地震學の鼻祖たる關屋家の家系を繼承せり。

君は幼少にして既に才能衆童に傑る、夙に笈を東都に擔ひ、東京府立第一中學校、第一高等學校を経て東京帝國大學法科大學に入學、明治四十四年同大學政治科を卒業せるが、斯くて直ちに官途に就き文部省に入り、漸次陞進して大正六年岡田文部大臣の秘書官となり、次いで同省文書課長、秘書課長等の官歴を経て同十三年五月普通學務局長の重任を帯び、逸材克く噴々の名を高めり。然して昭和二年八月官職を辭し直ちに歐米各國を巡遊するところあり、尙ほ先は大正十一

年文部省より派遣され教育狀況視察の爲め歐米に航せることあり。

君は現時閑地に在りと雖年齒未だ壯、他日風雲を得ば再び社會的貢獻の必ずや大なるものあるべきを待望さる。

趣味として大弓あり、其家庭には賢徳の令名ある美穂子夫人あり、男爵田中芳男氏の息女にしてお茶ノ水高等女學校出身の才媛、其の間に二男一女あり。

現に東京市小石川區茗荷谷町六十二番地に住す電話小石川一三七〇番

關根豐作君

從六位勳四等

宮崎丸船長

君は現籍を神奈川縣に有し、長崎縣の人吉田省三氏の長男にして、明治六年四月廿五日を以て生れ後ち神奈川縣の人故關根萬吉氏の養嗣子となる。

明治二十七年商船學校を卒業するや直ちに日本郵船株式會社に入社、爾來、同社箱根丸、丹波丸各船長を経て宮崎丸船

長に轉じ以つて現在に及ぶ。

此の間日清日露の戦役には日本海防の爲め忠誠を完うし、後ち海軍少佐に任官し、更に功により從六位を賜ひ勳四等に敘せられ現に海軍豫備少佐たり。

尙は特筆すべきは長くも 秩父宮殿下御渡歐に際し宮崎丸船長として重任を果せし外故北白川成久王殿下並に同妃殿下御渡歐の際に、其御用船の船長として光榮に浴せし外李王殿下同妃殿下佛蘭西よりの御歸朝に際し御迎へ奉り。尙ほ西園寺公渡佛の際も御送り申上げる等斯くして君の名船長として盡瘁すること枚擧に遑あらず。

趣味多様なる中にも俳句は「海豊」と号して通人、古典學の研究家として且つ油繪の揮毫に堪能なるが如し。

家庭には夫人マチ子（養父萬吉氏の長女）の外養女時子長女初子あり。現に横濱市磯子八七番地に住す。電話長者町三六〇三番

關 口 壽 君

正五位 工學士
日本揮發油(株)專務取締役

君は東京府の人關口慶吉氏の長男にして、明治十五年十一月三十一日を以つて生る。

夙に第一高等學校を経て明治三十七年東京帝國大學工科大學電氣科を卒業するや、技師として逓信省に奉職し、後ち歐米各國に斯學研究の爲め留學す。

斯くて在職十二ヶ年、大正五年大阪電燈株式會社に轉じ技師長に就任、大正八年日本水力電氣株式會社を創立し常務取締役就任、同九年大同電力株式會社常務取締役、同十年七月尾三電力株式會社を創立して取締役社長に就任す。

然るに君大いに感ずる處ありて各會社重役を辭して、しばし閑地にありしも、文明は機械の發達に伴ひ、揮發油の益々使用多きに感じ、昭和三年六月該會社創立の目的を以て渡米し全年八月歸朝するや直ちに日本揮發油株式會社を創立し、

專務取締役に就任し以て今日に至る。

趣味にスポーツ、長唄、弓術等あり、就中長唄は素人の域を脱するとか。

夫人冬子は府立第三高女の出身にして歌人として令名あり、歌集「火と水」とは最近の名著たり。

現に市外田園調布に住す。

關 根 繁 藏 君

從七位勳六等
東邦興業(株)專務取締役

君は舊盛岡藩士關根繁福氏の長男にして、明治十年十月六日を以つて盛岡市に生る。

明治二十九年現工學院土木科を卒業するや直ちに内務省に職を奉じ、爾來、千葉、新潟各縣廳を歴勤、尋いで東京府土木課に轉勤し技師に任せしも大正十三年官途を辭して獨力工務所を開設、昭和三年八月東邦興業株式會社を創立して其の設立と共に同社專務取締役に就任以て現在に及ぶ。

趣味に圍碁、撞球あり、電氣俱樂部會員たり。

夫人しげ子は仙臺高等女學校の出身、其の間に繁男君、繁次君あり。現に東京市外目黒町下目黒九七六番地に住す。電話高輪六二三九番

關 屋 正 雄 君

法學士
王子製紙(株)社員

君は岐阜縣士族從四位勳四等關屋忠正氏の次男にして明治三十三年二月を以つて生る。

嚴父は夙に東京帝國大學工科大學を卒業するや直ちに官界に投じ、後ち實業界に活躍せし人材、資産家の聞えある家柄なり。

君は水戸高等學校を経て東大に學び昭和三年同學法科大學政治科を卒業す、スポーツに興味を有し、學士會々員たり。現に東京市小石川區大塚仲町四十一番地に住す。電話大塚四五三番

森 田 又 一 郎 君

森田商店(名)代表社員

君は東京府の人森田又兵衛氏の男にして明治二十二年五月を以て生る。

夙に京華商業學校を卒業するや直ちに東都實業界に投じ、嚴父の事業たる森田商店に勤務、昭和二年十一月繼承して同社代表社員に就任以つて現在に及ぶ。

昭和三年四月實業界視察の目的を以つて歐米各國を巡遊して歸朝、今や東都直輸入商として令名あり。

夫人定子は東京府の人小澤惣太郎氏の長女にして其の間に茂太郎君、晴次郎君及び登喜子あり。現に東京市京橋區竹川町十八番地に店舖を有す。電話銀座八四四番

森 蟲 昶 君

衆議院議員 實業家

君は千葉縣の人森爲苦氏の男にして明治十七年十月二十一日を以て生る。夙に實業界に投じ、現に千曲川電力株式會社

專務取締役に就任し以て今日に至る。

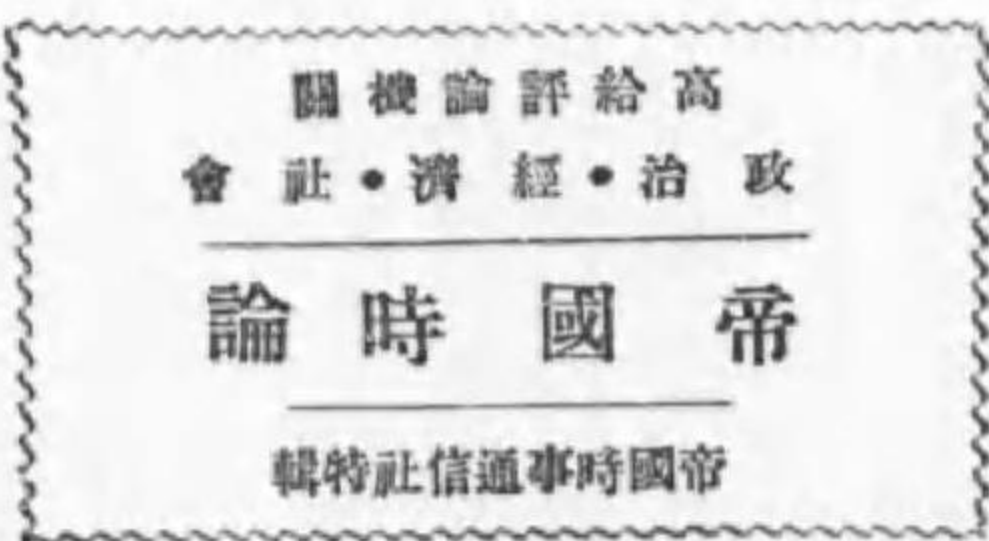
趣味に圍碁、撞球あり、電氣俱樂部會員たり。

瀨 古 孝 之 助 君

三井物産(株)取締役大阪支店長

君は三重縣の人南川彌平治氏の三男にして、明治六年九月一日を以て生れ後先代瀨古謹十郎氏の養子となる。

夙に實業界に投じ三井物産株式會社經育支店長、東京本店參事、横濱支店生糸部長、倫敦支店長、歐洲監督役等を歴勤、現に同社取締役兼大阪支店長たり。



鈴木喜三郎君

法學博士 正三位勳一等

内務大臣

君は神奈川縣の人川島富右衛門君の三男にして、慶應三年十月十一日を以つて生れ、明治十五年六月先代慈孝君の養嗣子となる。

明治二十四年東京帝國大學法科大學を卒業するや直ちに司法官試験となり、同二十六年判事に任ぜられ麴町、京橋各區裁判所判事、同部長、東京控訴院判事同部長等を歴任し、明治四十年三月司法制度研究の爲め歐米各國に差遣せられ、在留一ヶ年造詣を深くして歸朝するや大審院判事、東京地方裁判所長、司法省法務局長等を歴任せり。

曩に寺内内閣及び原内閣時代に各司法次官に任ぜられ、大正十年平沼氏の跡を襲ふて檢事總長に擧げられ、清浦内閣の出現と共に臺閣に列して司法大臣に親任せられ、大正十三年九月皇室制度審議會委員仰せ付けられ、而して昭和二年四月

田中政友會内閣の内務大臣として臺閣に列し以つて現在に及ぶ。

曾つて法政大學、専修大學、日本大學各講師として教壇に立ち、且つ民法に關する著書多く讀書、旅行、音樂等に趣味を有すといふ。

夫人カヅ子は鳩山和夫君の長女にして東京女子高等師範附屬高等女學校の卒業たり、現に東京市麴町區三番町七一番地に住し電話四谷三〇〇九番なり。

鈴木富士彌君

衆議院議員

正五位鈴木富士彌君は大分縣の人三塚重次郎君の令弟にして、明治十五年十一月を以つて生れ、後ち鈴木藤三郎君の養嗣子となり前名文藏を改稱す。

明治三十九年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業するや更に歐米漫遊の途に上り、海外に滯留すること三年有半大いに識見を高くして歸朝す。

然して爾來辯護士、特許辨理士を開業

し民事事件を取扱ひて令名を馳せ、大正六年以來静岡縣郡部より推されて衆議院議員たること前後三回、現に其の任にありて中央政界に令名高く、且つ保健衛生調査會委員にして曾つては内務省參與官たりしことあり。

現に東京府豊多摩郡上澁谷一三五番地に住し電話青山二〇八番たり。

杉野民之助君

日本足袋株式會社監査役

當家は愛媛縣桑村郡中村の出にして先代保五郎君明治初年大阪に移り、米穀商を營みて家名を擧げしに端を發す。

君は即ち其の長男にして慶應元年三月を以つて生る。夙に家業を繼ぎて米穀商を營みしが後ち足袋商に轉業し、現に日本足袋株式會社監査役にして、曾つて大阪府會議員、同參事會員たりしことあり、謠曲、園藝に堪能なり。

夫人フジエ子は愛媛縣の人杉栗三君の二女にして君との間に康五郎君、林之助

君及びけい子、よしゑ子、ひで子、茂子等あり、現に大阪市西區新北通り一ノ四五番地に住し電話新町五〇八番たり。

鈴木莊六君

從三位勳一等功二級 陸軍大將
陸軍參謀總長

君は新潟縣の人鈴木高次君の三男にして、慶應元年二月十九日を以つて生る。明治二十四年陸軍士官學校を卒業し同年陸軍騎兵少尉に任ず、更に同二十九年陸軍大學校を卒業し、累進して大正十三年陸軍大將に陞る。

其の間參謀本部々員兼陸軍大學校教官參謀本部課長兼海軍々令部參謀、陸軍大學校幹事、騎兵第三旅團長、騎兵實施學校長、騎兵監、第五第四各師團長、臺灣軍朝鮮軍各司令官等を歴補し、現に陸軍參謀總長の榮職にあり。

彼の日露の戦役には第二軍參謀として出征し、功に依り功三級金鷄勳章を賜はり、曩に米國歐洲及び西比利亞等に差遣

せられしことあり。

夫人タケ子は高知縣士族森岡正元君の長女にして君との間に一男一女ありて重雄君及び光子と呼ぶ。

鈴木要三郎君

從四位勳四等功四級
豫備海軍主計大監

君は東京府の人鈴木至政君の令弟にして、慶應元年二月を以つて生る。明治二十一年海軍少主計に任ぜられ、爾來累進して同三十九年主計大監に進み尋いで豫備役仰せ付けらる。

其の間佐世保主計長、海軍大學校主計長、高千穂艦主計長、水路部會計課長、海軍主計官、練習所教官、佐世保海軍經理部長等を歴補し、日露の役には功により勳四等に叙し功四級金鷄勳章を賜はり後ち退官して實業界に投じ、現に日本興業銀行、日本活動寫真各株式會社の重役として知らる。

夫人ナヲ子は東京府士族今村續君の四

女にして其の間に勝之助君、力之助君及び静枝子、ハルエ子、滿枝子、玉枝子、喬枝子等あり、現に東京市麻布區三軒屋町二十番地に住す。

杉本新左衛門君

京都府多額納稅者

君は京都府の人杉本爲七君の長男にして、明治六年八月を以つて生れ、後ち先代新左衛門君の養嗣子となり前名爲一を改稱して襲名す。

夙に祖父の遺業たる茶製造販賣を營み三丘園と稱して京都地方に名あり、尙ほ京都府多額納稅者として現時直稅七千二百八十餘圓を納むといふ。

夫人たつ子は愛知縣の人岡田貞右衛門君の二女にして、君との間に子女なきを遺憾とす、現に京都市下京區綾小路新西入に住し電話下七二三番たり。

杉 宣 陣 君

從五位勳四等 辯護士
衆議院議員

天晴れる哉、曩に松山市より立候補を宣して彼の山本權兵衛伯の女婿海軍中將山路一善君と闘つて、美事に打ち破り遂に勝利の旗幟を翻せし、新進代議士杉宣陣君は杉晴之助君の四男にして明治廿一年十一月六日を以つて生る。

夙に第一高等學校を経て明治四十五年東京帝國大學法科大學を卒業するや直ちに文官高等試験に合格して逓信書記官に任じ、大正五年朝鮮銀行書記同秘書等を歴任し、後ち寺内閣成立するや勝田藏相秘書官同省參事官等に任ぜらる。

然して大正七年勝田氏に隨ひて歐米視察の途に上り、尙ほ清浦内閣成るや勝田藏相秘書官を勤め、現時は辯護士を開業し大正十三年愛媛縣より推されて衆議院議員に當選し中央政界に名あり。

夫人はつ子は東京府の人小林臻君の長女にして東京女子高等師範附屬女學校の

卒業なり、東京府豊多摩郡西大久保一七番地に現住し電話四谷二〇五四番なり。

杉原 惟 敬 君

安田銀行取締役
熊本電話株式會社監査役

君は熊本縣士族大塚俊九郎君の三男にして、慶應二年十月を以つて生れ明治二十七年先代エト子の養嗣子となる。夙に實業界に投じ初め九州鐵道會社に入社し後ち同社が國有となるや轉じて日本貿易銀行門司支店支配人に推され、明治三十六年株式會社肥後銀行に入りて同行熊本支店長、東京支店長等を経て同行取締役兼支配人に就任す。

然して大正十二年同行が株式會社安田銀行と合併成るや、安田銀行取締役に擧げられ九州地方監督を兼ね傍ら熊本電話株式會社監査役にして、且つ肥後農工銀行相談役たり。

夫人きよ子は熊本縣士族三宅作太郎君の長女にして君との間に一女ありてキミ

子と稱す、現に門司市龍門町三丁目二〇二五番地に住し電話三一四番たり。

杉山 金 之 助 君

内外紡績株式會社取締役
濱松松糸株式會社監査役

君は東京府の人杉山文藏君の長男にして、明治十七年一月を以つて生る。夙に學に厚く普通教育を卒ふるや直ちに慶應義塾大學に學び、明治四十年優秀の成績を以つて同學理財科を卒業す。

然して後ち實業界に志し、入りて活躍大いに努め、君が敏腕を縦横に振ひ現に内外紡績株式會社取締役たる外濱松松糸株式會社監査役として知らる。

夫人セイ子は神奈川縣の人廣田寅吉君の長女にして君との間に二男ありて謹吾君、弟也君と稱す、現に東京府豊多摩郡千駄ヶ谷町八一一番地に住す。

杉山謙造君

神奈川県多額納税者

君は神奈川県の人杉山久五郎君の四男にして、明治十一年四月を以つて生る。夙に實業界に活躍し砂糖商を営み、現に横濱有数の商舗たると共に神奈川県多額納税者として現時直税壹千二百三十余圓を納むといふ。

夫人との間に久一郎君あり、現に横濱市花咲町一ノ九番地に住し電話長一五二三番たり。

授に進み以つて現在に及べり、曾つて大正十一年畜産學研究の爲め米佛獨に留學せしことあり。

夫人たき子は宮城縣士族山本悠久君の二女にして君との間に正君、武君、弘君、望君等あり、現に東京府豊多摩郡中澁谷六二一番地に住す。

杉谷泰山君

從四位勳四等 文學士

三井家教育顧問

君は三重縣の人杉谷泰順君の長男にして、慶應三年六月二十三日を以つて生る。夙に高田派勸學院に入りて普通教育及び儒學を修得し、更に青雲の志を抱き笈を負ふて東上し、獨逸協會學校を経て東京帝國大學に學び、明治三十年同文科大學を優秀の成績を以つて卒業す。

然して後ち第二高等學校教授に任ぜられ、君の蘊蓄を傾注して幾多學徒の薰陶に盡瘁して名聲大いに擧り、後ち擧げられて同校教授に陞進し勅任教授たりしが

たま〜三井家の招聘に應じ、同家の家察たる清泉學寮に於て同一族の子弟を率いて其の薰陶に當り、併せて東京帝國大學の優秀學生をも選抜して同學友となし爾來孜孜として人材の教養に盡瘁し以つて今日に及ぶ。

君や資性謹直、學博大にして深く人生諸問題の研究に耽り、其の所産として人生二百歳説を力説主張せる名著「長命術」を始めとして「人間天職」「處世哲學」「人間研究」等の著書ありて何れも名著たるを失はざるべく、而も現代の教育に關しては熱烈なる義務教育延長論者にして、其の識見や蓋し博大なり。

夫人たね子は東京府の人鈴木良助君の長女にして淑徳の聞え高し、現に東京市麻布區斧町一四七番地に住す。

鈴木孫彦君

京城高等商業學校長

正五位勳四等鈴木孫彦君は静岡縣の人先代くに子の叔父君にして、明治十一年

鈴木竹麿君

從五位勳六等

東京帝國大學教授

君は宮城縣の人鈴木又人君の長男にして、明治十一年十一月を以つて生る。明治四十年東京帝國大學農科大學獸醫科を卒業し、同年陸軍二等獸醫に任じ、同四十二年一等獸醫に昇進せり。

然して大正元年陸軍獸醫學校教官並に農科大學講師に任ぜられ同四年同大學教

一月を以つて生れ、大正元年八月家督を相續す。

明治三十二年東京高等商業學校を卒業し更に同三十七年同校専攻部を出で、大正六年商業學研究の爲め英佛米に留學し歸朝するや、三重縣四日市商業學校教諭熊本縣立商業學校教諭、同校長、山口高等商業學校教授等を歴任し現に京城高等商業學校長として知らる。

夫人チヨノ子は山口縣士族檜崎國太郎君の二女にして東京女子高等師範學校を卒業し其の間に鴻一郎君、周三君及びアツ子、みどり子等あり。

住田正雄君

醫學博士 正五位勳四等

九州帝國大學教授

君は兵庫縣の人住田金作君の四男にして、明治十一年三月を以つて生る。明治三十六年東京帝國大學醫科大學を卒業し更に大學院に入りて研鑽を積み直ちに教育界に投ず。

然して京都帝國大學醫科大學助教授に任じ、明治四十一年整形外科研究の爲め獨逸に留學し造詣を深くして歸朝するや明治四十五年九州帝國大學醫科大學教授に任ぜられ以つて現在に及ぶ、大正三年醫學博士の學位を授與せらる。

夫人せい子は群馬縣の人伊藤覺次郎君の二女にして君との間に正樹君あり、現に福岡市須崎裏二十一番地に住す。

杉山左門治君

東洋木材株式會社取締役

千代田興業株式會社監査役

君は神奈川県の人式尾彌十郎君の二男にして、慶應二年二月を以つて生れ後ち先代久平治君の養嗣子となる。夙に東都實業界に身を投じ、現に御厨銀行、東洋木材、京濱運輸各株式會社の取締役たる外千代田興業株式會社監査役として知らる。

夫人なを子は養父久平治君の長女にして君との間に二男四女ありて久夫君、俊

郎君及びあや子、東子、とく子、みさ子と稱す、現に東京市小石川區高田豊川町三十二番地に住し電話牛込三〇八三番なり。

鈴木寧君

正五位勳四等

北海道帝國大學教授

君は北海道士族鈴木元治君の長男にして、明治十四年二月を以つて生る。明治三十八年札幌農學校本科を卒業するや直ちに同校助教授に任ぜられ同年水産學研究の爲め獨佛米諸國に留學し、其の造詣を深くして歸朝す。

然して明治四十年東北帝國大學農科大學水産學科助教授に任ぜられ、同四十二年教授に昇進し大正七年同學水産専門部教授に任じ以つて現在に及ぶ。

夫人エルナ子は獨逸人アドリマン、ハインリッヒ氏の二女にして君との間に昇君、政君及び恵里加子等あり、現に北海道札幌市北四條西七ノ十一番地に住す。

須田 信次君

勳六等 奉平組合理事
東京計器製作所取締役

廣く海外の商機に精通して能く内國産業の歸趨を看破し、我が國財界の恩人且つ斯界の元老として知らるゝ須田信次君は、新潟縣の人須田守約君の長男にして文久二年八月三日を以つて生る。

夙に實業界に志して上京し明治十四年高田商會の創立せらるゝや同社に入り、彼の日清戦役中佛國郵船に便乗して英國に航し、高田商會支店に在りて畫策大いに努め、明治三十年十月米國を経て歸朝し、越えて三十一年再び同支店に赴き約二ヶ年餘にして歸朝す。

顧みるに君が英國在任中屢々歐洲大陸を巡遊して、況く商工業の實況を視察し同三十八年同社副事務長に進み翌年四月支那沿岸より深く支那内地を踏破して對支貿易の實況を調査し、大いに得る所ありしかば明治四十年初めて上海に支店を設置し、自ら同支店長に赴任し其の基礎

固きに及んで再び本店兼務となり、大正七年五月常務理事に累進し其の門格勳精勵實に四十有余年、同社發展に貢献すること甚大、大正十四年同商會を辭し現に前記會社の重役たり。

其の勳等あるは彼の日露戦役に際し、國家に貢献するところ尠少なからざるの故を以つて特に賜はりたる榮譽あるものなり、君や資性濃厚頗る社交に通じ、且つ其の柔和なる風貌は會談する何人も等しく敬慕するところ、人格の高潔、識高見なる、眞に當代紳士の典型と云ふも敢へて過言にはあらざるべし。

夫人和歌子は東京府の人中村榮次郎君の二女たり、東京市芝區白金臺町一ノ二七番地に現住し電話高輪一六六四番なり

杉山 義雄君

株式會社秀英會社長

君は静岡縣の人杉山孝一郎君の養兄君にして、慶應二年九月を以つて生る。夙に實業界に身を投じ現に株式會社秀英會

夫人ナカ子は養父重熙君の長女たり、現に其の住宅を東京府荏原郡駒澤町綠園に有す。

杉村 幹君

戸山腦病院主

曾つては官界にありて樞要の職を歴任し、隨所に其の才幹を發揮して令名を謳はれ、今また戸山腦病院經營者として聞ゆる杉村幹君は東京府土族杉村正謙君の二男にして、明治十四年一月二十日を以つて生る。

夙に東京府立中學校より第二高等學校に進み、明治四十二年七月東京帝國大學法科大學政治科を優秀の成績を以つて卒業し、更に大學院に入りて地方自治行政及び警察行政に關する科目を専攻し、明治四十三年十一月官途に就き警視廳に入りて第一警衛課、警務課、官房文書課等を歴勤し、大正三年十一月官界を去りて嚴父の經營に係る戸山腦病院副院長となり、嚴父を輔けて百般の施設に改善を加

へ、以つて同院をして今日の大を成さしむるに至れり。

偶々大正九年精神病院法の發布せらるゝや、内務大臣より東京府代用精神病院に指定せられ、大正十三年嚴父病歿するに及んで其の事業を繼承して同院主となり以つて現在に至る。

君又文才豊かにして著作に趣味を有し「農業小論」「行餘集」「鞭思樓歌集」「明治大正漢詩私選」等數種の名著あり、尙ほ書畫を愛好し其の鑑識たるや素人の域を脱すといふ。

夫人薰子は石川縣の人杉中利平君の長女にして其の間に秀子、恒子、俊子、慶子等あり、現に東京市牛込區若松町一〇二番地に住し電話牛込六六五番なり。

角 達助君

廣島高等師範學校教授

君は佐賀縣の人角純一君の長男にして明治十三年十二月を以つて生る。明治三十九年三月廣島高等師範學校物理化學科

取締役社長たる外武田割引銀行、袋井銀行、九曜同會各株式會社監査役にして東都財界の重鎮たるを失はざるべし。

夫人なか子は養父兼郎君の長女にして君との間に一女ありて富子と稱す、現に東京市本郷區駒込曙町十三番地に住し電話小石川九二三番たり。

鈴木 圭二君

正五位勳三等 海軍艦政本部長

海軍造船中將

君は新潟縣の人小林百嘯君の令孫にして、明治八年一月を以つて生れ後ち鈴木家の養嗣子となる。夙に郷校を卒業るや笈を負ふて上京し、切礎琢磨、明治三十三年東京帝國大學工科大学造船科を優秀の成績を以つて卒業す。

然して直ちに海軍造船技士に任じ、累進して大正十四年十二月海軍造船中將に陞進す、其の間舞鶴海軍工廠造船部長等を経て現に海軍艦政本部第四部長として令名あり。

を卒業するや、廣島縣師範學校教授、廣島高等師範學校助教授兼同教諭等を歴任し、大正六年兼教授、大正八年同教授に任じ以つて現在に及べり。

夫人貞尾子は大阪府土族加藤貞明君の長女にして君との間に三女ありて静子、雅子、美子等なり、現に廣島市大手町八ノ三八番地に住す。

鈴木梅太郎君

農學博士 從四位勳三等

東京帝國大學教授

君は静岡縣の人鈴木捨藏君の令弟にして、明治七年四月を以つて生る。明治二十九年東京帝國大學農科大學農藝科を卒業するや直ちに教育界に投ず。

爾來東京帝國大學農科大學助教授、盛岡高等農林學校教授兼東京帝國大學農科大學助教授等を歴任し、現に東京帝國大學農學部教授たり、曾つて明治三十四年農藝化學研究の爲め獨、佛、瑞各國に歴遊し同年農學博士の學位を授與せられ又

明治四十五年再度外國に航し米國を視察研究して歸朝す。

夫人スマ子は故工學博士辰野金吾君の長女にして其の間に一女ありて久仁子と稱す、現に東京市外上澁谷一四一番地に住し電話青山一三九八番たり。

砂田重政君

勳五等 衆議院議員
司法參與官

今や中央政界一輪の名花と謳はれ、一度議政壇上に其の透徹せる政論を吐くや全院を湧かすに足る少壯政治家を我が砂田重政君となす。君は愛媛縣の舊藩士砂田重治君の長男にして、明治十七年九月を以つて生る。

明治三十七年中央大學を卒業するや、直ちに辯護士及び判檢事登用試験に合格し東京、京都、神戸に司法官たりしが後ち辯護士を開業し尙ほ傍ら榮組、日本給水各株式會社の重役にして、曩に兵庫縣郡部より推されて衆議院議員に當選する

こと前後二回、而して昭和二年四月田中政友會内閣の出現と共に司法參與官に擧げられ以つて現在に及ぶ。

夫人キヨ子は豫備陸軍中將小原傳君の養女にして内助の聞え高し、現に神戸市山手通六ノ九二番地に住し電話長元町七二六三番なり。

鈴木富太郎君

白石興産株式會社社長
宮城農工銀行監査役

君は宮城縣の人鈴木富五郎君の長男にして慶應二年二月を以つて生る。夙に地方實業界に活躍して其の敏腕を振ひ、現に白石興産株式會社社長たる外宮城農工銀行、磐城煉瓦株式會社の重役として知らる。

夫人いし子は宮城縣の人鎌田權五郎君の長女にして君との間に菊藏君、禮吉君及びちとせ子、のち子、みや子等あり、現に宮城縣刈田郡白石に住す。

訪諏方季君

安中電氣製作所取締役
池上電氣製造株式會社取締役

君は東京府の人諏訪方三君の三男にして、明治十年十二月を以つて生る。現に前記の諸職にあり。

夫人きく子は東京府士族池尾武成君の五女にして君との間に方夫君、季夫君、良夫君及び方枝子、喜久枝子等あり、現に東京市麻布區本村町一四五番地に住し電話高輪七二一六番たり。

鈴木隆君

株式會社鈴木商會社長
衆議院議員

君は千葉縣の人鈴木良作君の二男にして、明治十五年一月を以つて生る。夙に實業界に投じ、現に株式會社鈴木商會社長たる外角取セルロイド工業、鈴木保隆各株式會社重役にして且つ米穀問屋を營み財界に重きをなす。曩に東京市會議員に擧げられ且つ千葉

縣郡部より推されて衆議院議員に當選し現に其の任にあり。

夫人とら子は東京府の人池田源次郎君の二女にして君との間に實君、秀夫君、保君及び静子、郁子等あり、現に東京市淺草區森下町二〇番地に住し電話淺草三五三四番たり。

鈴木周三郎君

鈴木實業銀行頭取
日東紡績株式會社取締役

君は福島縣の人鈴木清治郎君の長男にして、明治九年九月を以つて生る。夙に地方財界に頭角を現はし、其の勢力たるや縣下財界全般に波及し、現に前記の外福島商業銀行、小高銀行、川俣銀行、福島羽二重、福島土地、長澤醸造、福島誠壹、福島瓦斯各株式會社の重役として知らる。

然も尙ほ福島縣多額納税者として現時直税三千七百七十余圓を納むといふ。夫人ハナ子は福島縣の人瓶子長六君の

長女にして君との間に周次郎君、利八郎君、勝衛君及びコク子、チウ子、ヒデ子タマ子等あり、現に福島縣信夫郡杉妻村に住す。

菅野盛次郎君

從四位勳四等
産業組合中央金庫副理事長

君は東京府士族松本謙之助君の二男にして、明治五年七月を以つて生れ後ち先代是止君の養嗣子となる。

明治三十年東京帝國大學法科大學英法科を卒業するや、官界に投じ爾來秋田、函館、金澤各稅務管理局長、大藏書記官東京稅務監督局長兼東京稅務局長、大阪稅務監督局長、東京稅務監督局長等を歴任し、後ち官を辭して野に下り現に産業組合中央金庫副理事長として知らる。

夫人崎子は熊本縣の人河野通倫君の三女にして君との間に盛一君及び三八子、ミチ子、すみ子、すす子等あり、現に東京市小石川區宮下町三十七番地に住す。

鈴木章之君

正七位勳六等
東洋麻糸紡績株式會社常務取締役

君は福島縣の人鈴木龜佐君の長男にして、明治八年十月二十七日を以つて生る。夙に郷校を卒ふるや笈を負ふて上京し、直ちに商船學校に入學し、明治三十四年同校航海科を優秀の成績を以つて卒業するや、選ばれて同校教授に任じ英國留學を命ぜられ、斯學を研鑽すること二年有半、造詣を深くして歸朝す。

然して歸朝後は引き續き同校に教鞭を執り、其の新進の學理を傾注して幾多學徒の薰陶に盡瘁すること甚大なりしが、明治四十三年感ずるところありて斷然教職を擲ちて歐米漫遊の途に上り、彼の地の經濟界を視察見學して歸朝す。

斯くて實業界に投じて君が才腕を縦横に振ひ、大正七年東洋麻糸紡績株式會社の創立に參畫して、其の設立を見るや推されて同社常務取締役任に就任し以つて現在に及ぶ。

君や天資穎明にして性闊達、而も其の博學たる蓋し凡輩を脱す、就中勞資問題に關する其の蘊蓄に至りては専門家道學先生達も遠く及ばざるところ、今や純正學理の把持者であり、且つ又新興大日本財界の一異彩として令名を謳はれ、前途益々多事、且つ多望なりと謂ふべし。

夫人きみ子は福島縣の人白井遠平君の五女にして君との間に一雄君、大二郎君及び敏子、道子、章乃子、好子、千恵子等あり、現に東京市本郷區駒込千駄木町三六番地に住し電話小石川二八八五番たり。

鈴木徳男君

醫學博士 從四位勳五等

君は兵庫縣土族鈴木近長君の長男にして、文久三年十一月を以つて生る。明治二十四年東京帝國大學醫學科大學を卒業し大正二年醫學博士の學位を受け、縣立神戸病院長たること二十余年にして大正十二年十二月辭す、曾つて歐洲各國に出張

せしことあり。

夫人キャン子は埼玉縣の人鈴木敏行君の養女にして其の間に武雄君、三八男君、四十二男君及びウメ子、チョウ子等あり現に神戸市中山手通七ノ番外三十八番地に住し電話元町五〇六番たり。

鈴木梅四郎君

廣南製糖株式會社社長
日本鑛業株式會社社長

君は長野縣の人鈴木龍藏君の三男にして、文久二年四月を以つて生る。夙に慶應義塾大學を卒業するや、直ちに時事新報記者として聘せられ操觚界に活躍せしが、後ち横濱貿易新聞社長に任じ、敏腕を振ふて啓蒙開發に盡瘁せり。

然して實業界に轉じ、王子製紙株式會社取締役、日本殖民株式會社社長等を経て現に臺南製糖株式會社社長、日本鑛業株式會社社長たる外臺灣森林工業株式會社社長、晚成事業株式會社常務取締役等を始めとして共同火災保險、小涌谷ホテ

ル、帝國通信社、東洋印刷、三越呉服店各株式會社の重役にして我が財界の巨頭として令名あり。

現に東京市麴町區四番町三番地に住し電話四谷二三二一番たり。

鈴木清助君

今井商業銀行常務取締役
山形縣會議員

君は山形縣の人先代清助君の長男にして、明治二十六年二月を以つて生れ後ち前名亮一郎を改めて襲名す。

夙に東京農業大學を卒業するや直ちに地方産業振興を以つて任じ、即ち飄然として歸郷し、大いに地方財界に活躍し現に今井商業銀行常務取締役たる外山形電氣株式會社取締役たり。

然して深く地方自治制に心を盡し縣政に參與して君が敏腕を振ひ、現に山形縣會議員として令名あり。

夫人イチ子は山形縣の人粕谷九左衛門君の長女にして君との間に一郎君、二郎

君及び方子等あり、現に山形縣西村山郡大谷村に住す。

杉山茂太君

土木建築設計工事請負業
杉山工務店代表社員

今や本店事務所を東京市麴町區飯田町に有し、其の專屬工場を東京府下大島町に有して帝都復興事業の第一線に臨んで活躍し、斯界の信望を博しつゝあるを我が合資會社杉山工務店代表社員杉山茂太君となす、君は杉山卯三郎君の長男にして明治九年七月五日を以つて生る。

夙に明治義會中學を卒業するや直ちに第一高等學校に入學せしも後ち感ずるところありて斷然學を廢し、實業界に雄飛せんとの大志を抱いて清水組に入社し、格勳精勵すること十余年、其の間具さに土木建築の經驗を積み、後ち轉じて橋本組に入りて實地に研究する事八ヶ年、愈々獨立の機運熟するや大正七年敢然起つて杉山工務店を開設するに至る。

鈴木常松君

大阪書籍株式會社常務取締役

君は大阪府の人鈴木善七君の長男にして、明治三年一月を以つて生る。夙に圖書出版界に志し、修文館と稱して書籍商を營み現に大阪書籍株式會社常務取締役たる外修文館書肆を経營し、且つ大阪書籍雜誌商組合組長たり。

夫人をハル子と稱し大阪府の人田松之助君の二女にして其の間に七男三女あり現に大阪市東區博勢町五ノ五六番地に住し電話船場四四〇番たり。

杉田直樹君

醫學博士
東京帝國大學教授

我が醫學界に於ける少壯學者として且つまた精神病學の泰斗として録々の名あるを杉田直樹君となす、君は明治二十年九月を以つて東京市芝區翠平町に生る。天資穎明才幹兼に秀で夙に郁文館中學校より第一高等學校に進み、同校を経て東

京帝國大學醫科大學に學び、大正元年優秀の成績を以つて同學を卒業するや更に精神病學を専攻す。

然して翌年九月選拔せられて文部省海外留學生として獨逸に留學し、ミュンヘン大學に入りクレベリン、スピールの兩教授に師事して斯學の研鑽に耽り其の蘊奥を極め、偶々歐洲戰亂勃發するや和蘭英國等を経て米國に轉學し、費府ウキスタ一研究所に入りドナルドソン教授に就きて比較神經學の研究をなし、造詣愈々深くして大正七年五月芽出度歸朝す。

爾來東京帝國大學醫科大學精神病學講師に任じ、君が博大なる學識を傾注して幾多學徒の血を湧かし、大正十年一月醫學博士の學位を授けられ、同年四月助教に陞進し以つて現在に及ぶ。

君や性闊達、辯論透徹して毫も偏するところなし、今や少壯學者として前途を囑望せられ、専門學上並びに教育病理學犯罪心理學等に關する名著尠ならず、又専門學以外の哲學及び文學等内外の書

に造詣深く、文筆を能くする等所謂現代醫學者先生達の到底追従を許さざるところ、眞に我が國醫學界の一異彩たるを失はざるべし。

夫人を輝子と稱し、内助の閑え高し、現に東京市本郷區駒込西片町十番地に住し電話小石川一九二三番たり。

菅波角之助君

帝國酒造株式會社常務取締役
日本製鋼株式會社取締役

君は福島縣の人酒井其平君の叔父君にして、明治五年三月を以つて生れ後ち明治三十八年菅波家の養嗣子となる。

夙に實業界に活躍し現に帝國酒造株式會社常務取締役たる外日本製鋼、東京信用銀行、極東製藥各株式會社の重役として我が財界に重きをなす、曾つてローヤルメルロイド株式會社取締役たりしことあり。

夫人フミ子は福島縣の人白井遠平君の三女にして君との間に稱事君、康平君、

淳君、啓吉君及び柳子、絹子等あり、現に東京市小石川區久堅町二六番地に住し電話小石川四六五番たり。

杉梅之治君

正六位勳五等
東京市淺草區長

君は岡山縣の人杉孫太平君の三男にして、明治七年六月二十八日を以つて眞庭郡落合町大字西河内に生る。夙に郷校を卒ふるや青雲の志を抱いて東上し、孜孜として研鑽を怠らず、明治三十一年八月中央大學の前身たる東京法學院大學を優秀の成績を以つて卒業するや、同年九月文官普通試験に合格し、更に斯學の蘊蓄を究むべく東京警察監獄學校に學び、明治三十三年七月同校を卒業せり。

然して同年九月職を官界に奉じ、拔擢せられて岡山縣警部を拜命、時に年齒僅かに二十六才、矢掛、勝間田各分署長を経て斯官登龍一線の門地として異名を冠せらるゝ彼の倉敷に赴く、即ち遙かに前

程を望んで南備の原に旗幟を翻へして白馬金鞍の試練に任ぜるなり。

果せる哉、新任早々君の眼前に二大事件は展開せらる、その一は當時關西財界の巨頭故坂本金彌氏の所有に屬する帶江嶺山に於ける爆彈不隱事件にして、該事件たるや決して輕々の舉措に出づべからず、即ち一面數千人の人命に係り、他面社會安寧の上に懸る、然りと雖も流石は兩雄の善處、彼の英斷と此れの慧眼とは相俟つて、能く大事を見ずして未然に解決を告げせり。

更にこれと相前後して倉敷紡績の惡疫猖獗せるに際し、これ又大事に至らずして沈靜防遏の途を講じ、斯くて我が青年名署長の名は一時に天下に喧傳せらる。

明治四十一年六月山梨縣に移り同縣衛生課長、保安課長、警務課長、巡查教習所長等を歴勤して大正四年一月同縣警視に任じ、高等官八等に叙し甲府警察署長に拔擢せられ、同年三月正八位に叙し更に翌年一月高等官七等に昇叙し、同年三

月從七位に叙せらる。

大正六年六月同縣北都留郡長の椅子を贏ち得、翌年四月正七位に叙し同六月勳六等に叙し瑞寶章を授けらる。

偶々大正七年八月佐作香川縣知事に聘せられて同縣に赴き、仲多度郡長、綾歌郡長等を歴任し、其の間郡制廢止の前期に際會せしかば君能く萬般の整理に敏腕を振ひ、大正十二年二月郷里岡山縣御津郡長に轉じ、愈々君が天稟の行政的才量を縦横に發揮し、能く地方行政の改善發達に盡瘁し、大正十二年九月正六位に翌年七月特に勳五等に昇叙し、瑞寶章を授けられ同年十二月官を辭して野に下る。

然して爾來野にあり悠々たること僅かに二ヶ月君の優れたる敏腕と卓越せる識見とを以つて徒らに消光するは國家の爲め惜むべきことなし遂に大正十四年三月推されて東京市淺草區長に擧げられ、今や東京市政に參畫して君が多年の經驗を行ふ、必ずや同區の爲め貢獻する又疑ひなかるべし。

現に東京市外中野町大字打越二一七四番地に住し電話中野五五四番たり。

鈴木康太郎君

浦和商業銀行取締役

君は埼玉縣の人鈴木順太郎君の長男にして、明治二十二年一月を以つて生る。夙に地方産業開發に心を碎き即ち實業界に雄飛して活躍大いに努め、現に浦和商業銀行取締役に於て且つ埼玉縣多額納稅者として當地方財界に聲名あり。

夫人たけ子は埼玉縣の人井原誠一郎君の令妹にして其の間に裕君、敏夫君、通夫君及び和子等あり、現に埼玉縣北足立郡尾間木に住す。

鈴木圭三君

中華企業株式會社監査役
東京株式取引所一般取引員

君は愛知縣の人鈴木嘉一郎君の令弟にして、明治五年二月を以つて生る。夙に東都實業界に活躍して令名を馳せ、現に

萬屋商店と稱して東京株式取引所一般取引員にして且つ傍ら中華企業株式會社監査役たり。

夫人喜美子は東京府の人加茂捨次郎君の令妹にして君との間に一衛君、耐次君、藤五郎君及び喜代子、登代子等あり、現に東京市赤坂區表町四丁目十三番地に住し電話青山六九〇番たり。

杉 琢 磨 君

從四位勳四等
宮内省内藏頭(前)

君は岡山縣の人杉哲太郎君の二男にして、明治十五年十二月を以つて生る。夙に學に厚く、郷校を卒業するや笈を負ふて東上し、研鑽琢磨、明治四十二年東京帝國大學法科大學政治科を優秀の成績を以つて卒業す。

然して職を官界に奉じ、遞信省に入りて貯金局事務官、同書記官を経て、大正三年宮内省に轉じ書記官に任命せられ、爾來内匠寮經理課長、工務課長、大臣官

房用度課長、宮内省參事官、大臣官房庶務課長兼秘書課長等を歴任し、大正十五年一月宮内省内藏頭に任ぜられ以つて現在に及ぶ。

夫人庫子は東京府の人三好貞雄君の令妹にして君との間に健作君、正作君及び幸子、歌江子、良江子等ありて二男正作君は岡山縣の人杉ます子の養嗣子となる現に東京府豊多摩郡野方町字上沼袋一三二番地に住し電話中野五六二番たり。

鈴木 榮 助 君

東洋コルク工業株式會社監査役

君は廣島縣の人難波榮次郎君の令弟にして、慶應三年五月を以つて生れ後ち先代クラ子の養嗣子となる。夙に地方財界に活躍して異數なる成功を贏ち得、現に東洋コルク工業株式會社監査役にして且つ廣島縣多額納税者として直税四千六十六圓を納むといふ。

夫人ゆき子は廣島縣の人淺田保次郎君の長女にして君との間に子女なし、現に

廣島市塚本町に住し電話四八六番たり。

鈴木 市之助 君

旭電化工業株式會社事務取締役
日本電機株式會社監査役

君は京都府の人木村長兵衛君の二男にして、明治十五年二月を以つて生れ後ち先代エイ子の養嗣子となる、夙に學に厚く明治三十六年慶應義塾大學理財科を優秀の成績を以つて卒業するや、直ちに米國に留學しコロンビヤ、エール各大學に學び其の蘊蓄を積みて歸朝す。

然して古河合名會社に入社し、後ち古河家經營の博愛生命保險株式會社に轉じ同社事務取締役に就任し、現に旭電化工業株式會社事務取締役社長として内外の社務を執掌し、君が新進の學理と多年の經驗とを以つて愈々同社の發展に盡瘁し傍ら日本電線、原町紡績各株式會社の重役として我が財界に名あり。

夫人トク子は佐賀庄三君の令妹にして内助の聞え高く、君との間に市郎君、康

治郎君、亮三君及び春子、園子等あり、現に東京市麻布區狸穴町十六番地に住し電話青山六〇九九番たり。

末 永 壽 君

明治運輸株式會社長

君は福岡縣士族末永二六君の令弟にして、慶應元年二月を以つて生れ後ち先代フク子の養嗣子となる。夙に地方實業界に活躍し、現に明治運輸株式會社長として知らる。

夫人ゆき子は福岡縣士族鈴木横五郎君の令妹にして君との間に弘海君及び照子實枝子、とき子、昌子、ミエ子、キヨ子等あり、現に福岡縣福岡市濱町三七番地に住す。

須 田 宣 君

鬼怒川水電會社監査役

君は山梨縣の人須田耕君の長男にして明治十一年三月を以つて生る。夙に財界に投じ曩に金剛山水力電氣、加富登麥酒各株式會社の重役たりしが現時は前記株

式會社の監査役たり。

夫人をかめの子と稱し君との間に堅太郎君、清次郎君、榮三郎君及び鶴子、ちか子、ひで子等あり、現に東京市赤坂區青山高樹町十二番地に住し電話青山一九二番たり。

周 布 兼 道 君

男爵 從四位
貴族院議員

當家は先代公平君より其の家名を擧ぐ公平君は明治九年司法權少丞に任せられ爾來太政官少書記官、同權大書記官、參事官、議官、法制局參事官兼外務省參事官、内閣書記官長、兵庫縣知事、行政裁判所長官、神奈川縣知事、樞密顧問官等を歴任し且つ貴族院議員に勅任せられ、明治四十一年特旨を以つて華族に列し男爵を授けらる。

君は其の長男にして明治十五年三月を以つて生れ、大正二年襲爵仰せ付けらる曩に伊太利に遊び又會つて逗子電燈株式

會社會長たる外相模水力電氣株式會社常務取締役及び小田原電燈、山田炭礦、大和電爐工業各株式會社の重役たりしことあり。
趣味として撞球を能くするが如し、夫人を鑑子と稱し伯爵副島道正君の令妹にして華族女學校の出身たり、現に東京市四谷區南町八八番地に住し電話四谷三〇三〇番たり。

菅 原 大 太 郎 君

安田銀行常務取締役
江井ヶ島酒造株式會社取締役

君は兵庫縣の人菅原寅太郎君の長男にして、明治二年八月十五日を以つて生る夙に郷校を卒業するや青雲の志を抱き笈を負ふて東上し、英吉利法律學校、神田共立學校等に學び後ち第一高等學校に入學し、研鑽琢磨、同校を経て明治三十一年東京帝國大學法科大學を優秀の成績を以つて卒業す。

然して直ちに實業界に投じ、第三百十

銀行に入りて同行小倉支店長、門司支店長等を歴勤して本店庶務部長に轉じ、明治四十年九月拔擢せられて同行韓國支店總支配人に擧げられ、朝鮮財界に令名を馳せしが同四十四年第三銀行に轉じて同行支配人に就任し、累進して同行常務取締役として同行發展に貢献すること甚大なりき。

偶々大正十二年十一月銀行大合同の結果安田銀行に併合せらるゝや君又同行に轉じ、其の取締役兼總監督に推擧せられ後ち同行常務取締役に推され、現に其の要職にある傍ら江井ヶ島酒造株式會社取締役にして、今や我が財界の重鎮として錚々の名あり。

夫人しげ子は東京府の人ト部兵吉君の長女にして其の間に太郎君、恒次郎君等あり、現に東京市本郷區駒込西片町十番地に住し電話小石川二〇五五番たり。

鈴木紋次郎君

實業家

君は岐阜縣の人太洞彌兵衛君の令弟にして、明治十三年三月を以つて生れ後ち先代タカ子の入夫となる。明治三十八年東京商科大学の前身たる東京高等商業學校を卒業するや、直ちに財界に投じ第一銀行に入りて預金課長たりしことあり。

現時は淺野造船所、鈴木洋酒店、庄川水力電氣、淺野石材工業、淺野同族、神奈川コークス、内外石油、京濱運河、關東水力電氣、千代田石油各株式會社の取締役にして且つ日之出汽船、中央製鐵、淺野物産、日本鑄造、鶴見木工、日本銑鐵各株式會社の監査役にして其の他大小多數諸會社の重役として我が財界に令名高し。

夫人たか子は財界の巨星淺野總一郎君の五女にして君との間に羊夫君、崇君、至君及び純子、潔子、淳子等あり、現に東京市芝區田町六ノ九番地に住し電話高輪三五一番たり。

杉崎靜夫君

實業家

君は岡山縣土族杉崎溫君の長男にして明治二年十月を以つて生る。早くも本邦實業界に雄飛せんとの大志を抱き、即ち入りて君が天與の才量を自由に振揮し、斯界に盡瘁すること甚大なりき。

現に株式會社齋藤製作所專務取締役たる外太田商事株式會社常務取締役にして且つエビス研磨材、北門銀行各株式會社の重役として知らる。

夫人千見代子は岡山縣の人長尾市三郎君の令妹にして君との間に重遠君、重明君等あり、現に東京市赤坂區福吉町一番地に住し電話青山四三二六番たり。

須田馬太郎君

前橋倉庫株式會社監査役

上毛實業銀行取締役

君は群馬縣土族須田千五作君の長男にして、明治十八年八月を以つて生れ後ち

須田萬右衛門君

美濃銀行取締役

岐阜縣多額納稅者

君は岐阜縣の人須田萬右衛門君の長男にして、明治十四年一月を以つて生れ前名英一を改めて襲名す。

夙に地方財界に活躍して驥足を縱横に伸ばし、現に美濃銀行取締役にして尙ほ岐阜縣多額納稅者として直稅多額に及び同地方有數の實業家として令名あり。

夫人なを子は愛知縣の人吉田吉兵衛君の令妹にして君との間に喜智雄君及び錦子、雪子、縁子等あり、現に岐阜縣武儀郡美濃町に住す。

鈴木愛作君

株式會社小林運送店取締役

小林運送店岡田川支店長

東都通運界に錚々の名ある我が株式會社小林運送店の各支店中、其の最も樞要なるを岡田川支店となす、而して同支店長小林愛作君は群馬縣の人小林重三郎君

先代十九平君の養嗣子となる。夙に地方財界に投じ、現に前記の諸職にありて地方財界に重きをなす。

夫人ひで子は文學博士遠藤隆吉君の令妹にして君との間に一男四女ありて保之助君及びあい子、のぶ子、れい子、たき子と稱す、現に前橋市天川町八四番地に住す。

鈴木隆晴君

帝國電氣株式會社社長

大同電氣株式會社取締役

君は鈴木豊治郎君の二男にして、明治十九年三月二十一日を以つて生る。夙に實業界に雄飛し曩に東京電燈株式會社社長、甲府電力株式會社技師たりしが、後ち大同電氣の前身たる關東電氣株式會社を創立して同社專務取締役に就任し、更に帝國電氣株式會社を創立し、現に同社々長たる外大同電氣、大島電氣拓殖、原釜電氣各株式會社の重役として知らる。

曾つて株式會社東京電氣鐵工所取締役

杉下正命君

東京博善株式會社取締役

君は愛知縣の人杉下兵治郎君の長男にして、明治五年十月を以つて生る。夙に郷校を卒ふるや笈を負ふて東上し、明治二十五年慶應義塾大學を卒業して直ちに實業界に投じ、現に東京博善株式會社取締役にして且つ池袋瑛瑠工場經營者として知らる。

夫人とき子は愛知縣土族牧野田六君の四女にして其の間に祐次郎君、六郎君及びのぶ子、百代子、きよ子等あり、東京市小石川區大塚仲町二六番地に現住す。

の三男にして、明治八年七月一日を以つて碓氷郡安中町に生る。

夙に郷校を卒ふるや大志を抱いて上京し、直ちに東都實業界に投じ、小林運送店に入りて恪勤精勵すること數年、後ち小林運送店社長鈴木五三郎君の經營に係る隅田川運送店支配人に擧げられ、明治四十四年十月同店を君の名義に變更して獨立經營に任じ、愈々業務の大擴張を計り着々として斯界に堅實なる地歩を占め、後ち隅田川運送組合幹事、同組合長等に推舉せらる。

偶々大正九年三月小林運送店が資本金五十萬圓の株式會社に變更せらるゝや、君は業務一切を擧げて同社に合同して隅田川支店となし君は同支店長に任じ兼ねて同社取締役任に推され以つて現在に及べり、先是懇請せられて鈴木家の養嗣子となりて其の姓を冒し、以つて鈴木三五郎君の義弟となる。君や資性温厚篤實にして人と接するに極めて懇切なり、旅行を好み未知未聞の

土地を跋渉するを唯一の樂しみとなし、又書畫、骨董を愛好すといふ、夫人乙津子は東京府の人林周藏君の二女にして内助の聞え高し、東京府北豊島郡南千住地方橋場一三七番地に住し電話淺草二五一番たり。

末繁彌次郎君

日本證券株式會社監査役

辯護士實業家末繁彌次郎君は山口縣の人末繁五郎君の三男にして、明治十七年三月二日を以つて生る。明治三十八年七月日本大學を卒業するや辯護士登用試験に登第し、現に辯護士として東都法曹界に名ある傍ら日本證券、北日本興業各株式會社の重役として知らる。

夫人義子は大阪府の人後藤義三郎君の五女にして日本橋高等女學校を卒業し君との間に英太郎君、喜久子等あり、現に東京市神田區仲猿樂町十七番地に住し電話神田二七六四番たり。

菅野修藏君

小倉製紙所取締役支配人

君は兵庫縣土族菅野正盛君の二男にし

杉村七太郎君

醫學博士 正五位勳四等
東北帝國大學醫學部教授

君は静岡縣の人杉村七重郎君の長男にして、明治十二年十二月を以つて生る。明治三十九年東京帝國大學醫科大學を卒業するや、更に大學院に入りて外科學を專攻し、後ち佛國に留學して斯學の研鑽に耽り、造詣を深くして歸朝す。

爾來東京帝國大學助手、新潟醫學專門學校教授等を歴任し、現に東北帝國大學醫學部教授にして且つ同大學附屬醫院長同大學評議員たり、曩に醫術開業試験委員仰せ付けられ且つ大正十二年歐米に視察出張を命ぜらる。

て明治十四年二月を以つて生る。夙に地方實業界に身を投じ、現に株式會社小倉製紙所取締役支配人として知らる。夫人たか子は東京府の人吉水大智君の長女にして君との間に正義君及び邦子、敏子等あり、小倉市古船場町一五〇番地に現住す。

鈴木太郎君

帝國物産株式會社常務取締役
阿部商事株式會社取締役

君は長野縣土族鈴木健君の長男にして明治四年二月を以つて生る。夙に郷校を卒ふるや大志を抱いて上京し、直ちに東都實業界に投じて活躍大いに努め、君が敏腕を縦横に振展し、現に前記の外東京コークス販賣、唐津工業、山元オブラー、日本莊園、中央屑物市場、相模運輸各株式會社の重役として我が財界に令名あり。

夫人猛子は長野縣土族原澤鑑太郎君の長女にして君との間に次男君及び梅子、

竹子、鶴子等あり、現に東京府荏原郡入新井不入斗八八番地に住し電話大森十一番たり。

栖原啓藏君

富士製紙株式會社常務取締役
新田製粉株式會社取締役

君は和歌山縣の人栖原角右衛門君の二男にして、明治八年三月を以つて生る。夙に郷校を卒ふるや青雲の志を抱き笈を負ふて東上し、研鑽琢磨磨雪の功空しからず、明治二十九年東京商科大学の前身たる東京高等商業學校を優秀の成績を以つて卒業す。

然して後ち實業界に投じ、君が蘊蓄を傾倒して異數の敏腕を振ひ、現に富士製紙株式會社常務取締役として内外の社務を執掌する傍ら新田製粉、北海道電燈、静岡電力各株式會社取締役にして且つ樺太鐵道、中央開墾各株式會社監査役として我が財界に令名高し。

夫人薰子は東京府の人山内徳三郎君の

四女にして君との間に正君、毅君、繁君及び亮子、潔子、妙子、美代子、富士子等あり現に東京市麴町區土手三番町二六番地に住し電話四谷五二一〇番たり。

鈴木虎之助君

亞細亞製糖工業株式會社取締役

君は愛知縣の人加藤貞吉君の二男にして、明治五年三月を以つて生れ後ち先代をふ子の入夫となる。夙に東都財界に投じ現に亞細亞製糖工業株式會社取締役として知らる。

夫人そふ子は先代勝藏君の五女にして君との間に力衛君、斷雄君及び妙子、科子等あり、東京府荏原郡玉川に現住す。

菅井角之介君

神戸電機製作所監査役
兵庫縣多額納稅者

君は兵庫縣の人菅井要助君の長男にして、明治七年十月を以つて生る。現に阪神財界の重鎮として知られ、夙に酒造業

を營み傍ら神戸電機製作所監査役たり。
尙ほ兵庫縣多額納稅者として現に直接
國稅三千八十餘圓を納むといふ。

夫人つる子は大阪府の人橋本治助君の
令妹にして君との間に濱子、千鶴子、淳
子等あり、現に兵庫縣武庫郡御影に住し
電話御影六五八番たり。

杉浦文一君

大同電氣株式會社事務取締役

君は愛知縣の人杉浦惣七君の四男にし
て、明治十六年三月十四日を以つて生る
夙に郷里にありて普通學を修むるや、直
ちに笈を負ふて東上し、研鑽を積むこと
多年、後ち實業界に投じて君が敏腕を縱
横に振ひ、大正八年關東電氣株式會社專
務取締役任に就任し、内外の社務を執掌し
て同社の發展に貢献すること甚大なりき
然して大正十四年同社が大和電氣株式
會社を併合して大同電氣株式會社と改稱
せらるゝや引き続き同社專務取締役の要
職に就任し、今や芝區田町、麻布及び府

下巢鴨等に廣大なる工場を有し、東都同
業界に重きをなす、蓋し君の力與つて大
なりと謂ふべし。

趣味多様に於て、就中書畫、骨董を愛
好し、社交に厚く電氣俱樂部、鐵道協會
各會員たり、夫人をのぶ子と稱し内助の
聞え高く、其の間に總輔君、定夫君、東
逸君等あり、東京市芝區三田四國町十五
番地に現住し電話高輪三七八六番たり。

須田國雄君

高千穂商會主

シトロエン自動車株式會社取締役

新進の學理と實際とに精通し、正に新
日本財界に飛躍して前途多望なる新進實
業家を我が須田國雄君となす。君は愛媛
縣土族櫻井靜君の令弟にして、明治十一
年七月四日を以つて生る。

夙に郷校を卒業するや青雲の志を抱いて
東上し、明治三十六年東京帝國大學工科
大學船用機關科を卒業し、直ちに横濱船
渠株式會社に入り、後ち川崎造船所技師

として聘せられ、社命を帯びて船用機關
研究の爲め米國に渡航し、研鑽すること
五ヶ年、造詣を深くして歸朝するや同社
造船部長助役に任ぜられ、同社の爲め盡
瘁すること甚大なりき。

然して大正六年之を辭して再び横濱船
渠株式會社に轉じ造船部長として君が濼
蓄を傾注し、大正十一年同社を辭して獨
力以つて高千穂商會を創立し、外國諸機
械の販賣を開始し傍らシトロエン自動車
株式會社の取締役として令名高し。

夫人ハル子は東京府の人須田利信君の

長女にして東京女學館の卒業たり、現に
東京市四谷區鹽町一ノ三〇番地に住し電
話四谷三〇三三番なり。

角彌太郎君

株式會社日立製作所取締役

君は廣島縣の人角品藏君の長男にして
明治三年十一月を以つて生る。明治二十
七年法政大學を卒業するや直ちに實業界
に投じ、現に株式會社日立製作所取締役

として知らる。

夫人わか子は東京府の人池田半藏君の
二女にして君との間に浩君、正郎君及び
靜枝子等あり、現に東京府豊多摩郡忠野
町一一二〇番地に住す。

菅音次郎君

兵庫縣多額納稅者

神戸商業會議所議員

當家は代々淡路に住し農業を以つて其
の業とせしが、祖父菅新兵衛君志を立て
、阪神に移り、其の女たみ子才智ありて
獨力茶商を營み家運漸次擧りぬ。

君は大阪府の人川口源七君の三男にし
て、慶應元年四月を以つて生れ後ち女將
たみ子の養子となる、而して堅實克く先
代の茶商を守りて益々發展に赴かしめ菅
園と稱して阪神地方に名あり。

然して事業に専念たる傍ら公共事業に
盡瘁し、現に神戸商業會議所議員にして
且つ兵庫縣多額納稅者として直接國稅二
千七百八十餘圓を納むといふ。

杉本敏治君

合資會社六盟館代表社員

夫人みつ子は大阪府の人竹中爲次郎君
の長女にして君との間に藤太郎君、和三
郎君及び美代子、千代子、たい子、久江
子等あり、現に神戸市下三條町二〇四番
地に住し電話本局二二二二番たり。

君は東京府の人杉本七百九君の二男に
して、明治二十三年十一月二十六日を以
つて生る。夙に普通教育を修むるや更に
慶應義塾大學理財科に學び、優秀の成績
を以つて同學を卒業す。

然して身を實業界に投じ嚴父の經營に
係る六盟館合資會社に入りて、嚴父を援
けて圖書出版界に活躍し、後ち嚴父他界
するや君其の後を繼承して同社代表社員
に任じ、能く内外の社務を執掌し君が新
進の學理と經驗とを以つて斯界に飛躍せ
しかば、遂に今日の大を成するに至り今
や我が六盟館の名全國に普ねし。
夫人なか子は東京府の人篠田鑛造君の

長女にして君との間に壽子、彌生子等あ
り、東京府下雜司ヶ谷三五一番地に現住
し電話牛込三二四九番たり。

杉村博通君

庄川水電株式會社事務取締役

君は東京府の人杉村喜兵衛君の長男に
して、明治七年五月を以つて生る。夙に
實業界に投じ、現に庄川水電株式會社常
務取締役たり、因に君は工學士たり。

夫人しづ子は東京府の人橋本敏行君の
長女にして其の間に博昌君、章君、三郎
君及び恒子、文子等あり、現に東京府荏
原郡大崎町下大崎七十二番地に住し電話
高輪二五六八番なり。

杉本東造君

醫學博士

杉本胃腸病院長

君は新潟縣の人杉本直形君の二男にし
て、明治六年十月を以つて生る。明治三
十五年東京帝國大學醫學科大學を卒業し、

大正四年醫學博士の學位を授與せられ、現に杉本胃腸病院長として東都刀圭界に聲名あり。

夫人ミサオ子は新瀉縣の人間島和一郎君の長女にして其の間一女ありて貞子と稱す、現に東京市神田區錦町三ノ一番地に住し電話大手五六四三番たり。

杉浦 儉一君

從四位勳三等
日本勸業銀行理事

君は東京府士族杉浦讓三君の三男にして、明治十年十一月二十一日を以つて生る。夙に開成中學校の前身たる共立學校を経て、明治三十四年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し翌年文官高等試験に應じて首尾よく登第し、直ちに職を官界に奉じて大藏省試補、煙草專賣局事務官同參事官、大藏省參事官、專賣局經理課長、同事務部長等を歴任し後ち官を辭して野に下り、實業界に入りて南滿洲鐵道株式會社理事に任じ、現に日本勸業銀行

理事として令名あり。

趣味廣く謠曲、園藝等は其の最なるものにして、就中謠曲の如きは已に素人の域を脱し、月の夕べ、雪のあした、折ふしに吟する君が艶曲は又一夕のあわれを催し、近隣に育つ虫けらも遂に其の音に同すること又珍らしからずといふ、以つて君の藝の程を窺ふに足るべし。

夫人とし子は靜岡縣の人堀江榮太郎君の長女にして女子學習院を卒業し、君との間に俊介君、敏介君、欣介君及び操子梅子、愛子等あり、現に東京府下西大久保町四一一番地に住し電話四谷一五五番なり。

菅原 英伍君

仙臺電氣工業株式會社取締役
衆議院議員

君は宮城縣の人菅原金兵衛君の二男にして、明治十九年六月を以つて生る。明治四十四年東京帝國大學法科大學を卒業するや、直ちに實業界に入りて現に仙臺

電氣工業、齊川電氣、仙賀北電氣、廣瀬電力各株式會社の重役にして且つ辯護士を開業し仙臺地方法曹界に令名あり。

曩に宮城縣民多數の推すところとなり馬を陣頭に進めて奮闘の結果、遂に當選の榮譽を擔ひ衆議院議員に擧げられ今や中央政界に重きをなす。

夫人すみ子は宮城縣の人岩井久兵衛君の令妹にして君との間に英一郎君、護君及び光子、和子等あり、仙臺市東三番町一二五番地に現住す。

鈴木 一郎君

秋田鐵道株式會社取締役
荒川礦山長

君は埼玉縣の人鈴木謙十郎君の長男にして、明治十五年四月を以つて生る。明治四十二年東京帝國大學工科大学探礦冶金科を卒業するや直ちに三菱礦業株式會社に入り、奥山礦山長事務代理、槇峯礦山所長等を歴任し同社參事に進み、現に尾去澤礦山長兼荒川礦山長たる外秋田鐵

道會社取締役たり。

曩に社命を帯びて外國に航し、歐米各國の礦業界を視察見學して歸朝し、爾來同社の爲め貢獻すること甚大なりと云ふべし。

夫人甲子は東京府の人平野甚三郎君の二女にして君との間に和子、充子、穂子等あり、現に秋田縣鹿角郡尾去澤礦山社宅に住す。

杉浦 眞鐵君

日本中學校長

君は勳二等故杉浦重剛先生の長男たり嚴父重剛君は舊藩所藩士杉浦重文君の二男にして安政二年三月を以つて生る。夙に藩儒高橋作也師、黒田行元師に就き漢學及び蘭學を修め、後ち京都の儒者巖垣月洲師の門に入り經史を學び、明治三年貢進生に擧げられ、大學南校に入り同九年六月文部省の命に依り化學研究の爲め英國に留學し、同十三年五月歸朝するや東京帝國大學理學部博物館取締、文部省

準奏任御用掛となり博物館並に植物園を管理す。

然して明治十五年東京大學豫備門長、東京帝國大學寄宿舎取締となり同二十一年七月文部省參事官兼學務局次長等に任ぜられ、明治二十三年滋賀縣より推されて最初の衆議院議員に選ばれ、同三十六年六月高等教育會議員仰せ付けられ且つ又私立東京英語學校は實に君の經營せし所にして其の後身は即ち現在の日本中學校にして君は同校々長として永く育英の道に當れり、夙に西洋倫理想を注入して文化の普及を提唱すると共に國家主義を唱道して西洋模倣主義を排し、東洋學藝雜誌、日本人及び日本新聞を發刊して其の貢獻する所蓋し甚大なりき。

君又稱好塾を設けて學生を監督し、同人社を再興し東亞同文書院長、國學院學監として本邦教育界に貢獻すること尠ならず、大正三年五月特に東京御學問所御用掛仰せ付けられ、大正十三年二月不幸病を得て他界す、時に危篤の報天聽に

達するや特に勳二等に陞叙せらる。

實にや「梅檀は二葉より香ばし」我が偉人杉浦重剛先生の嗣子眞鐵君は明治十九年七月を以つて生る。夙に學識衆に秀で、大正二年東京帝國大學林學科を優秀の成績を以つて卒業し、後ち東京市役所水源地林事務所に入り、次いで福島縣技手、東京大林區署技師等を歴任せしも、嚴父病歿に際し其の意思を繼承して新興日本の教育界に盡瘁するに至り、現に日本中學校長として令名あり。

杉村 虎四郎君

横濱杉村商店代表社員

君は東京府の人杉村甚兵衛君の四男にして、明治二十三年三月を以つて生る。夙に普通教育を卒ふるや直ちに東京商科大學の前身たる東京高等商業學校に學び、大正三年同校を卒業して實業界に投じ、

現に合名会社横濱杉村商店代表社員たる外株式會社杉村商店監査役たり。

夫人隣子は東京府の人八十島誠之君の令姉にして君との間に壯一郎君及び祐子直子、素子等あり、現に東京市麴町區三番町七十一番地に住し電話九段四二五六番たり。

鈴木摠兵衛君

正六位勳三等 實業家

貴族院議員

君は愛知縣の人日比野茂兵衛君の長男にして、安政三年二月を以つて生れ後ち先代才造君の養嗣子となる。

當家は代々材木商を營み「材總」と稱して斯界に名高く、且つ同縣下財界に重きをなし、現に日本貯蓄銀行頭取たる外愛知時計電機、名古屋倉庫、尾陽土地經營各株式會社社長にして且つ福壽生命保險、福壽火災保險、京都瓦斯株式會社監査役として知らる。

尙ほ愛知縣多額納稅者にして直稅九千

六百八十余圓を納め、曩に多額議員に當選し且つ名古屋商業會議所特別議員たり

曾つて米國聖露易萬國博覽會評議員、東洋拓殖株式會社創立委員、名古屋商業會議所會頭等に擧げられ、實業精勵の旨を以つて綠綬褒章を授けられ、又衆議院議員たること五回、日獨事件の功に依り勳三等に叙し特旨を以つて正六位を賜ふ。

夫人のぶ子は愛知縣の人青木新四郎君の令姉にして君との間に一女ありてれい子と稱す、現に名古屋市中町大池に住し電話東三五〇番なり。

鈴木島吉君

朝鮮銀行總裁

勳六等鈴木島吉君は静岡縣の人鈴木瀧藏君の長男にして、慶應二年六月二十五日

を以つて生る。明治二十二年慶應義塾を卒業するや横濱正金銀行に入社し、同二十八年紐育支店副支配人となり義和團事件の際には轉じて天津支店支配人に推され、後ち上海支店支配人、神戸支店支

配人等を経て副頭取に就任し、尙ほ國際信託株式會社取締役會長たりしことあり曩に日露事件の功に依り勳六等に叙せられ瑞寶章を賜ふ。

大正十四年七月朝鮮銀行總裁を仰せ付けられ現に其の任にあり、圍碁、テニスゴルフ、謠曲、玉突等趣味多様なりといふ。

夫人菊枝子は和歌山縣士族林玄泉君の三女にして其の間に長女千代子、二女し女子等あり、東京市麻布區本村町一一八番地に現住し電話高輪五四九四番なり。

鈴木鶴治君

長野商業株式會社社長

六十三銀行取締役

君は長野縣の人中村宗作君の令兄にして、明治十二年七月を以つて生れ後ち先代勝之助君の養嗣子となる。夙に長野財界に投じ現に長野商業株式會社社長たる外六十三銀行、大倉製糸工場、信濃電氣各株式會社の重役として聲名あり。

尙ほ長野縣多額納稅者として知られ、現に直稅壹千百余圓を納むといふ。

夫人しげ子は長野縣の人神林小一郎君の三女にして其の間に子なきを惜むべし現に長野市間御所六番地に住す。

諏訪忠元君

子爵 從三位

芝東照宮社司

當家は源經基の五男村岡下野守滿快の後裔なり、世々信濃に住し先代忠誠君に至り子爵を授けらる。

君は其の後を享く、君實は伯爵溝口直亮君、子爵五條盛輝君等の叔父君にして且つ子爵増山正興君の養叔父君に當り、明治三年七月を以つて生れ先代忠誠君の養嗣子となり、明治三十一年家督を相續して襲爵仰せ付けらる。

明治二十六年東京帝國大學國文科を優秀の成績を以つて卒業し現に芝東照宮社司として知らる。

夫人はる子は養父忠誠君の三女たり、

現に東京府豊多摩郡中野町桐ヶ谷一〇四五番地に住し電話四谷七九二番たり。

杉山四五郎君

從四位勳二等

京都府知事

學窓を出づるや直ちに官界に投じ、多年各樞機に參畫して隨所に其の才腕を振ひ、稀代の能吏として稱揚されし、杉山四五郎君は新潟縣の人小川京太君の五男にして、明治三年一月を以つて生れ同二十七年杉山家の養嗣子となる。

當家は代々松本藩士にして先代叙君は維新後官界に入り、丸龜稅務監督局長に昇進して令名あり、君は第一高等學校を経て明治二十七年東京帝國大學法科大學政治科を優秀の成績を以つて卒業し、同三十三年歐米に遊學し歸朝するや、山梨神奈川各縣參事官、秋田縣書記官、内務省參事官、同書記官、高知縣知事、内務省衛生局長等を歴任す。

其の後野に下り大正四年神奈川縣より

推されて衆議院議員に當選し、中央政界に令名を謳はれ大正六年再び官途に就き衛生局長に任じ、後ち關東廳事務總長を経て同十年宮崎縣知事に任ぜられ牧民官として同縣の爲め貢獻すること二年有半再び野に下り悠々たりしも、昭和二年四月田中政友會内閣成立するや、推されて京都府知事に任じ以つて現在に及ぶ。

夫人若代子は養父叙君の二女にして内助の聞え高し、東京市本郷區切通坂町一七番地に住宅を有し電話小石川三〇七〇番なり。

杉田駿君

杉田商事株式會社社長

君は千葉縣の人杉田勇三君の甥君にして、明治十三年十月を以つて生る。夙に實業界に身を投じ現に杉田商事株式會社社長たる外東京製作所、東京保溫材各株式會社の重役として知らる。

夫人を多惠子と稱し君との間に秀雄君耕三君、弘君及び惠子等あり、東京市麴

町區飯田町五ノ三五番地に現住す。

佐村に住す。

鈴木 威君

内閣貯金銀行事務取締役
共同保全株式會社事務取締役

君は福島縣士族鈴木久孝君の長男にして、明治十三年四月を以つて生る。現に前記の要職にあり。

夫人ます子は東京府士族玉置源太郎君の三女たり、現に東京市本郷區森川町一番地に住し電話小石川一八四一番たり。

鈴木忠右衛門君

滋賀縣多額納稅者

君は滋賀縣の人鈴木忠司君の長男にして、明治十年十二月を以つて生れ前名忠兵衛を改稱す、縣下多額納稅者の一人として直税二萬九百二十余圓を納むるを以つて知らる。

夫人ふみ子は滋賀縣の人高井作右衛門君の令妹にして君との間に勤君、省三君、春男君等あり、現に滋賀縣蒲生郡北比部

鈴木庄治郎君

正五位勳五等

北海道帝國大學教授

君は宮城縣の人阿部庄作君の長男にして、明治八年十一月を以つて生れ後ち鈴木家に入りて養嗣子となる。明治三十四年東京高等師範學校を卒業するや、更に京都帝國大學に學び明治四十年同學理工科大學純正數學科を卒業す。

然して身を教育界に投じ、長野師範學校教授兼訓導、東北帝國大學農科大學豫科教授等を歴任し、大正七年北海道帝國大學豫科教授に任じ以つて現在に及ぶ。夫人なよ子は鈴木與兵衛君の長女にして君との間に一郎君、克二君、憲三君、道雄君及び節子、俊子、しづ江子等あり現に北海道札幌市北一條東七ノ十二番地に住す。

鈴木恒三郎君

原町紡績株式會社社長
古河鑛業株式會社取締役

君は豊前舊中津藩士鈴木閑雲君の三男にして、明治六年一月二十七日を以つて生る。夙に笈を負ふて上京し、慶應義塾に學び同二十九年同學を卒業するや、直ちに古河鑛業株式會社に入り銳意同社の發展に盡瘁し足尾鑛毒豫防法、家政會計整理等に力め、明治三十六年虎之助君に從ひ北米に航し、ハーバート大學に學び尙ほ鑛山及び各種事業を實地に視察して得る所尠少ならざりき。

明治三十九年歸朝し専心足尾銅山の經營に當り、恪勤すること二ケ年、後ち本社商務課長に轉じ、更に參事の要職に昇り、社の内外に重きをなし、同四十五年社命を帯びて歐米を視察し、歸朝後は古河合名會社理事、大源鑛業株式會社監查役たりしが現時は前記會社の重役として令名あり。

夫人齊子は東京府の人淺田甚右衛門君

の令姉たり、現に東京府豊多摩郡中野町ケ谷一―二三番地に住し、電話四谷九七〇番なり。

杉本鶴五郎君

杉本合名會社社長

東京府多額納稅者

當家は先々代龜五郎君より其の家名を擧ぐ、君は其の昔越中の農家より出でて大江戸に來り實業界に投じ、龜屋と稱して舶來小間物商を營み、而して先代鶴五郎君同じく父の遺業を繼ぎて恪勤精勵、以つて業務の發展に努めたり。

斯くて業務の大擴張を企圖して店舗を銀座街頭に移轉し、更に和洋酒食料品商を經營せしかば愈々益々發展に發展を加へ業勢頓に擧り、遂に銀座界限屈指の和洋食料品商として數へらるゝに至れり。

然して當代鶴五郎君は千葉縣の人酒巻長藏君の三男にして明治三年十二月を以つて生る。幼時より當店に手代奉公をなし同店の爲め貢獻せしかば、遂に認め

られて養子となり前名新藏を改稱せるものなり。

曩に歐米各國の經濟狀況を視察して歸朝し業務の大改革を斷行し、近時は又青森縣下に殖産事業を興して終始事業の改善發達、我が國産業の發展に盡瘁すること甚大、尙ほ東京府多額納稅者にして直税五千四十余圓を納む。

夫人のぶ子は養父鶴五郎君の二女にして君との間に龜造君、鶴次郎君等あり、現に東京市京橋區竹川町に住し電話銀座七七二番たり。

鈴木達治君

横濱高等工業學校長

從四位勳三等理學士鈴木達治君は愛媛縣の人鈴木禮作君の長男にして、明治四年九月十一日を以つて生る。

明治三十三年東京帝國大學理科大學化學科を卒業し、同四十一年化學工業研究の爲め獨英米の各國に留學し、歸朝後第二高等學校教授兼仙臺醫學專門學校教授

廣島高等師範學校教授、東京高等工業學校教授等を歴任し、現に横濱高等工業學校長として知らる。

趣味として園藝、撞球等あり頗る堪能なりといふ、神奈川縣横濱市根岸町二一五七番地に現住し電話二一五〇番なり。

鈴木長三郎君

實産家

君は宮城縣の人鈴木門三郎君の長男にして、明治二十一年十一月を以つて生る當家は當地方に於ける實産家として先代より羽振を利かし、而して君は其の潤澤なる家庭にありて生を生活し、御蔭を以つて今や當地方に金力的勢力を有して知らる。

夫人操子は宮城縣士族佐々木徳之助君の令孫にして君との間に守君、孝君及び千代子、恭子等あり、現に宮城縣宮城郡高砂村に住す。

末廣恭二君

工學博士 從四位勳四等
東京帝國大學教授

君は愛媛縣の人末廣重恭君の二男にして、明治十年十月を以つて生る。明治三十三年東京帝國大學工科大学造船學科を卒業するや、直ちに長崎三菱造船所に入り、明治三十五年東京帝國大學助教に任ぜらる。

然して明治四十二年應用力學研究の爲め英獨二ヶ國に留學を命ぜられ、同時に工學博士の學位を授與せらる。而して歸朝後も引き続き帝國大學に教鞭を執り同學教授に擧げられ、又大正十二年には工學研究上の功績顯著なるに對し帝國學士院賞を授與せらる。

夫人みつ子は静岡縣の人桑原爲十郎君の二女にして君との間に恭雄君及び静子さが子等あり、現に東京市本郷區駒込上富士前町二十八番地に住し電話小石川二〇九番たり。

鈴木岩藏君

大陽曹達株式會社社長
帝國人造絹糸會社社長

阪神實業界の重鎮鈴木岩藏君は兵庫縣の人鈴木よね子の三男にして、明治十七年二月を以つて生る。夙に實業界に志し奮闘大いに努め、現に大陽曹達、帝國人造絹糸各株式會社社長たる外日本金屬、鈴木商店各株式會社の重役に於て且つ鈴木合名會社理事たり。

夫人慰子は高知縣士族土居通豫君の八女にして君との間に治雄君及び英子、兼子等あり、現に其の住宅を神戸市東須磨大手町に有す。

鈴木茂雄君

大阪電氣分銅株式會社社長
大阪商會會所議員

君は岐阜縣の人鈴木源十郎君の二男にして、慶應元年二月を以つて生る。夙に郷校を卒業するや、東上し研鑽能く勉め螢雪の功空しからず、明治二十年

早稻田大學商科を卒業し直ちに關西實業界に投じ、現に大阪電氣分銅株式會社取締役社長たる外塚口土地、尼崎伸銅各株式會社の重役として知らる。

尙ほ大阪商業會議所議員にして、大正四年以來同議員として活躍し、以つて今日に至る。

夫人きん子は岐阜縣の人岩塚鴻之輔君の長女にして君との間に五男四女ありて誠君、進君、弘君、道雄君、昌雄君及び絢子、美子、貞子、桂子等あり、現に大阪府住吉町天王寺明治通西丸釜一六一九番地に住し電話南六五五〇番たり。

栖原豐太郎君

工學博士 從五位
東京帝國大學教授

君は和歌山縣の人栖原洋三君の長男にして、明治十年九月を以つて生る。明治四十三年東京帝國大學工科大学機械科を卒業するや更に大学院に學び、後ち東京帝國大學工科大学助教に任じ現に同學

教授たり。

曩に大正七年航空學研究の爲め歐米各國に出張を命ぜられ、同八年工學博士の學位を授けらる、而して大正十年には航空研究所々員に補せられ現在に及べり。

夫人愛子は東京府の人原恭造君の令妹にして東京府立第二高等女學校を卒業し君との間に一郎君、二郎君、壽郎君等あり、現に東京市本郷區曙町七番地に住し電話小石川五八〇三番たり。

杉野喜精君

山一合資會社社長
東京府多額納稅者

君は杉野喜永君の長男にして、明治三年九月を以つて弘前市に生る。夙に銀行事務講習所に學び、後ち實業界に投じ曩に株式會社名古屋銀行取締役兼支配人たりしが、現時は山一合資會社代表社員にして、東京株式取引所一般取引員として兜町界限に令名あり。

尙ほ東京府多額納稅者にして現に直接

國稅二萬三千九十余圓を納むといふ。

夫人をやま子と呼び成立高等女學校の卒業にして君との間に伊勢雄君、昌甫君及び綾子、須磨子、清子等あり、現に東京府荏原郡目黒三田十二番地に住し電話高輪七七五番たり。

鈴木喜左衛門君

道具銀行頭取
群馬縣多額納稅者

君は群馬縣利根郡の豪農鈴木喜左衛門君の長男にして、明治十五年三月を以つて生れ、後ち家督相續と共に前名源一郎を改めて襲名す。

夙に地方實業界に投じ現に道具銀行取締役たる外利根實業銀行取締役に於て且つ、群馬縣多額納稅者として直稅一千五百五十余圓を納め縣下有數の實業家たり夫人きん子は群馬縣の人關源藏君の令妹にして君との間に順一君、清君、重雄君、宇平君及び敬子等あり、現に群馬縣利根郡赤城根に住す。

鈴木寅彦君

日本曹達株式會社社長
東京瓦斯株式會社常務取締役
朝鮮鐵道株式會社常務取締役

君は早稻田大學邦語政治科及び日本大學を卒業するや直ちに實業界に投じ、着々として斯界に地歩を占め現に前記の諸職にある外泰平銀行、日清生命保險、日本電燈工業、東京乘合自動車、北海道瓦斯、上毛モスリン各株式會社の重役として我が財界に令名高し。

曩に郷里福島縣民多數の輿望を擔つて逐鹿場裡に奮戦し、遂に當選の榮譽を贏ち得て衆議院議員として中央政界に鳴らし、斯くて當選すること三回に及び、尙ほ現に鐵道協會理事たり。

現に東京市小石川區原町八十二番地に住し電話小石川五三三六番たり。

杉浦宗三郎君

工學博士 正四位勳三等

東京瓦斯株式會社常務取締役

君は東京府士族雨森宗益君の三男にして、明治三年十二月十三日を以つて生れ、後ち先代いね子の養嗣子となる。明治二十七年東京帝國大學工科大学土木科を卒業するや、直ちに實業界に投じ日本鐵道會社に入社せしが、同三十九年同社が國有に歸するに及び鐵道院技師に任ず。

然して爾來東京鐵道管理局營業課長兼運輸船舶課長、同研究所主任等を歴任し、後ち理事に進み工務局長となり大正八年技監に昇進し、同年工學博士の學位を授けられ、後ち辭して東京瓦斯株式會社に入社し、累進して同社常務取締役に就任し、現に其の要職にある傍ら東洋車輛、朝鮮鐵道、秋田鐵道各株式會社監査役にして且つ帝國鐵道協會理事、瓦斯協會副會長たり。

夫人とし子は東京府の人首藤諒君の長女にして御茶の水高等女學校を卒業し君

鈴木重兵衛君

宮城貯蓄銀行常務取締役

君は宮城縣の人鈴木重兵衛君の長男にして、明治八年九月を以つて生る。夙に實業界に投じ、現に宮城貯蓄銀行常務取締役たる外五城銀行、大崎水電、名取川水力電氣、若生本店各株式會社の重役として地方財界に令名あり。

夫人まさは宮城縣の人宮本益輔君の長女にして、君との間に道三郎君、喜四郎君、正亮君及びかねよ子、とき子等あり、現に宮城縣仙臺市荒町一〇八番地に住す。

杉田善右衛門君

實産家

大阪府多額納稅者

君は大阪府の人杉田善右衛門君の長男にして、明治二年十二月を以つて生れ前名勘三郎を改稱す。

當家は先代よりの資産家として界限に相當に名を知られ、且つ大阪府多額納稅

との間に卯吉君、巳之吉君、正三君及びその子、春子、てる子、うた子等あり、現に東京府豊多摩郡西大久保四四九番地に住し電話四谷一三一〇番たり。

鈴木俊一郎君

白石製紙株式會社常務取締役

白石銀行取締役

君は宮城縣の人鈴木清之輔君の長男にして、明治二十二年十一月を以つて生る。夙に京都帝國大學法科を卒業するや、直ちに文官高等試験に合格して其俊才を謳はれたり。

然して直ちに實業界に投じ現に白石製紙株式會社常務取締役たる外白石銀行、白山火山灰、齋川電氣、仙南電氣工業各株式會社の重役として知らる。

夫人ムメ子は福島縣の人矢吹友右衛門君の長女にして、君との間に一男ありて基弘君と呼ぶ宮城縣刈田郡白石に現住す

者として現時直接國稅五千四百五十余圓を納め關西財界に知らる。

夫人との間に六男一女ありて勘市郎君善治君、善夫君、善孝君、善史君及び喜美江と呼ぶ、大阪府東成郡蒲生に住す。

杉田安靜君

東京市四谷區長

君は千葉縣士族杉田定次郎君の長男にして、明治十二年四月一日を以つて千葉縣市原郡鶴舞町に生る。夙に郷校を卒業するや笈を負ふて上京し、前衆議院議員小倉貞助氏及び故角田新平氏の知遇を得て明治義會中學校を卒業す。

然して、後ち更に苦學力行にて日本大學法科に學び、同科を卒業するや、直ちに東京市役所に職を奉じ、爾來、同臨時市區改正局經理課員、同下水施設調査委員會書記、臨時市區改正局工務課員、同市區計畫調査會書記、兼臨時調査課員等を歴勤す。

斯くて、大正八年東京市主事に任じ、

庶務課員、用地課員、社會局公營課員、

給水事務統合委員、電氣局臨時建設部庶務課員、同庶務課長心得、同道路局管理課長等を経て、大正十年六月電氣局臨時建設部庶務課長に任じ、遂に大正十四年八月拔擢せられて東京市赤坂區長に擧げられ、同十五年十二月四谷區長に轉じ以つて現在に及ぶ。

夫人こう子は静岡縣士族植松氏の四女にして君との間に西春君、鬼陽君、博司君、守君、俊平君及び正子等あり、現に東京市牛込區市ヶ谷富久町六十番地に住す。

鈴木楨之助君

實業家

君は愛知縣の人鈴木友吉君の令弟にして、明治六年二月十八日を以つて生れ、後ち先代庄藏君の養嗣子となる。

夙に地方實業界に投じて君の敏腕を自由に振ひ、米穀肥料商として斯界に重きをなし令名あり。夫人いく子は愛知縣の

人養父庄藏君の長女にして、君との間に庄治君、仁藏君及び初子等あり、現に名古屋市西區船入町三番地に住し電話本局一三三三番たり。

鈴木孝之助君

醫學博士 正四位勳二等

退役海軍々醫中將

君は三河國舊田原藩士鈴木方舊君の三男にして、安政元年七月を以つて生る。夙に醫學を修め海軍々醫に任じ、明治三十三年海軍々醫監に陞進す。

其の間横須賀、吳、佐世保、旅順各鎮守府醫務部長等を歴任し、同三十九年豫備役仰せ付けらる。明治三十五年醫學博士の學位を受け、又日露の役に從軍して勳功あり勳二等に叙せられ、現時は醫を業とし別に相州七里ヶ濱に鈴木療養所を設立經營し専ら呼吸器病の診療に従ふ、書畫骨董、園藝の趣味あり。

夫人しん子は東京府の人野口直三郎君の養女にして其の間に五女ありて方子、

信子、愛子、徳子、敏子等あり、現に東京市麻布區飯倉片町五番地に住し電話青山六一一番たり。

末松 佐吉君

土木建築請負業
京都府多額納税者

君は京都府の人末松佐七君の長男にして、明治十七年十月十七日を以つて生る。夙に京都土木建築界に活躍して名聲を博し、現に斯界に重きをなす外京都府多額納税者として直税二千二百二十余圓を納むるを以つて知らる。

夫人たみ子は京都府の人桂文之助君の長女にして君との間に佐一郎君、一馬君、勇君及びあや子等あり、現に京都市下京區壬生柳宮に住す。

菅原 通敬君

從四位勳一等 錦鶏間祇候
貴族院議員

當家は奥州菅原の本流にして四百年以

來の古き家柄として栗原郡姫松村に住し地方治民の職を踏襲し以つて先代通實君に至る。通實君は藩政に功あり後ち久しく官途にありしが現時は野にありて鶴を追ひ風月を友となす。

君は即ち通實君の長男にして明治二年

一月を以つて生る。明治二十八年東京帝國大學法科大學を卒業するや、直ちに官界に投じ、大藏省に出仕せしが後ち沖繩縣收税長、司税官、稅務監督官、函館稅務監督局長、函館稅關長、丸龜、神戸各稅務監督局長、神戸稅務監督局長、大藏省參事官兼書記官、同主稅局長、醸造試驗所長、大藏次官等を歴任し大正五年貴族院議員に勅選せられ又錦鶏間祇候たり。夫人懿子は宮城縣の人熱海孫十郎君の長女にして君との間に通公君、通伯君、通候君及び熱子、花子、通子等あり、現に京都市小石川區駕籠町四九番地に住し電話小石川七六九番たり。

菅野 一 郎君

七十七銀行支配人
青葉農林株式會社社長

君は宮城縣士族谷口敬高君の二男にして、明治四年十二月を以つて生れ、後ち先代正子の養嗣子となる。

夙に地方財界に身を投じて活躍を試みしかば君の敏腕は着々として事業の上に現はれ、名聲頓に擧り現に青葉農林株式會社々長たる外七十七銀行支配人にして且つ東北物産株式會社監査役として當地財界に重きをなす。

夫人をぬい子と稱し君との間に肇君、關君、博君等あり、現に仙臺市空堀町十一番地に住し電話二二二番たり。

杉 榮三郎君

從四位勳三等
圖書頭兼諸陵頭

君は岡山縣の人杉良太郎君の二男にして、明治六年一月を以つて生る。明治三十三年東京帝國大學法科大學政治科を卒

業す。

斯くて職を官途に奉じ、爾來、會計検査院検査官、宮内書記官兼宮内省參事官、帝室林野管理局主事等を歴任し現に宮内省圖書頭兼諸陵頭として知らる。

夫人ミツ子は嘉納久三郎君の長女にして、君との間に滿佐子、支都子、洋子等あり、現に京都市小石川區駕籠町一三三番地に住し電話小石川一五八二番たり。

末 廣 要君

富士製鋼株式會社取締役
淺野小倉製鋼所取締役

君は山口縣士族末廣基平君の四男にして、明治七年十一月を以つて生る。夙に製鋼業に志し、永く八幡製鐵所にありて斯業の實際に精通し、現に富士製鋼、淺野小倉製鋼所、大島製鋼所各株式會社の重役にして且つ淺野造船所相談役たり。

夫人ツネ子は山口縣士族神代嘉一君の令妹にして君との間に一女ありて花子と稱す、現に小倉市紺屋町二四番地に住

し電話九六一番たり。

須賀喜三郎君

從四位勳三等 判事
廣島控訴院長

君は群馬縣の人須賀喜太郎君の長男にして、明治七年三月を以つて生る。明治三十二年東京帝國大學法科大學を卒業す。斯くて職を官途に奉じ、爾來、東京區裁判所判事、同地方裁判所判事、同部長、東京控訴院判事、同部長等を歴補し以つて現在に及ぶ、大正九年歐米各國に出張せしことあり。

夫人イネ子は群馬縣の人堀越頼三郎君の令妹にして、君との間に太郎君、幹夫君、敏夫君及び光代子、八千代子、睦代子、君代子等あり、現に同官舎内に住す

菅野 尙一君

從三位勳一等功三級
陸軍大將 軍事參議院參議官

君は山口縣士族菅野尙喬君の長男にし

て、明治四年三月を以つて生る。明治二十五年陸軍歩兵少尉に任官し大正十四年陸軍大將に陞進す。

其の間參謀本部員、白國英國各駐在大使館附武官、教育總監部參謀、陸軍省副官兼軍務局課長、歩兵課長、教育總監部附、清國駐在守備隊司令部參謀、大本營陸軍幕僚參謀、歩兵第十四聯隊補充大隊長、歩兵第二十九旅團長、陸軍省軍務局長兼軍事參議院幹事、第二十師團長、臺灣軍司令官等を歴補し以つて現在に及ぶ。曩に日露の役には第三軍參謀として出征し、滿洲の野に轉戦して偉功を立て功三級金鷄勳章を賜はる。

夫人をハル子と稱し君との間に七男あり、現に東京府豊多摩郡高井戸松庵九二番地に住す。

菅野 傳右衛門君

高岡銀行頭取
高岡商業銀行頭取

君は富山縣の人先代傳右衛門君の長男

にして、明治十三年十二月を以つて生る
夙に東京商業學校を卒業するや、直ちに
地方財界に走つて活躍大いに努め、漸次
斯界に名聲を博せり。

現に前記の外富山合同貯蓄銀行頭取に
して且つ高岡電燈、高岡打綿、温泉電氣
軌道、越中倉庫、北陸信託、北陸送電、
高岡新報、中越運輸各株式會社の重役と
して知らる。

尙ほ富山縣多額納稅者にして、且つ高
岡商業會議所議員たり、夫人をひさ子と
稱し、君との間に章一君及び富美子あり
現に高岡木舟に住す。

菅 禮之助君

大日本人造肥料會社取締役
古河鑛業株式會社取締役

君は秋田縣の人菅禮治君の長男にして
明治十六年十一月を以つて生る。明治三
十八年東京商科大学の前身たる東京高等
商業學校を卒業するや、直ちに實業界に
投ず。

然して古河合名會社に入りて同社大阪
支店次長、同支店長、門司支店長、本社
販賣部長等を歴任し現に同社取締役たる
外大日本人造肥料、日本電線、大阪電氣
分銅各株式會社の重役として知らる。

夫人さき子は秋田縣の人長瀬直倫君の
長女にして君との間に禮太郎、達吉君、
元彦君等あり、現に東京市芝區白金今里
町一〇一番地に住し電話高輪一八〇七番
たり。

菅 原 義 雄 君

仙臺電氣工業株式會社取締役
仙北電氣株式會社取締役

君は宮城縣の人菅原民之輔君の長男に
して、明治二十一年五月を以つて生る。
夙に地方財界にありて吳服商及び味噌釀
造業を營み、現に傍ら前記の外宮城送電
興業株式會社取締役にして且つ眞坂町郵
便局長たり。

夫人をひさし子と稱し、其の間に五男
一女あり、宮城縣栗原郡一迫に現住す。

末松 借一 郎 君

正四位勳三等
廣島縣知事

君は福岡縣の人末松玄洞君の三男にし
て、明治八年六月十八日を以つて生る。
明治三十五年の東京帝國大學法科大学出
身にして、已に在學中文官高等試験に登
第し、而して卒業するや直ちに職を官途
に奉ず。

爾來、内務屬、静岡、山梨各縣事務官
内務書記官、法制局參事官兼行政裁判所
評定官、德島縣知事、臺灣總督府民政部
財務局長、滋賀、茨城各縣知事等を歴任
し、昭和二年四月廣島縣知事に轉じ以つ
て現在に及ぶ。

曩に明治四十年清國政府の招聘に依り
同國自治制度の顧問として奉天に駐在す
ること二ヶ年大いに盡瘁することありき
夫人を満壽意子と稱す、現に同縣知事
官舎に住す。

鈴木 儀 助 君

實業家

君は宮城縣の人石垣喜右衛門君の令弟
にして、明治七年十一月を以つて生れ、
後ち先代儀助君の養嗣子となり前名嘉三
郎を改めて襲名す。

夙に地方實業界に投じて君の優れたる
商才を自由に發揮し、現に當地米穀肥料
商界に令名あり。

夫人さしよ子は宮城縣の人伊藤貞三郎
君の令妹にして、君との間に太一君、次
郎君、宗典君、孝治君、汎君及びくら子
うめ子、しゆう子等あり、宮城縣亶理郡
亶理町に現住す。

鈴木 孝 雄 君

正四位勳二等功三級
陸軍中將 陸軍技術本部長

君は千葉縣士族鈴木貫太郎君の令弟に
して、明治二年十月を以つて生る。明治
二十五年陸軍歩兵少尉に任官し爾來、累
進して大正十年陸軍中將に陞進す。

其の間野戰砲兵射擊學校教官、砲工學
校教官、野戰砲兵第十聯隊大隊長、野戰
砲兵監部々員、近衛野戰砲兵聯隊附、野
戰砲兵第十八聯隊附、同第二十一聯隊長
陸軍省軍務局砲兵課長、野砲兵第一野戰
重砲兵第一各旅團長、陸軍士官學校長、
砲兵監、第十四師團長等を歴任し現に前
記の外軍事參議院參議官たり。

夫人もと子は子爵立見豊丸君の令妹に
して君との間に武君、英君及びはるえ子
千鶴子、夏子、八重子等あり、現に東京
府豊多摩郡淀橋柏木四一二番地に住し電
話四谷三五七八番たり。

鈴木 奎 三 郎 君

鹿沼貯蓄銀行取締役
下野運輸株式會社取締役

君は栃木縣の人鈴木吾左衛門君の末子
にして、慶應三年十二月十五日を以つて
生る。當家の祖先は當村草創七農の一人
として知られ、代々名主役を勤めし家柄
なり。

君は夙に實業界に投じて現に鹿沼貯蓄銀
行、下野運輸、下野信託各株式會社の重
役にして、且つ菊澤村長たり。

夫人シウ子は栃木縣の人齋藤儀平君の
二女にして君との間に秀一君、俊三君及
びチヨ子、英子等あり、現に栃木縣上都
賀郡菊澤に住す。

鈴木 信 太 郎 君

正五位勳四等
山梨縣知事

君は山形縣士族鈴木幸松君の長男にし
て、明治十七年十一月を以つて生れ、後
ち先代伊和田君の養嗣子となる。明治四
十二年東京帝國大學法科大学英法科を卒
業するや直ちに文官高等試験に登第す。

斯くて職を官界に奉じ、爾來、石川縣
警部、愛媛縣警視、岩手縣事務官、同參
事官、同視學官、神奈川縣理事官、鳥根
縣警察部長、内務書記官兼内務省參事官
地方局府縣課長、奈良縣知事等を歴任し
昭和二年四月山梨縣知事に任せられ以つ

て現在に及ぶ。

夫人春子は鹿兒島縣士族政友本黨總裁床次竹二郎君の長女たり、現に同縣知事官舎に住す。

鈴木善助君

資産家

君は東京府の人大西伊三郎君の二男にして、明治十三年四月を以つて生れ、先代善助君の養嗣子となる。

當家は祖先傳來の資産家たり、夫人をあい子と稱し君との間に榮治郎君、正基君及びてる子、美代子、静枝子、晴子、登志子等あり、現に東京市芝區新門前町一番地に住し電話高輪二五五番たり。

杉敏介君

正四位勳三等

第一高等學校長

君は山口縣士族杉肇君の長男にして、明治五年五月二十六日を以つて生る。明治二十九年東京帝國大學文科大學國文科

を卒業す。

然して、明治三十二年九月第一高等學校教授に任ぜられ國文學講座を擔當し、累進して現に同校々長兼教授として知らる。

夫人ヨシヲ子は滋賀縣士族相宗賢次郎君の長女にして君との間に幹丸君、憲次君等あり、神奈川縣高座郡藤澤町鶴沼二三七〇番地に住し電話藤澤七四番たり。

杉溪言長君

男爵 正三位勳三等

當家は内大臣藤原鎌足の曾孫左大臣魚名の後裔にして、山科家の庶流たり。君は正五位伯爵山科家言君の叔父君にして慶應元年五月を以つて生る。

明治二年三月堂上格を賜ひて杉溪と稱し一家を創立し、同八年三月特旨を以つて華族に列し男爵を授けらる。曩に春日神社神職、京都宮殿勤番殿堂、貴族院議員たりしことあり。

夫人茂子は東京府の人小田切重路君の

養女たり、現に東京市麻布區新龍土町十番地に住し電話青山五九七〇番たり。

杉浦音次郎君

白石銀行取締役支那人

君は宮城縣士族杉浦義禮君の二男にして、明治元年十月を以つて生る。夙に地方金融界に投じ、現に株式會社白石銀行取締役支配人として當地財界に名あり。

夫人さだ子は埼玉縣士族恩田爲寛君の二女にして君との間に博君、智郎君、信吾君、誠君及びあや子等あり、現に宮城縣刈田郡白石に住す。

洲崎隆一君

津市立病院産科婦人科部長

君は富山縣の人洲崎永之助君の長男にして、明治二十年十一月を以つて生る。大正五年京都帝國大學醫學科大學を卒業す。現に津市立病院産科婦人科部長たり、夫人を綾子と稱し君との間に一男二女あり、現に三重縣津市に住す。

鈴木永吉君

富士身延鐵道株式會社常任監査役

東京割引銀行取締役

君は山梨縣の人石原半左衛門君の三男にして、明治十一年十一月二十日を以つて生れ、明治四十二年先代きよ子の養嗣子となる。

夙に東京商業學校を卒業するや直ちに實業界に投じ、而して明治三十二年東京割引銀行に入り、大正六年同行取締役に擧げられ現に其の傍ら富士身延鐵道、日本煉炭、東洋製鐵各株式會社の重役として知らる。

夫人きよ子は山梨縣の人鈴木傳左衛門君の長女にして、君との間に英雄君、保治君及び澄子、友子等あり、現に東京市西谷區仲町三ノ一九番地に住し電話四谷三四六八番たり。

隅田伊賀彦君

大郡土木建築株式會社監査役

君は高知縣士族川崎專助君の二男にし

て、慶應二年九月を以つて生れ後ち先代團丞君の養嗣子となる。

夙に九州財界に投じて活躍大いに努め現に大郡土木建築株式會社監査役たり。夫人登久子は高知縣の人岡野正雄君の令妹にして、君との間に湖磨君、住夫君及び美彌子、和歌子、福子、豐子、千代子、光榮子等あり、現に小倉市京町三四一番地に住す。

菅谷駒之助君

株式會社博信商會監査役

君は茨城縣の出身にして、文久元年十月二十日を以つて生る。夙に實業界に投じて活躍大いに努め、我が通運界に覇を唱ふ内國通運株式會社に格勤すること久しく、累進し同社神田支店長、本社參事等を初め各種の要職を歴任せり。

現に株式會社博信商會監査役たり、東京市淺草區猿若町三ノ三番地に現住す。

杉本九八郎君

吾妻川水力電氣株式會社取締役

君は高松市の出身にして、明治九年十月三日を以つて生る。夙に高岡育英學舎に學び業成るや直ちに當地財界に活躍せしも、後ち川北徳三郎商店に入りて格勤すること七ヶ年、更に鈴木常助商店に轉じて忠勤すること十有三年、其の發展に貢献すること甚大なりき。

然して後ち入丸商會に移り推されて同常務取締役に就任し、現時は吾妻川水力電氣株式會社取締役たり。

夫人をせん子と稱し君との間に一男ありて七生君と稱す、現に東京市赤坂區青山高樹町十二番地に住し電話青山一二六五番たり。

鈴木貫太郎君

正三位勳一等功三級 海軍々令部長
海軍大將

君は千葉縣士族鈴木由哲君の長男にして、慶應三年十二月廿四日を以つて生る。明治廿一年海軍兵學校を卒業し同廿二年海軍少尉に任じ、爾來、累進して海軍大將に陞進す。

其の間海軍大學校教官、海軍教育本部長、獨國駐在員、春日艦副長、第二艦隊驅逐隊司令、明石、宗谷、敷島、筑波各艦長、海軍水雷學校長等を歴補し、大正二年五月舞鶴水雷戰隊司令官に同年八月第二艦隊司令官に、次いで同年十二月海軍省人事局長に補せらる。

斯くて大正三年以來海軍將官會議議員臨時海軍建築部長及軍務局長、海軍次官練習艦隊司令官、海軍兵學校長、第二艦隊第三艦隊吳鎮守府各司令官、第一艦隊兼聯合艦隊司令官等を歴補す。

然して大正十三年軍事參議官に親補せられ同十四年四月山下大將の後を襲うて

海軍々令部長兼海軍將官會議々員に親任せらる。

夫人タカ子は大學教授足立仁君の令姉にして、東京府立女子師範學校を卒業し君との間に二男一女あり、現に東京府北豐島郡巢鴨町宮下一五七六番地に住し電話小石川一〇〇番たり。

首藤正壽君

株式會社臺灣銀行理事

君は大分縣士族首藤生男君の五男にして、明治十二年十二月卅日を以つて生る。明治卅六年東京高等商業學校を卒業するや直ちに横濱正金銀行に入り、同行孟買副支配人、倫敦支店員、上海支店長、大阪支店副支配人、本社副總支配人等を歴任し、後同行を辭して大正十二年十一月臺灣銀行に入りて同行理事に擧げられ以つて現在に及ぶ。

夫人トク子は大分縣の人羽田野四方太郎君の三女にして君との間に信子、和子等あり。現に東京市牛込區二十騎町二九

番地に住し電話牛込二七六九番なり。

鈴木喜兵衛君

東京府多額納稅者

君は先代鈴木喜兵衛君の長男にして、明治三年三月一日を以つて生れ、後ち前名長次郎を改めて襲名す。

夙に米人の塾に於て語學を修得し、後ち實業界に活躍して稀代の敏腕を振ひ、現に徳力本店と稱し貴金屬地金商を營み且つ東京府多額納稅者にして直接國稅六千四百余圓を納むるを以つて知らる。屢に神田區會議員に擧げらるること二回に及びぬ。

夫人ます子は東京府の人伊藤茂右衛門君の長女にして君との間に二男四女あり現に東京市神田區松田町四番地に住し電話大手六五九番五六七番たり。

須藤恭平君

久米同族株式會社取締役

君は埼玉縣の人久米良作君の令弟にし

て、明治十三年六月を以つて生れ後ち先代ツル子の入夫となる。

夙に財界に投じて縦横の才腕を振ひ現に久米同族株式會社の重役として知らる夫人をツル子と稱し養父吉右衛門君の長女たり、現に東京市本郷區駒込林町一五番地に住し電話小石川七四五番なり。

鈴木正平君

株式會社中屋印刷所社長

正久庵丁製造株式會社社長

君は静岡縣の人鈴木松藏君の長男にして、明治九年三月十四日を以つて生る。夙に印刷界に身を投じ獨力以つて中屋印刷所を創立し、傍ら文房具帳簿販賣等を營みて業勢を振ふに至る。

然して大正八年十一月同所が株式會社に組織變更せらるるや自ら同社取締役社長に就任し、現に其の外正久庵丁製造株式會社々長にして、且つ東京洋式帳簿協會、東京印刷同志會各會長及び東京印刷同業組合副組長、東京工場懇話會副委員

長等の樞要なる位置に在りて令名あり。

夫人たま子は岡山縣の人時國鶴太郎君の養女にして君との間に三男四女あり、現に東京市芝區高輪北町四八番地に住し電話高輪八二八番たり。

杉林健次郎君

杉林金屬精練所長

杉林黒鉛精製煉所長

君は東京府の人杉林與八郎君の長男にして、明治廿三年九月八日を以つて生る。夙に高岡中學校を卒業するや、直ちに實業界に投じ現時は前記各會社の所長として知らる。

夫人梅子は橋本初太郎君の三女にして君との間に泰作君、ふみ子、きみ子等あり、現に東京府荏原郡品川町淺間臺一四六番地に住し電話高輪一八五四番なり。

鈴木穆君

從四位勳二等

前朝鮮銀行副總裁

君は東京府士族鈴木禎次君の令弟にして、明治七年八月十八日を以つて生る。明治卅二年東京帝國大學法科大學を卒業するや直ちに官界に投ず。斯くて朝鮮總督府に入り同度支部司稅局長を経て度支部長官兼臨時土地調查局長に進み、後ち朝鮮銀行副總裁として君の敏腕を振ひしも大正十四年七月同行を辭す。

夫人さだ子は栃木縣の人河村傳衛君の長女にして香蘭高等女學校を卒業し君との間に治君、隆代子、三千代子、綾子等あり、現に東京市本郷區西片町に住し電話小石川三一〇九番たり。

吹田順助君

從五位勳六等

山形高等學校教授

君は東京府士族吹田綱六君の長男にして、明治十六年十二月を以つて生る。明治四十年東京帝國大學文科大學獨逸文學科を卒業するや翌年同大學農科豫科教授

に任ぜらる。

然して後ち第七高等學校教授を経て大正九年山形高等學校教授に任ぜられ、翌年獨逸文學研究の爲め獨逸瑞西兩國に留學し、大いに造詣を積みて歸朝し以つて現在に及ぶ。

夫人せつ子は山形縣の人橋本富徳君の二女にして君との間に亮一君、雄三君、周郎君、逸夫君及びみを子等あり、現に山形縣香澄郡高等學校北官舎に住す。

菅沼市藏君

第一高等學校教授
從四位勳四等

君は靜岡縣の人菅沼儀八君の二男にして、明治六年一月を以つて生る。明治三十一年東京帝國大學理科大學化學科を卒業するや、直ちに教育界に職を奉じ曩に第二高等學校教授たりしが現時は第一高等學校教授として我が學界に知らる。夫人もと子は靜岡縣の人鈴木角平君の二女たり、現に東京市小石川區白山御殿

町一〇九番地に住す。

末正久左衛門君

海西銀行頭取
眞野信託株式會社監査役

當家は代々苗字帶刀を許されたる家柄として聞え、君は先代久左衛門君の長男にして、明治四年二月を以つて生る。夙に慶應義塾を卒業するや、直ちに神戸財界に投ず。

現に前記の要職にある外兵庫縣會議員神戸市農會長等を始めとして各種公共團體の役員に推され、且つ常に兒童教育に盡瘁し獨力以つて末正幼稚園を經營しれ之が主宰者たり、尙ほ兵庫縣多額納稅者にして現時直稅二萬二千六百四十圓を納む。

夫人照子は兵庫縣の人小島莊兵衛君の令妹にして君との間に武夫君、久君及び悦子等あり、神戸市東尻池一ノ六三番地に現住し電話兵庫一〇〇七番たり。

杉村甚三郎君

株式會社杉村商店取締役
東京モスリン紡織株式會社取締役

君は東京府の人杉村甚兵衛君の長男にして、明治十年四月を以つて生る。夙に東都財界に投じて實地の研鑽を積むこと久しく、現に株式會社杉村商店取締役たる外東京モスリン紡織株式會社の重役として知らる。

夫人つる子は東京府の人杉村彦右衛門君の養姉にして君との間に五男二女あり現に東京市日本橋區新材木町に住し電話浪花一二八五番なり。

末松清一君

日本調味料製造株式會社社長
九州石材工業株式會社取締役

君は福岡縣の人末松善平君の四男にして、明治二十六年九月を以つて生る。夙に地方財界に令名を馳せ、現に前記の外國東木材、末松商店、九州耐火煉瓦、九州化學工業、東洋車輛各株式會社の重役

にして且つ福岡縣多額納稅者として直稅一千九百六十圓を納む。

夫人スミ子は福岡縣の人野田儀平君の三女たり、福岡縣遠賀郡黒崎に現住す。

杉山魯九郎君

淺野ビルデング株式會社取締役

君は愛知縣の人杉山五郎太君の令弟にして、明治五年十月を以つて生る。夙に織物商を營む傍ら前記會社の重役として名あり。

夫人てい子は東京府の人洞村源兵衛君の五女にして君との間に一郎君、千吉君カ三郎君、四郎君及び雪子等あり、現に東京市日本橋區濱町三ノ三番地に住し電話浪花三五九番なり。

菅井與左衛門君

千葉縣多額納稅者
常總運輸株式會社取締役

君は千葉縣の人福島庄右衛門君の二男にして、安政元年四月を以つて生れ、後

ち先代顯利君の養嗣子となる。夙に地方財界に投じて活躍大いに努め、現に常總運輸會社の重役にして且つ千葉縣多額納稅者として直稅七千七百九十圓を納むるを以つて知らる。

夫人をくに子と稱し君との間に七男二女あり、現に千葉縣香取郡佐原に住す。

末永一三君

北日本汽船株式會社社長
大正製麻株式會社取締役

君は福岡縣士族先代末永良味君の三男にして、明治二年九月を以つて生る。夙に大志を抱いて上京し、東都實業界に活躍して其の敏腕を鳴らし、現に北日本汽船株式會社社長たる外大正製麻株式會社取締役たり。

夫人サワ子は福岡縣の人田中善平君の二女にして君との間に大祐君、謙三君及び俊子、恭子、壽美子、禮子等あり、現に東京市四谷區大番町三五番地に住し電話四谷三二六〇番たり。

水津信治君

醫學博士 從五位勳五等

君は島根縣の人水津直太郎君の令弟にして、明治十五年一月を以つて生る。明治四十一年京都帝國大學醫學科大學精神科を卒業し、爾來、朝鮮總督府醫官、同府醫院精神科長等を歴任し、後ち醫學博士の學位を授與せらる。

夫人タカ子は山口縣士族山根正次君の長女にして君との間に一女ありて惠美子と稱す。

住田藤三郎君

東京製釘工業株式會社取締役

君は東京府の人住田富次郎君の令弟にして、明治二十年九月を以つて生る。曩に銅鐵商を營みて斯界に令名ありしが現時は東京製釘工業株式會社取締役として知らる。

夫人ハナ子は東京府の人鈴木國五郎君の令妹にして君との間に一男あり、現に東京市京橋區新湊町一ノ三番地に住す。

鈴木伊十君

臺南製糖株式會社取締役
秋田鐵道株式會社監査役

君は愛知縣の人鈴木清四郎君の長男にして、明治三年四月を以つて生る。

夙に早稻田大學商科を卒業するや直ちに實業界に投じ、現に前記諸會社の重役たる外日本建築紙工株式會社取締役たり夫人久枝子は高知縣の人島本佐郎君の令妹にして君との間に正一郎君、勝彦君重三君及びすま子等あり、現に東京市麻布區霞町一七番地に住し電話青山三七四八番なり。

杉山房治郎君

東京米穀取引所取引員

君は東京府の人杉山米次郎君の二男にして、明治元年三月を以つて生る。早くより東都財界に投じて活躍大いに努め、現に東京米穀取引員として斯界に重きをなす。

夫人たま子は千葉縣の人本藤条吉君の

三女にして君との間に英治君、秀三郎君及びまさ子、はな子、つる子等あり、現に東京市日本橋區蠣殻町一ノ三番地に住し電話浪花二三一一番たり。

杉山作次郎君

京都府多額納稅者

君は京都府の人杉山作次郎君の長男にして、明治十八年四月を以つて生れ後ち前名作三を改稱す。現に京都府多額納稅者にして直接國稅二千八百八十餘圓を納むるを以つて知らる。

夫人ミツ子は京都府の人阿原安太郎君の二女にして君との間に四男二女あり、現に京都府下京區室町五條上ルに住し電話長下六六五番なり。

鈴木辨吉君

合資會社鈴木商店代表社員

君は埼玉縣の人鈴木榮助君の三男にして、明治元年九月を以つて生る。夙に東都實業界に投じて其の敏腕を振ひ現に合

鈴木清之輔君

白石銀行頭取

仙南電氣工業株式會社長

君は宮城縣の人鈴木味右衛門君の長男にして、慶應三年十一月を以つて生る。夙に地方財界に投じて俊才を縦横に振ひ、而して幾多事業會社に關係して貢獻すること甚大、現に前記の外東北實業銀行、福島電燈、東北實業貯蓄銀行各株式會社の重役にして當地方財界に重きをなし、且つ白石郵便局長たり。

夫人すゑ子は宮城縣の人渡邊儀藏君の令妹にして君との間に六男一女あり、現に宮城縣刈田郡白石町短一番地に住す。

杉浦寛威君

豫備陸軍中將

君は福岡縣の人松浦虎作君の長男にして、慶應二年十一月を以つて生る。幼にして軍人たらしと志し明治二十一年八月陸軍士官學校を卒業するや直ちに陸軍憲兵少尉に任官し、福岡歩兵第二十四聯隊

資會社鈴木商店代表社員たり。

夫人しげ子は東京府の人萩原彌兵衛君の二女にして君との間に三男三女あり、現に東京市芝區新堀河岸四〇番地に住し電話高輪三五三三番たり。

鈴木忠兵衛君

株式會社皆川商店取締役

皆川商店株式會社監査役

君は山梨縣の人鈴木孝三郎君の二男にして、明治十四年五月を以つて生れ、後ち先代忠兵衛君の後を承けて其の家督を相續し、前名喜三郎を改稱す。早くより實業界に活躍して名聲を馳せ、現に前記諸會社の重役として知らる。

夫人きぬ子は山梨縣の人依田簡三君の令妹にして君との間に四男四女あり、現に東京市四谷區新宿二ノ四三番地に住し電話四谷一五七八番たり。

小隊長となり、同二十二年戸山學校体操創術科を修業す。

然して明治二十七八年日清の戦役には中尉として長谷川混成旅團に屬し、旅順に攻撃凱旋後陸軍士官學校附となり、同三十年六月歩兵大尉に任じ、福岡歩兵第二十四聯隊中隊長となり、同三十八年陸軍士官學校教官となり、同三十二年陸軍士官學校生徒隊中隊長兼同校教官に任じ明治三十六年清國四川五月武備學堂の創設に際し、總教習として應聘、同三十六年歩兵少佐に陞進す。

斯くて明治三十七年日露兩國の國交斷絶して戦戈を交ふるや君歸國を命せられ大本營附を拜命し、後ち九連城陥落するに及び直ちに柴東縣軍政官となり、後ち寛甸縣籌馬集大安平昔を経て、遼陽攻略後同地に入り軍政に従事す。明治三十八年三月第三軍に轉じ、奉天包圍戰に参加して偉勳を立つ。

然して凱旋後熊本陸軍地方幼年學校長に任じ、後ち中佐に進み篠山歩兵第七十

聯隊附となり、明治四十三年歩兵大佐として、陸軍中央幼年學校長に轉任、大正四年陸軍少將に陞級して松江歩兵第三十四旅團長となり、更に大正八年陸軍中將に陞り同時に金澤第九師團長となり、大正十年第九師團を率ひて浦鹽、ニコリスク等に駐在し、大正十一年撤兵と共に金澤に歸還、同年冬待命、大正十三年の春豫備役仰せ付けられ現に閑地にありて悠々たり。

夫人を信子と呼び陸軍少將出石獻彦君の三女にして君との間に四女あり、現に東京市外代々木山谷三一二番地に住す。

鈴木安太郎君

八王子貯蓄銀行取締役

帝國紡織機械製造會社監査役

君は東京府の人三浦慶次郎君の長男にして、明治三年三月を以つて生れ、同三十四年十月先代イシ子の入夫となる。

夙に實業界に投じ現に前記諸會社の重役たり。

夫人イシ子は東京府士族鈴木貞順君の長女にして君との間に五男三女あり、現に東京市麻布區本村町一四五番地に住し電話高輪七二一六番たり。

須藤 憲三君

醫學博士 從四位勳三等
金澤醫科大學長

夫れ、學界と謂はず、財界を問はず、所謂學閥、財閥に何等の力を藉らず自己努力に依り最高の地位を獲得する、眞に吾人の稱讃と敬意を表すべきものなり。我が學界の泰斗須藤憲三博士こそは其の一人にして、君の努力奮闘の跡こそ吾等の鑑識措く能はざるものなり。

君は山形縣の産にして明治五年一月十日を以つて生る。夙に郷里の高等小學校を卒業するや直ちに上京して神田區私立大學豫備校に入り獨語、數學、漢學等を専修し、明治二十二年東京醫學院に入り同二十五年五月同校を卒業、翌二十六年四月初めて醫術開業免許狀を受く。

然して同年九月醫科大學生理學選科に入學し、同二十七年六月修業するや直ちに醫科大學助手を拜命し、同三十二年十月醫術開業試験委員を仰せ付けられ、同三十六年三月東京帝國大學醫科大學講師を囑託し、同三十八年一月には累進して同大學助教に任ぜられ、同四十三年十月ドレスデンに於て萬國衛生博覽會の開催されるや文部省出品準備委員としてその囑託を受く。

斯くて君の研鑽の功空しからず明治四十四年三月遂に醫學博士の學位を授與せらる、而して、同四十五年一月醫化學研究の爲め滿二ヶ年間獨逸へ留學を命ぜられ、大正元年十二月金澤醫學專門學校教授に任命せられ、同三年十月歸朝す。而して同九年二月文部省社會教育講師を囑託し、同十二年四月金澤醫科大學教授兼同大學附屬醫學專門部教授に任ぜられ、同十三年四月同學々長兼教授を拜命し以つて現在に至る。

醫學界に於て君の如き人物の存在する

須川 多助君

神奈川縣多額納稅者

君は神奈川縣の人須川多助君の長男にして明治九年九月を以つて生る。現に神奈川縣多額納稅者として直稅九千八百五十余圓を納むるを以つて知らる。

夫人ミヨ子は京都府の人三木安三郎君の二女にして君との間に光一君、正二君三郎君及びシヅ子、セツ子、安喜子等あり、現に横濱市海岸通一ノ二番地に住し電話一四一八番たり。

鈴木 孝三君

鈴木セメント株式會社取締役
西武興業株式會社取締役

君は東京府の人鈴木茂助君の令弟にして、鈴木慶三君の令兄に當り明治八年五月を以つて生る。

夙に東都財界に身を投じて活躍大いに努め、現に前記諸會社の重役として知ら

る。

夫人ゆき子は茨城縣の人初見新太郎君の令妹たり、現に東京市外落合町下落合丸山四一六番地ノ五に住し電話牛込三一五番たり。

菅 昌之助君

京都府多額納稅者

君は京都府の人菅小七君の長男にして明治十年十月を以つて生る。現に吳服商として京都市界に重きをなし且つ京都府多額納稅者にして直稅四千九百六十余圓を納む。

夫人タカ子は神奈川縣の人新井忠兵衛君の令妹にして君との間に一男あり、現に京都府下京區烏丸通繪師下ル手洗水六五九番地に住し電話特長中一八八六番なり。

杉浦 重吉君

杉浦合資會社長

君は愛知縣の人先代重吉君の長男にし

て、明治七年五月を以つて生る。先代重吉君は夙に東京に出でて石炭コークス商を營み、三河屋と稱して内外の信望を博し斯くて君の努力奮闘の結果遂に今日當家の基を起せり。

君は即ち明治三十三年家督を相續し前名光太郎を改稱して家業を繼承し、勉勵以つて其の隆盛を來し、現に合資會社に組織を變更して其の代表社員たり。

夫人とく子は故書家川端玉章君の長女にして君との間に一男ありて武雄君と稱す。現に東京市外品川町南品川宿八一三番地に住し電話高輪一一九六番たり。

菅井 良助君

資産家

君は宮城縣の人菅井養吉君の長男にして、明治二十七年十二月を以つて生る。

當家は當地屈指の資産家として知らる。夫人ふみ子は宮城縣の人高松喜右衛門君の令孫たり、現に宮城縣宮城郡多賀に住す。

杉山 正造君

東京株式取引員

君は神奈川縣の人杉山長造君の長男にして、明治十七年四月を以つて生る。夙に東都株式界に投じて斯界に俊腕を振ひ現に東京株式取引所員として知らる。

夫人松枝子は東京府士族加藤景行君の六女にして君との間に一男一女あり、現に東京市日本橋區兜町五番地に住し電話浪花五一七〇番なり。

杉野 文彌君

中條商店監査役
日本銃砲店監査役

君は滋賀縣の人中山新右衛門君の二男にして、慶應元年十月を以つて生れ後ち先代半九郎君の養嗣子となる。夙に郷校を卒業するや笈を負ふて東上し、研鑽琢磨明治十五年中央大學を卒業す。

斯くて直ちに辯護士登用試験に登第して、辯護士を開業し現に其の傍ら前記の諸職及び松澤常吉商店、丸山商店各株式

會社の重役として東都法曹界及び財界に
令名あり。

夫人みち子は埼玉縣の人内木讓一君の
令妹にして君との間に芳文君、正文君及
び倭文子等あり、現に千葉縣東葛飾郡市
川町に住し電話二二番たり。

鈴木徳治君

實産家

君は東京府の人鈴木晴吉君の長男にし
て、明治十年十一月を以つて生る。相當
名ある資産家たり。

夫人喜舞子は松下長智君の長女にして
君との間に元君、卓君、保君及び悦子、
璋子、昌子等あり、現に東京市淺草區千
束町二ノ四七九番地に住し電話淺草一七
三一番なり。

杉生幸三郎君

三井物産株式會社理事

君は大阪府の人先代杉生幸三郎君の二
男にして、明治七年四月を以つて生る。

當家は當地方に於ける資産家として知ら
る。

夫人トメ子は大坂府の人川島新治郎君
の三女にして君との間に武之助君、二郎
君、三郎君及びトヨ子、トミ子、ヨシ子
等あり、現に兵庫縣武庫郡大社村に住し
電話西宮一七八番なり。

鈴木敬策君

北部開墾株式會社理事兼取締役

日獨貿易株式會社監査役

君は北海道の人鈴木半次君の長男にし
て、明治十年四月を以つて生る。明治三
十四年東北帝國大學農科大學を卒業する
や直ちに財界に投じ、現に前記諸會社の
重役たる外東亞拓殖澱粉株式會社監査役
たり。

夫人はる子は長野縣の人小野富美雄君
の女にして君との間に繼夫君及び美枝子
滿枝子、八重子等あり、現に東京市芝區
白金三光町三〇五番地に住す。

杉本重吉君

京都府多額納稅者

君は京都府の人杉本新左衛門君の令弟
にして、明治八年十一月を以つて生る。
現に京都府多額納稅者にして直稅二千百
三十余圓を納むるを以つて知らる。

夫人ちか子は京都府の人片山正中君の
長女にして君との間に忠太郎君、眞吉君
東次君、潤吉君、六郎君、武之助君及び
アヤ子、レイ子、マチ子等あり、現に京
都府下京區綾小路新町西入に住し電話下
三三六一番たり。

鈴木慶三君

鈴木セメント株式會社理事兼取締役

西武興業株式會社取締役

君は東京府の人鈴木茂助君の令弟にし
て、明治九年十二月を以つて生る。早く
より實業界に身を投じ専ら鈴木セメント
株式會社の經營に盡瘁し、現に其の傍ら
西武興業株式會社の重役たり。

夫人をつた子と稱し君との間に一男一

女あり、現に東京市外西巢鴨町池袋大原
一三九七番地に住し電話小石川三二一五
番なり。

鈴木三郎君

阿部商事株式會社事務取締役

唐津鑛業株式會社監査役

君は東京府の人鈴木太郎君の令弟にし
て、明治二十二年一月を以つて生る。現
に阿部商事株式會社取締役たる外山本オ
ブロード、東京コークス、唐津鑛業各株
式會社の重役として知らる。

夫人シヅ子は神奈川縣の人福吉大吉君
の二女にして君との間に二女あり、現に
東京市外入新井町不入斗に住す。

鈴木辰五郎君

土木建築大丸組社長

安全自動車株式會社取締役

君は東京府の人鈴木留五郎君の三男に
して、明治十年四月を以つて生る。夙に
我が財界の重鎮を以つて目せられ、現に

安全自動車株式會社取締役にして且つ大

九組と稱して土木建築請負業を營み、尙
ほ東京府多額納稅者にして直稅一万一千
九百七十余圓を納む。

夫人こう子は東京府の人和田常吉君の
長女にして君との間に猛夫君及び章代子
あり、現に東京市京橋區三十間堀町三ノ
一番地に住し電話銀座一四〇〇番たり。

鈴木直次郎君

日本珊瑚株式會社取締役

ミニキ商工株式會社取締役

君は神奈川縣の人鈴木喜衛君の二男に
して、明治十二年十月を以つて生れ同三
十七年一月先代瀧藏君の死跡を相續す。

夙に東都實業界に雄飛して名聲を馳せ
現に前記の外徳力商店と稱して貴金屬商
を營み斯界に令聲噴々たり。

夫人セイ子は東京府の人犬野芳二郎君
の令妹にして君との間に錦之助君及び富
貴子、百合子、壽子、喜久江子等あり、
現に東京市日本橋區樽正町一三番地に住

す。

鈴木松太郎君

桑原鐵工株式會社取締役

君は千葉縣の人鈴木東作君の長男にし
て、明治十八年五月を以つて生る。現に
桑原鐵工株式會社取締役たり。
現に東京市京橋區銀座一ノ二二番地に
住す。

鈴木鹿昌一君

株式會社鈴木鹿商店取締役

君は大阪府の人實業家谷崎新五郎君の
令弟にして、明治二十一年十二月を以つ
て生れ、大正三年東京府の人鈴木鹿保家君
の養嗣子となる。現に株式會社鈴木鹿商店
兵庫出張所長たり。

夫人マツヘ子は東京府士族鈴木鹿保家君
の二女にして日本女子大學附屬高等女學
校を卒業し、君との間に保昌君、寛昌君
及び昌枝子等あり、兵庫縣舞子取引山に
現住し電話兵庫一一四〇番たり。

鈴木茂吉君

日本麻袋株式會社事務取締役

君は東京府の人先代喜七郎君の長男にして、明治二年八月を以つて生る。

夙に實業界に活躍して敏腕を振ひ現に日本麻袋株式會社事務取締役たり。

夫人をきわ子と稱し君との間に英雄君英次君等あり、現に東京市神田區柳原河岸一七番地に住す。

鈴木誠作君

大湊興業株式會社取締役

大湊電燈株式會社取締役

君は山形縣士族鈴木忠和君の二男にして、慶應二年二月を以つて生れ、後ち先代令兄幸松君の養嗣子となる。夙に郷校を卒業るや大志を抱いて上京し、明治十四年東京帝國大學法科大學政治科を卒業す。

曩に鐵道院囑託たりしが現時は大湊興業株式會社取締役たる外大湊電燈、大湊木材各株式會社の重役として知らる。

夫人はな子は北海道士族日高爲喜君の二女にして君との間に格君、新納君、明君及び操明子、道子、しのぶ子、つるの子、せつ子等あり、現に青森縣下北郡田名部に住す。

鈴木文治君

日本労働同盟名譽會長

君は宮城縣の人鈴木益治君の長男にして、明治十八年九月を以つて生る。明治四十二年東京帝國大學法科大學政治科を卒業す。

然して直ちに秀英舎に入り大正元年友愛會を創立して其會長となり、労働組合運動の促進に盡瘁し、後ちこれを日本労働同盟と改稱し、益々其の隆盛を計り遂に今日の大をなすに至れり。

曾つては國際労働會議に日本労働者側代表に推されて參列する事二回、且つ米國に遊び故コンバース氏に就き労働問題社會問題を研究せり、曩に東京朝日新聞記者、統一基督弘道會幹事たりし事あり現に東京市麻布區市兵衛町二ノ一三番地に住し電話青山五五八八番なり。

夫人を美都子と稱し君との間に英久君及び榮美子等あり、現に東京市牛込區辨天町三三番地に住し電話牛込三五一五番

鈴木元美君

從五位勳四等

女子學習院教授

君は福島縣の人西山徳次郎君の長男にして、明治五年五月を以つて生れ、明治三十五年十二月廢家鈴木家を再興す。現に女子學習院教授たり。

夫人アイ子は福島縣の人辻田武助君の四女にして君との間に元彦君及び操子、美代子等あり、現に東京市外千駄ヶ谷町原宿八六番地に住す。

杉山虎雄君

三井銀行常任監査役

三保子、和子、栞子、小枝子等あり、現に東京市麴町區麴町七ノ二〇番地に住し電話四谷七〇六九番なり。

君は神奈川縣の人杉山卯之助君の長男にして、明治四年一月一日を以つて生れ後ち先代常五郎君の養嗣子となる。明治二十二年中央大學法律科を卒業す。

斯くて直ちに時事新報社に入社して記者となりしが後ち之を辭し、明治三十一年三井銀行に入りて同行業務課長に就任し、爾來、同行各課の要職を歴任し、現に同行常任監査役たり。

夫人トキ子は神奈川縣の人遠藤紋次郎君の二女にして君との間に一郎君、益夫君及び和子、臣子、治子、正子、文代子等あり、現に東京市芝區白金今里町八四番地に住し電話高輪七三〇番たり。

鈴木徳次郎君

武州倉庫運送會社事務取締役

武藏製鐵株式會社取締役

君は鈴木徳次郎君の二男にして、明治十一年五月八日を以つて生る。夙に製材業を營み、就中、優良なる杉板を製造販賣するを以つて知られ、大正十三年埼玉縣山林會主催第二回林産物共進會に於て一等賞を授與せられ、今や當地同業界に重きをなす。

杉村友次郎君

杉村商店常務取締役

君は東京府の人杉村英兵衛君の二男にして、明治十八年六月廿二日を以つて生る。夙に東京高等師範學校附屬中學校を卒業するや直ちに實業界に投ず、斯くて幾多事業會社に關係し、現に杉村商店株式會社常務取締役たり。

夫人トラ子は東京府の人杉村彦右衛門君の四女にして東京女子高等師範學校附屬高等女學校を卒業し君との間に文一郎君、信二郎君、勇吉君、熊吉君及び友子

杉田富君

第一銀行常務取締役

君は愛知縣の人富安鷹次君の令弟にして、明治八年四月を以つて生れ、後杉田權次郎君の養嗣子となる。

明治三十五年東京帝國大學法科大學政治科を卒業するや直ちに第一銀行に入り爾來累進して副支配人及び支配人等を経て現に同行常務取締役として知らる。

夫人きみ子は養父權次郎君の三女たり現に東京市芝區三田臺町一ノ二八番地に住し電話高輪二〇二六番たり。

杉山幹君

東京日々新聞社經濟部長

君は山形縣の人杉山達藏君の長男にして、明治十九年八月十六日を以つて生る大正三年慶應義塾政治科を卒業す。

斯くて直ちに大阪毎日新聞社に入社して同社經濟部に勤め、後英米獨に留學して研鑽すること四ヶ年蘊蓄を積みて歸朝するや引き續き同社に勤務し、爾來、

同社經濟部副部長、整理部副部長、同部長等を経て大正十四年五月東京日々新聞社經濟部長に轉じ以つて現在に至る。

夫人信子は山形縣の人岸甚藏君の長女にして山形縣立高等女學校の出身たり。現に東京市赤坂區青山南町六ノ八三番地に住し電話青山五七一二番なり。

杉原榮三郎君

正六位勳三等 杉原商會主

株式會社長田銀行取締役

君は東京府の人杉原米吉君の二男たり祖父は舊幕時代飛騨國より江戸に出て維新の變に兩替商を營み巨利を博し、杉原家の基を起せり、而して三男丈太郎君其後を繼ぐ。

君は慶應元年五月二十日を以つて生る小壯志を立てて北海道及滿鮮の地を視察し、歸朝するや内國商品陳列館長に推され日清戰役の際陸軍御用商人として利する所尠からず、其の後關係したる種々の事業會社枚擧に遑あらず、現に前記の外

北武鐵道、共益倉庫、小田原電氣鐵道、東京會館各株式會社の重役たり。

尙ほ區會議員、市會議員、府會議員等に擧げられ公共事業に盡瘁する所甚大、殊に三回に渡つて東京商業會議所副會頭を務め令名東西に噴々たり。現に東京市下谷區北稻荷町一一番地に住し電話淺草六三一七番たり。

鈴木久次郎君

杉浦メリヤス製針會社社長

三重セメント株式會社取締役

君は千葉縣の人鈴木市太郎君の長男にして木村庫之助君の令兄に當り、慶應二年七月を以つて生る。

曾つては衆議院議員として中央政界に鳴らし、現に前記の外富士鑛業株式會社の重役にして尙ほ勳四等の肩書持ちなり現に東京府北豊島郡巢鴨町二ノ五〇番地に住し電話小石川九二九番たり。

菅野善右衛門君

衆議院議員

君は福島縣の人先代善右衛門氏の二男にして、明治十七年四月廿日を以て同縣伊達郡福田村に孤々の聲を擧ぐ。

明治三十九年福島蠶業學校を卒業するや直ちに實社會に投じて専心本邦蠶業の改良發達に盡瘁し大正十年には推されて同縣蠶業同業組合員となり後ち奉蠶組合聯合會幹事に推され、昭和二年には伊達農會長、蠶業中央會議員等に擧げられ、斯くて君が本邦蠶業界に貢献すること甚大なり。

然して尙ほ君は地方政界に活躍し功績尠ならず、曩に大正六年郡會議員に當選し更に大正八年縣會議員に選ばれ、尙ほ大正七年より福田村長として縣民の信頼を一身に集め、且つ昭和三年普選第一回の總選舉に際し縣民多數の推すがまゝ、馬を陣頭に進むるや多くの猛者連を向ふに廻して奮戰の結果遂に當選の榮譽を擔ひ今や中央政界に令名あり。

夫人をさと子と呼び嗣子賢一君を始めさだ子、みや子あり、現に福島市榮町十二番地に住し電話一〇八番たり。

鈴木喜三郎君

辯護士 辨理士

東京辯護士會副會長

東都法曹界に活躍して新進法官の聞えあるを我が鈴木喜三郎君となす。

君は宮城縣の出身にして、明治二十四年二月二十八日を以て生る。夙に郷校を卒ふるや笈を負ふて上京、研鑽琢磨、大正七年日本大學法科を卒業するや直ちに辯護士登用試験に應じて天下幾多の奇才と鬪つて見事登第、直ちに辯護士事務所を開設して一般法律事務に従事せしかば社會の信用頗に擧り、今や東都法曹界に令名あり、東京辯護士會副會長たり。

趣味に讀書あり、内外歴史の研究に専念たるが如し。現に東京市芝區新堀町二十八番地に住

す。電話高輪四〇一九番

鈴木武志君

從五位勳五等 製鐵所參事

同東京出張所第一課長

君は福島縣士族鈴木信衛氏の令息にして、明治二十四年十一月十日を以て生る夙に第二高等學校を経て大正六年東京帝國大學法科大學政治科を卒業するや官途に投じ、爾來、農商務局、同事務官、同書記官等を歴任、大正十五年製鐵所參事に任じ、現に同所東京出張所第一課長たり。

夫人静子は醫學士關口六郎氏の令姉にして其の間に二男二女あり、現に東京市外井荻町上井草一ノ四一三番地に住す。電話荻窪一六七番

鈴木榮君

今村家支那人

今村事務所主任

君は東京府士族鈴木萬氏の長男にして

明治六年八月十四日を以て生る。

明治二十三年東京工手學校を卒業するや直ちに東都實業界に投じ、後ち建築技師として建築業河合浩藏事務所東京出張所長として敏腕を振ひ、明治四十年今村事務所主任として聘せられ更に大正二年一月今村家支配人をも兼任し以て現在に及ぶ。

趣味として寶生流謡曲に長じ其の吟する珍にして妙、優にして雅といふべき哉現に東京市麻布區本村町一四六番地に住す。電話高輪七〇五四番

鈴木 巖君

衆議院議員

君は岩手縣の人鈴木舍從氏の二男にして、慶應二年三月十三日を以て生る。

夙に笈を負ふて上京、東京朝日新聞記者として健筆を振ひ、たま／＼明治二十七八年日清の役勃發するや徳富蘇峰氏等と共に廣島大本營に派遣せられ、斯くて戦地の情報を最も敏活且つ確實に東京及

び大阪各朝日新聞に報じて、常に他の諸新聞に一時時間を早く報ぜしは君の最も快とするところ、尙ほ其の間戦地に送られ威海衛に滞留して活躍大いに努め、其の功績甚大なり。

然して戦争終熄と共に再び上京、大いに東都操觚界に活躍することありしが後ち鹿島組に入り、明治三十五年故原敬氏の政界に飛躍するや君も同氏を援けて活躍、更に盛岡にありて日刊「三陸」を發刊して靈筆を揮ひ、後ち地方産業發展を期して幾多銀行會社に關係す。

然して彼の歐洲大戦亂に依り、歐洲の天地戰戈と化すや、獨逸及び聯合國は現役陸軍を操り出したるのみならず、全國民をして戰場に送りしに鑑み、君は早くも常備兵として將又一旦國家に緩急あらば「義勇奉公」に全日本國民を戰爭に送らん爲めには本邦消防組の確立を期する必要あるを痛感して消防組を組織し、遂に推されて消防組頭取となり、現に同願問たり。

衆議院議員に當選すること前後三回、昭和三年二月普選第一回にも推されて當選す。

鈴木 孝 與君

帝國電氣(株)常務取締役

君は山梨縣の出身にして、同縣の舊家鈴木家の出たり。

大正十二年早稻田大學商學部を卒業するや直ちに大阪に赴き東西土木建築界の巨頭大林組に入り、後ち關東電氣株式會社に轉勤す。

斯くて大正十三年帝國電氣株式會社の創立に參劃して同社設立と共に其の常務取締役に就任、今や新進實業家として令名あり、尙ほ早稻田大學校友會幹事たり夫人輝子は東京女學館の出身、其の間に恒男君及び博子あり、現に東京市外北品川宿一本木三八七番地に住す。電話高輪四六四八番

鈴木 育 仙君

法學士 文學士

辯護士 辨理士

君は東京府に現籍を有し宮城縣の人鈴木寅吉氏の二男にして、明治二十一年九月十九日を以て同縣田村郡會隈村に生る大正五年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業するや更に法科に入り同八年同科を卒業す。

斯くて直ちに辯護士事務所を開設して一般法律事務に従事せしかば、月に年に隆盛に赴き今や東都法曹界に聲名あり。趣味に乗馬、圍碁、讀書あり、夫人をミヨ子と呼び其の間に育三君及び育子、君子、昭子あり、現に東京市淺草區森下町十五番地に住す。電話淺草三六三三八番

住田 正 一君

國際汽船(株)取締役兼東京出張所長

大日本鹽業(株)取締役

君は廣島縣の人住田勇次郎氏の令息にして、明治二十六年一月二日を以て生る

鈴木 憲 太郎君

正八位 衆議院議員

君は宮崎縣士族小林乾一郎氏の二男にして、明治十五年九月を以て生れ後ち鈴木家の養嗣子となる。

明治三十七年明治大學法科を卒業するや一年志願兵として入隊、陸軍三等主計

夙に郷校を卒ふるや東都に學び大正七年東京帝國大學法科大學政治科を優秀の成績を以て卒業し、鈴木商店船舶部に勤務せしも同十一年同社を辭し、昭和二年大日本鹽業株式會社取締役に就任、現に其の外國國際汽船株式會社取締役兼東京出張所長として知らる、又考古學の研究者たり。

夫人千鶴子は埼玉縣の人小杉權次郎氏の二女にして共立女子職業學校の出身、其の間に俊一君、正二君及び惠美子、千惠子あり、現に東京市外中野上ノ原九三六番地に住す。電話中野三四二番

に陞進す、明治四十四年縣會議員に當選大正六年同縣會副議長に推さる。斯くて昭和三年二月大日本憲政史上特筆すべき普選第一回の總選舉に際し、白馬を陣頭に進めしかば幾多強敵を組み伏せて見事當選、今や中央政壇に令名あるのみならず、延岡電氣株式會社々長として縣下財界に重きをなす。

趣味に書畫、骨董あり、且つ旅行を愛好するが如し。夫人セイ子は宮崎縣士族工藤熊治氏の二女にして其の間に皓君、廣君、蕃君及び多賀子あり、現に宮崎縣東臼杵郡國富村に住す。

鈴木 梅 五郎君

鈴木組經營者

東京土木建築業組合第八支部副部長

君は東京府の人先考鈴木文五郎氏の三男にして、明治九年二月四日を以て生る夙に東都土木建築界に活躍して敏腕を振ひ、明治二十三年獨力以て斯業を經營

主宰し、爾來、宇都宮第五十九聯隊營舎入新井第一、第三各小學校々舎、第一小學校増築工事其の他幾多の建築工事を請負つて何れも完璧を期し世人の賞讃を博し今や東都同業界に重きをなす。

夫人梅子は東京府の人加藤安五郎氏の令妹にして其の間に丈太郎君、松雄君及びさと子、いま子、あい子等あり、現に東京市外入新井町新井宿一三四六番地に住す。電話大森一八三番

鈴木正美君

三井銀行(株)參事

君は三重縣土族鈴木充美氏の長男にして、明治十二年四月二十一日を以て生る。明治三十九年東京帝國大學法科大學佛法科を卒業するや直ちに實業界に投じ、三井銀行に入り、爾來、同行横濱、福岡京都各支店に歴勤、更に長崎支店長代理を勤め後ち本店に歸り、文書課、業務課等を歴勤、現に同行參事として知らる、學士會々員たり。

夫人峰子は東京府の人櫻井鏡二氏の長女にして御茶ノ水高等女學校の出身、其の間に寛美君、照美君及びふさ子、しげ子、みつ子、静子等あり、現に東京府下中澁谷町榮通二ノ二番地に住す。電話青山二二〇〇番

鈴木政吉君

鈴木ヴィオリン工場主

愛知縣多額納稅者

君は我が國絃樂器製造家のオーソリティーにして、五十年間引き續き苦心研究して製作せる結果、今や獨逸、米國其の他諸外國に其の製品は販路擴大し、世界的優秀品として聲名あり。

現に米國紐育及びシカゴには瀧藤商會に輸出し、獨逸は往年三男鎮一君歸朝の際持ち歸れるグツネリユースのヴィオリンを參考として製作せられしものを再び獨逸に送つて専門大家の大好評を博して以來該製品の輸出は年と共に激増せり。大正六年樂器製作の功により綠綬褒章

を賜はり、昭和二年陸軍大演習の際長くも聖上陛下に拜謁を賜はる、現に前記の外名古屋硝子製造所長、名古屋商工會議所議員たり、長男梅雄君も亦斯界の研究に専念し、大正九年米國及び歐洲に航し、大正十五年再び獨逸及びチエツクスルパーク等に斯界の視察の爲め航し、現時は二男と共に工場を監督して聲名あり然して兄弟揃ひも揃つて絃樂器に天才と評せられ、何れも安藤幸子女史に師事し、昭和二年兄弟四氏によりて鈴木ホクワルテットを組織し同工場製作品により演奏し、昭和三年日本ビクターの赤板に吹込まれしは器樂として本邦最初の企てなりしといふ。

現に名古屋市東區東門前町五三番地にす。電話東一六三番 一一六四番

鈴木秀三郎君

名古屋毎日新聞社(株)専務取締役

大毎並に東日の傍系として中京の操觚業界に新興の勢力を張れる名古屋毎日新聞社を統宰する吾が鈴木秀三郎君は、其社の如く新進氣鋭にして潑刺の士、先代高松定一君の男なるも夙に父系の鈴木家を再興し其姓を襲へり。

君は明治二十六年六月十日を以て名古屋市に孤々の聲を擧げしが幼にして卓才夙に學を好み名古屋第一中學校を卒ゆるや第三高等學校を経て東京帝國大學法科大學に入學、政治科を専攻して孜々學窓に馳勉し大正九年之れを出づ。

斯くて直ちに外務省に入り同省囑託たりしが夙に新聞事業に志あり、大正十三年之を辭し同十五年株式會社名古屋毎日新聞社創立と共に入りて同社取締役に就任せり、然して昭和二年十二月同社専務取締役に推され、爾來拮据之が經營に任じ現に其衝に當れり。

曩に東京日々新聞社囑託たりしことあり

り、又昭和三年歐米各國に航し主として佛國に駐り具さに操觚業界を視察して歸朝せり。

君は特に語學に抽じ就中英佛獨の三ヶ國語に堪能なるは能く人の識るところ、余暇あれば讀書に費し社會哲學、文學等を研鑽するを以て娛みとなせり。

夫人を里子と謂ひ三重縣下の名家、九鬼紋十郎氏の長女にして四日市高等女學校出身の才媛、其の間に光子、萬里子、高子あり、令兄高松定一氏は名古屋商業會議所商業部長、名古屋体育協會々長として令名噴々の士たり。

現に東京市赤坂區檜町六番地に住す。電話青山六二二四番

鈴木三郎助君

昭和肥料(株)取締役社長

鈴木商店(株)社長

君は先代三郎助氏の長男にして慶應三年十二月を以て生る。夙に東都實業界に投じ、現に前掲要職にある外東信電氣、

千曲川電力各社長にして且つ大和醸造株式會社監査役たり。

尙ほ人口食糧問題調査會臨時委員たり現に東京市芝區高輪南町五九番地に住す

鈴木仙治君

鈴木商行經營者

今や鈴木式炊事臺製造販賣業並に臺所設計工事専門業として東都斯界に重きをなすを我が鈴木商行となし、其の經營者として新進の聞えあるを同行經營者鈴木仙治氏となす。

君は神奈川縣の人鈴木源次郎氏の長男にして、明治三十三年十月三日を以て生る。

大正六年築地工手學校を卒業するや父業に従事し、全九年臺所設計を専門として斯界に聲名を馳せ、特に鈴木式炊事臺は高評噴々、今や宮内省御用を仰せ付られ、且つ府立第一、第三高女に於て臺所設計に關する講和を囑託する等本邦斯界の明星を以て目せらる。

現時は都市建築研究會相談役、京橋廿地區々劃整理委員長、建築資料協會幹事等の諸職にあり。

趣味に富み就中演劇を愛好するが如し夫人を初子と呼び東京市の人長谷川房吉氏の長女、三田高女の出身たり。現に東京市芝區二本榎町二ノ二三番地に住す。電話高輪八七五番

鈴木英次君

大崎プレス工業所主

君は千葉縣の人麻生金藏氏の男にして明治廿七年四月廿四日を以て生れ、後ち鈴木家の養嗣子となる。

夙に帝都に上り慶應商業學校を経て中央大學を卒業するや實業界に投じ、帝國聯合電球株式會社に入りて敏腕を振ひ、大正五年同社を辞するや大類氏の經營する工場を譲り受けて之を大崎プレス工業所と改稱せり。

斯くて各種電球に金及諸金屬製造業並に自轉車用ベタル及び付屬品、ラヂオ部

分品等の製作に従事して斯界に業勢を張り、今や東京電氣、帝國電氣、北計電球、極東商事、惠比壽電球各株式會社を主なる取引先となし、年産額實に數十萬圓、使用人五十有余人を擁し東都斯界に重きをなす。

夫人はつ子は故大類宇一郎氏の息女にして其の間に敏子、禎子あり。現に東京市外大崎町桐ヶ各四五番地に住す、電話高輪一九二番

菅野源太郎君

蒲田自動車部經營者

君は宮城縣の人菅野朝光氏の令息にして、明治廿二年九月廿七日を以て生る。

大正三年鴻圖を抱いて上京し、直ちに現地をトして自動車運輸業を開設、爾來着々として斯界に地歩を築き上げ、今や常用トラクタ六臺、使用人十數人を擁して堂々の陣を張り、海鐵工所、東京無線、三省堂等の重なる得意を有して斯界に令名あり。趣味に魚釣あり。

夫人をはな子と呼び其の間に源一郎君及び光子あり。現に蒲田町新宿一〇五一番地に住す。電話蒲田二三番七七七番

鈴木島吉君

勳六等 日本興業銀行總裁

日佛銀行副總裁

君は鈴木瀧藏氏の長男にして慶應二年六月二十五日を以て生る。

明治二十二年慶應義塾大學を卒業するや直ちに横濱正金銀行に入り、爾來、紐育支店副支配人、天津、上海、神戸各支店及び本店等に各支配人として敏腕を振ひ、後本店總支配人を経て遂に同行取締役に推され更に同行副頭取の地位を占め尙ほ大正十二年國際信託株式會社取締役會長を勤め同十四年朝鮮銀行總裁に任せられ、小野與銀總裁逝くや其の後を續いで昭和二年十二月日本興業銀行總裁仰せ付けられ現に其の任にある外日佛銀行副總裁、中華實業銀行理事として我が財界に令名あり。

夫人菊枝子は和歌山縣士族林玄泉氏の二女、夫君の今日の地位と名望とを克ち得るに至らしめし賢夫人たり。

現に東京市麻布區本村町一一八番地に住す。電話高輪五四九四番

杉崎治三郎君

精電舎(株)取締役支配人

君は神奈川縣の出身にして、明治十九年二月八日を以て生る。

明治四十三年東京商科大學の前身たる東京高等商業學校を卒業し更に同學專攻部へ進みて同四十五年銀行科を卒業す。

斯くて神戸山本銀行に入り、大正六年横濱に於ける貿易商會として知らるゝ矢野上甲合名會社に轉勤、同五年精電舎株式會社を創立し其の設立と共に監査役に就任、昭和二年七月取締役支配人に任じ以つて現在に及ぶ。

趣味に美術、骨董、園藝、旅行等あり社交に厚く如水會、電氣俱樂部各會員たり。

夫人を芳子と稱し其の間に哲朗君及び華子、延子あり。現に神奈川縣青木町一五四九番地に住す。電話本局二九〇番

杉本正幸君

東京府農工銀行取締役支配人

君は北海道士族杉本まき氏の令息にして明治二十年七月三十日を以つて生る。

夙に中學校を卒業するや笈を帝都に負ひ苦學力行日本大學法科及び同高等專攻科を優秀の成績を以つて卒業し、明治四十四年東京市街鐵道株式會社の東京市に買収せらるゝや入りて同社電車部に勤務次いで電燈部長秘書に任ず。

斯くて大正三年辭して支那、滿鮮地方を視察見學して歸朝し後朝鮮輕便鐵道の創立に參劃、同五年三月南洋北ボルネオ殖産株式會社を創立し同社ビレッジ農場主任となり同七年七月歸朝す。

然して同年十二月東京府農工銀行に入り庶務課長に任じ、同十年一月秘書役を兼ね同十一年支配人に同十五年一月取締

役支配人に擧げられ以つて現在に及ぶ。

君は眞に苦學力行立志傳中の人と謂ふべく、著書に「最近の支那と滿鮮」「全國銀行發達史」等あり、現に東京市外代々木山谷一八五番地に住す。電話四谷一七六〇番

鈴木茂兵衛君

東京府農工銀行頭取

東京地方鹽業(株)社長

君は東京府の人先代鈴木茂兵衛氏の令弟にして、明治六年二月を以て生れ、後ち前名増四郎を改めて先代を襲名す。

夙に實業界に投じ、絹川屋と稱して肥料食鹽水油商を營み、尙ほ前記諸要職にある外朝日海陸運輸株式會社社長にして且つ共保生命、吾妻川電力、第二吾妻川電力、草津電氣鐵道、日本活動寫眞、大船田園都市、武藏電氣鐵道、三有鐵業、小田原急行鐵道、各株式會社の重役にして東京商業會議所議員たり。現に東京市芝區高輪南町に住す。電話高輪五八三九番

昭和四年九月三日增訂第三版印刷
昭和四年九月十一日增訂第三版發行

定價金參拾圓



著作兼
發行者

新田宗盛

東京市麹町區內幸町一ノ五番地
電話九段(88)四六五六番

印刷者

天井八郎

東京市神田區三崎町三ノ六五番地

印刷所

帝國時事通信社印刷部

電話九段(88)一二四九番

發行所

東京市丸ノ內
內幸町一ノ五番地

帝國時事通信社

(所本製具眞)

終